

在宅・福祉サービス事業部

新型コロナの感染下で社会セーフティネットにおけるプラットフォームの脆弱さが明らかになった。地域のセーフティネットが機能するためには、協働のプラットフォームが地域にあるか否かで危機の深さが変わることになる。今後も続くであろう感染下において危機に強い地域づくりに取り組むことは、社会福祉法人としての使命であり義務とも言える。

その最中で社会のデジタル化はあらゆる場面で進展した。そして課題も残る。福祉の現場もデジタル化は進んでいる。2020年の取り組みを受けて、福祉現場のICT化、ロボット化を更に進め、現場改革の第二段階に取り組むこと、利用者支援に立つ福祉の本質を失うことなく取り組みたい。介護報酬改定においては、CHACE（チェイス）と呼ばれる高齢者の状態やケア内容のデータベース化の本格運用が開始される。「科学的介護推進体制加算」が新設され、CHACEに全ての利用者に係るデータを提出することが求められることとなった。経験則の強い介護分野において科学的介護が求められている。今後、障害、児童、福祉全般にこの流れは広がることになる。そのために必要なあらゆるICT機器、ロボット機器を業務の中で実験し、実装することとしたい。事業部の各施設各事業においては設備等の老朽化により、買換えの時期にもあることから、取り組みの機会でもある。新たな五か年計画の歩みにおいて、業務の自動化に向かってスピード感と危機感を以て更なる取り組みを行っていく。その中で、仕事の本質を考え、自らの業務を見直し、改革すべき点を見出していく。しかし、これを行うのは「人」であり、人を育てる、人を活かす、人と分かち合うことを「共益の価値観」として位置づけ、真に利用者支援の視点に立った現場改革の第二段階に着手する。

【事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における事業部目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0時代を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる。

効率性(ジャストインタイム)から持続性(ジャストインケース)へ

【2021年事業部目標】

現場改革 secondstep

改革すべきことの本質を見極め、そして行動する。

【2021年重点目標】

1. 仕事にわくわくする

仕事の自動化に向けてICT機器、ロボット機器を実験・実装し、福祉の未来に期待と希望を以て従事できる組織を目指す。このために、2020年度に行ってきた業務の見直しをベースに現場改革を更に進め、具体的に行動計画を立て実行する。その際、現場の職員が望むこと

を重視し尊重し参画出来る仕組みの中で進めていく。

2. 欲しい情報がもらえる

提供される情報量の拡大拡散に留意し、利用者にとっても、職員にとっても正確で必要な情報が個別化され、伝達され、分かちあうことが出来る仕の組みづくりを進める。手書きによる記録の縮小、最小限の入力で共有しなければならない部署、機関と繋がるための仕組みを整えて行く。

3. 期待される役割がわかり、職員自身が充実できる

聖隷の職員数、事業所数が拡大していく中でも、自身の役割を自覚し、個人としての成長が実感できる組織でありたい。このため、目標参画システム、自己申告に基づく面接、各種別ラダーの評価、eラーニングを含む新たな研修機会の提供等、職員視点に立って役割が理解できるように仕組みを活用していく。

4. 地域（エリア）での役割を掴む

地域(エリア)の地域ニーズを掘り起こすために、エリア、事業所の主体的管理が行えるよう組織づくりを整えると共に、地域におけるあらゆる意見を取り込むことの出来る場や機会を設け地域福祉のプラットフォーム形成を目指す。特にニーズ把握において根拠に基づき、数値化、理論化出来ることを訓練する。

5. 共通する主な取り組み

- ① 介護報酬改定、障害・福祉サービス報酬改定における事業対応を行う
- ② 介護記録入力支援システム HIMVIT（ヒムビット）の本格運用
- ③ 保育業務入力支援システムコドモンの導入
- ④ ナースコールに代わる見守りシステムの導入
- ⑤ 訪問看護スケジュール管理システム ZEST（ゼスト）の導入
- ⑥ 訪問介護連絡管理システムけあピアノートの導入
- ⑦ 介護・看護職員の eラーニングの全面導入
- ⑧ 介護施設入浴設備更新に伴う負担軽減と安全性の向上への取り組み
- ⑨ 施設の老朽化設備の更新、長期的視野からの建物補修改修の重点化

（静岡第1・2・3エリア）（保育浜松・磐田エリア）

- ① 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院等の連携を深め、医療介護が連携できることを目指す
- ② 入所施設、在宅事業が連動し、医療、高齢、障害、児童の種別を問わない支援が出来ることを目指す
- ③ 静岡県立浜松学園の移譲に向けて増改築を開始し、障害を持ちながらも就労、社会に参加できる障害福祉の新たな形を創る
- ④ 浜松市において児童発達支援センターの拠点を整備し、児童の発達支援、医療ケア児

の支援を地域に広めていく

- ⑤ 浜松市天王地区において他法人との保育・療育の連携を開始する
- ⑥ 生活困窮支援事業を通して課題が明確化された生活再建支援を強化していく

(関東第1・2エリア)

- ① 横須賀愛光園の機能強化を前提に施設改修の協議・検討を継続する
- ② 新規事業の取り組みとして看護小規模多機能の開設準備を行う
- ③ 浦安せいらいの里におけるクリニック休止、医療体制の見直しを行う
- ④ 訪問看護ステーションの活動エリア、事業強化を行う

(宝塚第1・2エリア) (保育宝塚エリア)

- ① 宝塚市と協力し障害・福祉サービス事業拠点の開設に向けて協議する
- ② 宝塚市高齢者障がい者権利擁護支援センター（運営受託）の開設を行う
- ③ 結いホーム宝塚に続く新たな高齢者支援の提案をまとめる
- ④ 逆瀬川あゆみ保育園の賃貸建物の老朽化に伴う保育事業、児童館の再編について宝塚市との協議を進めていく

(淡路エリア)

- ① 淡路栄光園短期入所施設の4床増床の実施
- ② ライフサポート津名を起点にした淡路地区全体の通所介護の役割分担を行う
- ③ 聖隷こども園夢舞台の定員増に伴う経営リスクの軽減策について淡路市と協議を進める

(奄美・沖縄エリア)

- ① 沖縄エリアにおける在宅事業の意義の見直しをし、独立採算を目指す
- ② 奄美エリア施設・事業を担う人材を育成し、長期的に事業継続できる組織化を目指す

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園
和合愛光園デイサービスセンター
障害者支援施設 みるとす
障害者相談支援事業所 くすのき
生活支援ハウス やまぶき
和合愛光園和合サテライト
訪問看護ステーション住吉
聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和
地域包括支援センター和合
聖隷チャレンジ工房和合
聖隷放課後クラブはなえみ和合
聖隷トライサポート和合
浜松市中障がい者相談支援センター
聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合(仮称)

団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を踏まえ、2021 年度は浜松市においても新たに障がい福祉実施計画、第 8 期介護保険事業計画が進められていく。また同時に介護報酬改定・障害福祉等報酬改定が行われ、事業運営の環境も変化していく中、和合せいれいの里においては、それらの動きを注視し、より地域に期待される施設群であり続ける。

さらにコロナ禍においても立ち止まることなく、新たな事業として児童発達支援事業所の開所を予定し、共生型複合施設群のメリットを活かし運営していく。既存の事業においては、2020 年度に引き続き人材育成・職場環境改善・業務改革をさらに進め、テクノロジー（ロボット・AI・ICT 等）の導入活用も推進し、次世代型福祉施設としての基盤づくりを進めていく。

【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する
2. 職場環境改善・業務改善を進めることでサービスの質も高める
3. 共生社会実現のための連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する
4. 新たな役割を担い、成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する
5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす

6. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム和合愛光園・和合愛光園和合サテライト

- ①with コロナ、面会等制限下での利用者ストレス軽減対策(リモート・買い物代行等)
- ②フロア業務の洗い出しと標準化を進め、フロア間協力体制を強化する
- ③入居待機者確保のため各機関への営業活動推進、計画的な営業活動
- ④緊急・障害者ショートステイの継続受け入れ、更に医療的ケア児の受け入れを進める
- ⑤医療の選択に対する利用者・家族の意思決定支援

(イ) 和合愛光園デイサービスセンター・聖隷トライサポート和合

- ①利用者情報共有を進め、利用者ニーズに適したケア体制をつくる
- ②利用者の「できる」に着目し維持できる活動と個別対応の強化
- ③共生型サービス機能訓練終了後の対応として生活介護の導入
- ④センター機能での専門職支援体制の強化推進
- ⑤ケアスタッフとドライバーが効率的に業務を行える
- ⑥通所事業に栄養ケアマネジメントの導入を進める

(ウ) 障害者支援施設 みるとす

- ①「みるとす」（施設入所支援生活介護第1単位）
利用者を理解し、ケア・業務根拠に基づく支援の実施
児童受入れ・緊急受け入れ体制を整備し、地域に求められる地域拠点施設となる
- ②「みるとす」（生活介護第2単位）あすなろ
利用者個々の特性を理解し、目的に沿った支援が提供できる
各職員の質の向上と働きやすい職場環境(チームケア・コミュニケーション)

(エ) 障害者相談支援事業所 くすのき

- ①医療的ケアの必要な方が福祉サービスに繋がる環境を整える
- ②職員体制を整え、多くの障害者・児を福祉サービスへ繋げていく(新規利用者 30 件増)

(オ) 聖隷チャレンジ工房和合

- ①就労移行支援事業所として支援体制を強化し、就職者 6 名の輩出
- ②就労継続支援 B 型事業の就労訓練サービス「やりがいアップ」の仕組み作り
- ③就労継続支援 A 型定員 5 名増での業務創出
- ④聖隷キッチン和合の新たな販売の仕組み作り

(カ) 聖隷放課後クラブはなえみ和合

- ①個別性を重視した支援のため、家族との情報共有の機会を作る
- ②聖隷トライサポート和合と連携し、はなえみ体操クラブの実施
- ③業務の全体像を明確にし、効率化・業務分散をすすめる

(キ) 生活支援ハウス やまぶき

- ①特別養護老人ホーム職員との協力体制での運営を図る

(ク) 聖隷ヘルパーセンター

- ①新たな有償サービスの検討

- ②訪問介護支援システム(ケアピアノート)の導入と活用で業務の効率化を図る
- (ケ) 訪問看護ステーション住吉
 - ①障がいサービス事業所との利用者アセスメント共有から必要なサービスに繋げる
 - ②児童発達支援事業所と訪問看護の連携を図り利用者を共に支える体制づくり
 - ③聖隷トライサポート和合との連携を継続し、切れ目のないサービス提供
- (コ) 聖隷ケアプランセンター和
 - ①聖隷3病院、市内病院との連携を継続しスムーズな在宅支援に繋げる
- (サ) 地域包括支援センター和合
 - ①地域包括ケアシステム深化のため地域ネットワークを強化、連携を深める
 - ②相談員ラダーを活用し相談員としてのスキルアップを図る
- (シ) 浜松市中障がい者相談支援センター
 - ①中エリア内の地域課題について取り組み、自立支援協議会への上申を進める
 - ②地域や関係機関への周知と連携強化
- (ス) 聖隷こども児童発達支援事業所かるみあ和合(仮称)
 - ①児童発達支援事業所開設と利用者受け入れ
 - ②児童発達支援センター機能への計画と準備
- 2. 職場環境改善・業務改善を進めることでサービスの質も高める
 - (ア) 利用者環境・職場環境のチェック・改善の継続的取り組み
 - (イ) 介護テクノロジー(ロボット・AI等)の導入を推進し、介護業務の全自動化を意識した次世代型施設の基盤づくりを進める
 - (ウ) 新たな訪問介護・栄養管理システム導入と介護関連データベースCHASEへの参画
 - (エ) システム等を活用した効率的な送迎の実現のため、事業毎の送迎体制の見直しを行う
- 3. 共生社会実現のための連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する
 - (ア) 総合的課題へ対応できる相談窓口への取り組み
 - (イ) コロナ禍における高齢者・障害者・こどもの交流をすすめ、全世代の支え合い体制
 - (ウ) 和合せいれいの里連携体制での児童発達支援事業所開設とセンター化検討
- 4. 新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する
 - (ア) 介護職・施設看護職へのeラーニングの導入
 - (イ) ケアサポーターの役割の明確化と体制の再調整及び、就労継続支援A型事業の新たな訓練メニュー導入
 - (ウ) EPA介護福祉士候補生及び無資格新人職員育成計画の策定と計画に沿った教育の実施
- 5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす
 - (ア) 定期的な防災訓練実施と訓練内容見直し、年2回の防犯想定訓練を実施する
 - (イ) 静岡県災害派遣福祉チーム登録要員の増員と福祉避難所としてのBCPマニュアルの再整備
- 6. 地域における公益的な取組
 - (ア) 聖隷キッチン和合の学習支援事業への弁当配食・困窮家庭への食を介しての支援継続
 - (イ) 介護保険利用者負担軽減制度の実施
 - (ウ) 専門職としての技術・情報を地域へ出向き提供する
 - (エ) 河川里親制度に登録を継続し隣接河川の環境美化活動

(オ) 小中学校の福祉施設職業体験等、積極的に受け入れ

【数値指標】

■高齢者入所・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			やまぶき 生活支援ハウス
	特養入所		短期 従来型 (障害)		通所介護			
	従来型	ユニット型			一般型 介護	予防	認知症 対応型	
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名		12名	5名
利用者延数	22,119名	14,308名	6,752名	10,402名	8,321名	837名	2,710名	730名
一日平均利用者数	60.6名	39.2名	18.5名	28.5名	26.8名	2.7名	9.5名	2.0名
稼働率	97.7%	98.5%	92.5%	98.3%	59.1%		79.1%	40.0%
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	310日		310日	365日
単価(一人一日)	12,888円	14,600円	12,382円	14,601円	10,799円		13,799円	10,290円
サービス活動収益	285,074 千円	208,899 千円	83,605 千円	151,884 千円	98,900 千円		37,394 千円	7,512 千円
正職常勤換算数	36.7名	24.9名	9.6名	13.6名	8.0名		2.8名	0.2名
パート常勤換算数	6.5名	3.7名	0.8名	5.8名	11.4名		4.2名	1.2名

■障害者入所・通所・相談関係事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	中障がい者 相談支援 センター
	介護 予防	共生型 機能訓練	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所		
利用者定員	40名		20名	20名	2名	—	—
利用者延数	10,165名	1,807名	7,130名	6,082名	912.5名	—	—
一日平均利用者数	32.9名	5.8名	19.5名	20.3名	2.5名	—	—
稼働率	64.6%		97.7%	101.7%	125.0%	—	—
稼働延日数	309日		365日	299日	365日	—	—
単価(一人一日)	6,647円		18,357円	14,625円	10,206円	—	—
サービス活動収益	79,582千円		130,882 千円	88,950 千円	9,313 千円	23,987 千円	43,634 千円
正職常勤換算数	9.0名		13.2名	7.0名	—	3.0名	4.0名
パート常勤換算数	7.4名		6.0名	8.3名	—	1.3名	※3.0名

※他法人出向受入

■就労支援事業・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				はなえみ和合		かるみあ 和合(仮)
	就労 移行	就労 継続 B	就労 継続 A	就労 定着	学校日	休校日	児童発達 支援
利 用 定 員	10 名	15 名	15 名	—	20 名		10 名
利用者述べ人数	2,690 名	4,035 名	3,050 名	90 名	3,752 名	703 名	1,284 名
一日平均利用者数	10.0 名	15.0 名	12.7 名	—	18.5 名		7.0 名
稼働率	100.0%	100.0%	84.4%	—	92.4%		69.8%
稼働日数(延べ)	269 日	269 日	241 日	—	203 日	38 日	184 日
単価(一人一日当り)	10,149 円	10,354 円	18,475 円	—	10,495 円		12,166 円
サービス活動収益	27,302 千円	41,779 千円	56,349 千円	2,576 千円	46,754 千円		15,621 千円
正職常勤換算数	7.5 名				7.0 名		3.9 名
パート常勤換算数	19.8 名(うち、A型利用者 10.1 名)				3.7 名		0.6 名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ス テーション 住吉	平均 利用者数	月訪問 件数		年訪問 件数		単価		サービ ス活 動収 益	常勤換算 職員数
	203.7 名	1,046 件		12,549 件		10,212 円			
聖隷 ヘルパー センター	介護給付			予防給付		単価		サービ ス活 動収 益	常勤換算 職員数
	平均利 用者数	訪問件数		利用者		介護 (時間)	予防 (時間)		
		月間	年間	月間	年間				
67.9 名	733 件	8,799 件	33.4 名	401 名	4,425 円	3,500 円	63,595 千円	9.1 名	
聖隷 ケアプラン センター和	年間請求件数			平均単価			サービ ス活 動収 益	常勤換算 職員数	
	介護	予防	予防 A	介護	予防	総合 A			
	2,280 件	216 件	120 件	17,912 円	4,057 円	4,057 円			44,967 千円
地域包括支 援センター 和合	浜松市受託収入		予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービ ス活 動収 益	常勤換算 職員数		
	31,220 千円		3,898 件	3,070 件	4,400 円				
	日常生活支援総合事業の予防プラン								
	種別	ケアマネジ メント 請求件数		うち 再委託件数	ケアマネジ メント プラン単価				
	ケアマネジ メント A	2,835 件		2,145 件	4,400 円				
	ケアマネジ メント B	192 件		60 件	2,256 円				
ケアマネジ メント C	45 件		0 件	2,195 円	61,377 千円	7.9 名			

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト

聖隷デイサービスセンター初生

2021年は、新型コロナウイルス等「自然災害との対峙・共存」しつつ、「科学的介護の推進」に大きく舵を切った介護報酬改定をふまえて、私たち自身が、介護サービスは「新しい生活様式」の中でも、要援護者にとって必要不可欠な「科学的根拠を持った生活支援サービス」であることを意識し、各事業に取り組んでいく必要がある。それは、「安心安全で必要不可欠なサービス」として、各事業が継続できるための組織を、改めて拠点として構築していくことに他ならない。

当センターは、地域においては小さな拠点であるが、大きな期待を受けて一人一人の職員が、事業を継続していくことへの責任を意識し、担い手として積極的にサービスの質の向上に貢献できるよう取り組みを進めていく。世代等に応じた多様な働き方、多様な役割、価値観を踏まえ、各々が目標をもってスキルアップし、全ての人にとって「笑顔があふれ、人が集う場所」となることを2021年も目指していきたい。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【経営方針】

1. 事業所全体の危機管理意識を高め、どのような状況下でも、安心して利用継続できるサービス提供体制を再構築する。
2. センター全体で「自立支援ケア」「重度化防止」の実践に確実に取り組み、エビデンスに基づく科学的介護を推進する姿勢で、利用者の生きがいを支援する。
3. センター全体で、要援護利用者の意思決定を常に支援し、「看取りケア」「認知症ケア」の質を高め、人生の最期まで望む生活が実現できるよう取り組む。
4. 職員ひとりひとりの成長を促し、世代や役割に応じたやりがいと成果を実感できる経営を行う。

【事業・運営計画】

1. いかなる時も事業が継続できるように、個々の職員の防災力を高め、予防的対策、発生時対策、発生後対策が滞りなく実施できる、事業継続マネジメントの仕組みを整え日々の実践に活かす。
 - (ア) 2020年度の経験を踏まえ、迅速な感染症対応ができるようにさらに仕組みを整える。
 - (イ) 自然災害に対する情報感度を高め、迅速に対応できるようにさらに仕組みを整える。
 - (ウ) 地域と、非常時の相互支援体制が構築できるように、運営推進会議等を活用していく。
2. 「自立支援ケア」「重度化防止」を確実に実践し、最期まで利用者の生きがいを支援する。
 - (ア) 通所介護利用者本人の意思に基づいた様々な活動への参加を支援する。
 - ① Barthel Indexによる評価を確実にを行い、利用者の「心身機能の維持向上」に努める。
 - ② 通所利用目的を常に意識し、社会的自立支援として、国際生活機能分類の概念に基づいて「利用者が求める活動」を明らかにし、本人の可能性を引き出すことでそれぞれの「社会参加」を実現する。

- ③ 介護士、セラピスト、看護師が共同で、必要でかつ効果的な機能訓練、口腔ケア、栄養ケアに負荷なく取り組めるよう、早急に情報通信技術を再構築する。
- (イ) 小規模特養入居者本人の意思、本来の姿に沿った生活を実現し、重度化を防止する。
 - ① 介護士が、看護師、管理栄養士、セラピスト等専門職と積極的に共同し、より質の高い口腔、栄養、排せつのケアに取り組めるよう、ヒト、モノの環境を整備する。
 - ② 入居者、職員が、不安なく過ごせるように介護ロボットや見守りシステム等導入し、介護分野の情報通信技術化をさらに進める。
 - ③ 穏やかな終末期を迎えるために利用者本人、家族と「人生会議」を行い、意向に沿ったケアが実現できるように、職員に対して、年間通じて効果的な研修を実施する。(もしバナゲームの活用)
- 3. 通所介護、小規模特養それぞれにおいて「認知症ケア」の質を高め、利用者の意思決定を支援し、望む生活の実現に取り組む。
 - (ア) ケアセンター全体で、認知症の利用者とのコミュニケーションスキルを高める。
 - ① 全職員が「ユマニチュード」のケア技法を身につける。
 - ② 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」をふまえ、認知症利用者との「会話」を取り戻し、「想い」を理解する。
 - (イ) 通所介護における認知症利用者の対応力を向上させる。
 - ① 積極的に外部の研修、実習等の機会を得る。認知症初任者・実践者研修の受講を進める。
 - ② 居場所づくり、プログラムの開発をすすめる。
 - (ウ) 小規模特養入居者における認知症利用者への対応力を向上させる。
 - ① 認知症実践者研修、リーダー研修の受講を積極的に進め認知症ケア加算算定を目指す。
 - ② 個々の利用者の日常生活の活性化のため、デイサービスで導入済みの生活総合機能改善機器「フリーダム」をフロアに導入する。
- 4. サービス・プロフィット・チューンの概念を活かした事業所づくりを今年もすすめる。
 - (ア) 人が自然と集まり、成果が実感できる組織づくり(自然と笑顔が生まれる組織作りをさらに目指す)
 - ① 職員の満足度を上げるために、業務改善(先端技術の活用)、労働環境改善を引き続きすすめる。
 - ② e-ラーニングを導入し、全職員が介護に必要な知識と技術を学べるように環境を整える。
 - ③ WEBセミナーを活用し、それぞれの職員の興味に沿った研修が受講できるよう環境を整える。
 - (イ) 個々の職員が、能力、特性を活かし、制度枠にとどまらない事業提案をできる組織になる。
- 5. 地域における公益的な取組
 - (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを常に念頭に、地域防災拠点としての組織作りに取り組む。

【数値指標】

	和合愛光園初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利用者定員	29人	50人	(50人)
利用延数	10,512人	10,780.0人	276人
一日平均利用者数	28.8人	35.0人	5.8人
稼働率(%)	99.3%	81.6%	
稼働延日数	365日	308日	
平均介護度	3.81	1.8	—
単価	14,500/日	9,600円/回	33,500/月
サービス活動収益(千円)	152,431(千円)	112,676(千円)	
職員数(正職)	14.7人	5.6人	
職員数(パート)	5.3人	16.7人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ I N高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

【事業・運営計画】

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携を図り、センター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘はリハビリテーション強化型ステーションとして内外に発信し続けると共に、事業団内の浜松地区訪問看護ステーションの基幹的役割がはたせるようになる。また、予防の段階から効果的なリハビリを行うことにより、利用者の自立を促す
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ I N高丘はリハビリテーションに特化したデイサービスとして地域に根ざすとともに、介護予防や障がいをもった方にもアプローチできるデイサービスを目指す
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は様々な相談に対応するとともに、地域課題を抽出し、センター内外に向けて情報を発信、地域づくりをすすめる
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づいたケアマネジメントをチームとして実践できる力を高めるとともに、複雑化・多様化しているニーズを早期に把握し対応していく
 - (オ) センター内の事業所が、日常業務の中から課題を発見し、解決に繋げる
 - (カ) 高丘拠点のそれぞれの事業所が日々の実践や成果を高丘ケアセンター学会で発表する
2. 感染予防に留意し、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築する
 - (ア) 業務の効率化、業務負担の軽減を目指し、「質の高い」情報共有ができることを目的に、ICT化をすすめる委員会を立ち上げる
 - (イ) センター内で定期的な勉強会、マニュアルの見直しを行い、職員個々がリスク管理を徹底する
 - (ウ) 非常事態に備え、センターにおけるBCPを作成し地域と連携した対応を強化する
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域に開かれた施設運営をする
(ロコモーショントレーニング事業の継続、高丘センター祭り)
 - (イ) 地域行事（防災訓練等）・学校行事に参加する
 - (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行なう

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤換算）
214 人	1105 件	13,270 件	9266 円	12,375 千円	15.6 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N高丘）

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 （月）	予防 （月）		
25.7 名	662.1 名	7,945 名	76.7 名	920 名	6,105 円	31,977 円	80,743 千 円	11.7 名

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）		
41,470 千円	3,144 件	2,412 件	4,400 円			65,296 千円	7.7 名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	65,296 千円	7.7 名		
ケアマネジメント A	2,072 件	1,294 件	4,400 円				
ケアマネジメント B	274 件	0 件	3,195 円				
ケアマネジメント C	0 件	0 件	2,195 円				

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,684 件	480 件	15,900 円	4,000 円	12 件	4,400 円	45,668 千円	6.8 名

訪問看護ステーション住吉第二

2021年度訪問看護ステーション住吉第二は、各地区の特性（高齢、独居、核家族化）から、医療的ケア度の高い在宅療養、外来通院の患者の抱える様々なニーズに答えるため、シームレスな支援に取り組んでいく

【施設理念】

利用者の家族に寄り添い、利用者を主人公として自己決定を支援する

【経営方針】

1. 聖隷浜松病院や地域サービスと連携し、利用者への早期介入を行い、シームレスな看護サービスを提供する
2. スタッフの得意分野を具体化して共有し、ニーズの高い疾患の探求学習をすることで利用者の希望に沿える支援ができる職場を作る

【事業・運営計画】

1. 聖隷浜松病院に密着したステーションとして、利用者への早期介入を行うことでシームレスな看護サービスを提供する
 - (ア) 入院中から早期に退院支援を行い、顔の見える関係をつくり安心して退院ができる
 - (イ) 外来患者は受診時から同席介入し、医師看護師と連携を深める
 - (ウ) 医療ケアがなくてもニーズのある患者家族に訪問看護の役割や介入法を具体的に伝える
例；相談できる場所の設置もしくは出張訪問看護師として院内に在住
2. スタッフの得意分野を具体化して共有し、ニーズの高い疾患の探求学習をすることで利用者の思いに沿える支援を行う職場を作る
 - (ア) 中途採用者にはプログラムに沿った振り返りを行う
 - (イ) 職種別ラダーの継続（定期的なナーシングスキルの勉強会）
 - (ウ) 年1回の研修参加・業務内で研修に参加し共有する
 - (エ) 精神・神経難病・認知症のグループで勉強会や事例検討会を行う
3. 住吉交友会との定期的な交流と地域行事の参加
 - (ア) スタッフだれもが参加できるマニュアルの整備
 - (イ) 地域ニーズに沿った健康講和の開催
 - (ウ) 地域防災訓練の参加
4. 聖隷浜松病院ひばり保育園との連携の継続
 - (ア) 毎月の情報共有（交通安全・感染症等）
 - (イ) 年2回の訓練参加（防災訓練・不審者対応訓練）

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年間訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
131人	680件	8,169件	9625円	78,857千円	12人(9.1)

聖隷コミュニティケアセンター

1. 障がい者就労支援事業との連携強化

(ア) 浜松学園と連携をとり、就労作業メニューの構築と仕組み作りを行う

①浜松学園内に売店の運営を開始する仕組み作りに参画。

②浜松市リハビリテーション病院店の施設外就労が行える環境整備

③コミュニティケアセンター向け介護ベッド卸事業が開始できるまでの仕組み作りの参画

(イ) 施設向け車いすレンタル・マットレスレンタルが拡大し、就労支援事業所が管理、メンテナンスの混乱を招かぬよう営業面を補助し運用についても共有していく。

2. 店舗販売の変革

(ア) 浜松市リハビリテーション病院店の運用を業務委託から直接運営へ切替える。POS レジを導入し、売上分析と在庫管理を行い店舗運営の見直しを行う。

浜松学園の売店に対して卸業も担う。また、就労支援事業所の施設外就労先として、売店での接客、商品管理といった働く訓練の場を提供していく事で新たな価値を作る。

(イ) キャッシュレス決済の導入と仕組み作り。店舗ではクレジットカード決済の導入が始まり、その効果を分析する。

(ウ) 浜松学園の入居者に向け新たにフェリカカードを導入しキャッシュレス決済の検証を行う。フェリカカード決済を検証した上で、施設入居者向けの異動販売事業の仕組み作り。

3. 業務改善と働きやすい職場環境作り

(ア) 貸与業務支援ソフトで電子署名の活用やサービス担当者会議、選定相談書を管理しペーパーレス化を進める。点検モニタリングの作業を標準化させマニュアルを整備する。

(イ) 事務職員の役割を整理し業務の見直しを行う。営業職員と事務職員の連携を強化。

(ウ) 休暇について計画的にスケジュール調整を行い、有給消化率を上げる。

(エ) 効果的、効率的に業務を遂行できるよう、ムリ・ムラ・ムダを定期的にチェックする。

4. チーム活動を活性化させ組織力を向上させる

(ア) 職場内のチームを再編成しリーダーのマネジメント力を育成する。

(イ) リーダーを中心とし年間計画を立案し内部研修を充実させ、専門知識の底上げを行う。

(ウ) 聖隷居宅事業所と関係構築を維持し、平均紹介率 70%をめざす。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 聖隷の在宅サービス事業所、行政が行う地域に向けた取組みに協賛していく。

【2021 事業収益：数値指標】

	レンタル件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
コミュニティケアセンター	13,180 件	166,758 千円	283,842 千円	15,750 千円	466,350 千円	30.4 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

【事業計画】

1. 地域における公益的な取組

- (ア) 生活困窮世帯のうち、緊急一時的もしくは支援上『食の支援』が必要な世帯へ食材・食事の提供ができる仕組みを検討・実施する。
- (イ) 住居を失う恐れのある世帯が新たな仕事と住居が見つかるまでの間、一定期間住居を提供し就労支援・家計支援ができる体制・仕組みを検討・実施する。

2. 学習サポートおよびキャリア形成支援

- (ア) 本部教室にて、将来を描き、将来の目標を達成するための学力及び社会性を身に着けるため、中学1年生から学生の受け入れを開始する。
- (イ) 学習支援卒業生を対象に高校定着・退学防止のために必要な支援を具体化し実施する。
- (ウ) キャリア形成支援の一環として「就労体験」を実施する。
- (エ) 教室に通えない生徒への訪問型・通信型の学習支援を実施する。

3. 就労支援および就労準備支援

- (ア) 就労支援対象者のうち、年間120名を就職につなげる。
- (イ) 就職希望者のうち、就職率80%、6ヶ月定着率70%を目指す。
- (ウ) 就労準備支援事業の対象者を年間15名とする。
- (エ) 協力企業を活用し中間的就労や職場体験を実施する。

4. 地域との連携強化・充実

- (ア) 各地区の民生・児童委員会定例会に参加し、事例に関する情報共有を積極的に実施する。
- (イ) 各地区の民生・児童委員会において、生活困窮事例の発掘を実施する。
- (ウ) 支援開始時から民生・児童委員や関係機関等と支援方針を検討し、地域支援体制を検討・実施する。

【数値指標】

	つながり			学習サポート事業
	生活困窮者自立支援事業	学習支援事業	ホームレス巡回支援事業	
サービス活動収益 (千円)	55,184千円	4,387千円	360千円	-千円
職員数 (常勤換算)	12.2名			3.3名

聖隷厚生園 信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2021年も引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、コロナ禍でも利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指す。

聖隷厚生園信生寮では、コロナ禍で活動自粛にご協力いただいている利用者に対して廃用性による身体機能の低下を予防するとともに、利用者が生活の中で楽しみを見出せる支援を行う。また働く職員の身体的精神的負担が軽減できるように、ノーリフトケアや業務効率化の推進を継続し、多様な人材が長く働ける職場づくりをする。

在宅部門においては、引き続き聖隷三方原病院との連携による退院時支援や介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域の多様なニーズに対応できる事業運営を目指す。

また全体としては、テレビ会議の推進、eラーニングを活用したWEB研修やスケジュール管理ソフトの導入など、ICT活用による業務効率化を推進させる。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者の尊厳を守り、入所者・通所者の重度化・高齢化を踏まえた支援を行う
2. 地域課題の解決に向けた取り組み
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造
4. 介護人材の確保と育成の取り組み
5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者の尊厳を守り、入所・通所者の重度化・高齢化を踏まえた支援を行う
 - (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で実行する。
 - (イ) 入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、かたちのある食べ物を口から食べる楽しみを多職種で支援する。
 - (ウ) 排泄介助では利用者が心地よくかつ効率的に介助できる新たな方法を提案・実行する。
 - (エ) 虐待防止セルフチェック表を年2回実施するとともに、虐待防止委員会では外部評価者を交えて接遇のあり方を客観的に評価し、利用者の尊厳を守る環境を作る。

(オ)感染予防に配慮して、利用者が施設の中で楽しめる新しいかたちのイベントを企画する。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

(ア)訪問看護ステーション細江では、意思決定支援をさらに強化させながら、聖隷三方原病院との連携によるターミナルケアの受け入れを積極的に行う。また特定行為看護師研修に参加し、新たなニーズに対応できる準備を行う。

(イ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、障がい者へのサービス導入をすすめながら、介護保険においては浜松市北区のサービスが不足している地域へのシェア拡大に努める。

(ウ)聖隷ケアプランセンター細江では聖隷三方原病院の病棟カンファレンスに参加して、入退院時の情報交換に努め、ターミナルや医療依存度の高い利用者への対応を強化する。

(エ)在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、各支援者が支援困難ケースを通じて実質的な連携を行い、課題解決をする。

(オ)浜松市基幹相談支援センターの緊急一時入所の要請に応え、地域の虐待防止に貢献する。

(カ)西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画をしっかりと提案する。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

(ア)ノーリフトケアについては、理学療法士等から専門的アドバイスを受け、利用者や職員にとってより良い方法を見出し充実させる。

(イ)常に新しい介護機器等の情報を収集し、新しい支援方法を考え、実践に移す。

(ウ)新型コロナウイルス等の感染症拡大の予防及び発生時マニュアルの整備、定期的な研修会等の実施に加えて訓練（シミュレーション）を行い、発生時に備える。

(エ)セルフケア、ラインケアの研修を行い、職員のメンタルヘルスケアの充実にも努める。

(オ)テレビ会議、eラーニング等を活用したWEB研修、訪問看護のスケジュール自動作成システム、訪問介護の介護記録ツールの導入等 ICT の活用による業務効率化を図る。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

(ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員のできることを引き出す人材育成を行う。

(イ)法人本部人事企画部と連携し、EPA介護福祉士候補生の就業・学習支援を強化する。

(ウ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護人材の育成に貢献する。

(エ)ナルド工房と連携し、障がいをもつ方がやりがいをもって介護の仕事をしてもらえるように障がい者雇用、就労継続支援の受け入れを積極的に行う。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

(ア)大規模災害への対応ができるように、災害時におけるマニュアルを周知し、定期的に訓練を行う。

(イ)地域の要請に応じて、新型コロナウイルス感染施設への応援職員を派遣する。

【数値指標】

■障害者入所・通所事業

	信生寮			まじわりの家	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練
利用者定員	60名	10名	-	14名	6名
利用者延べ人数	22,033名	3,775名	3,414時間	4,163名	1,300名
一日平均利用者数	60.4名	10.3名	-	16.2名	5.1名
稼働率	100.6%	103.4%	-	115.7%	84.3%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	257日	257日
単価(一人一日当り)	20,575円	10,798円	-	16,433円	10,215円
サービス活動収益(千円)	386,936千円	38,347千円	2,742千円	83,117千円	
職員数(常勤換算)	59.3名			14.7名	

■訪問・居宅介護支援事業

訪問看護 ステーション細江	平均 利用者数	月間 訪問件数		年間 訪問件数		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数
	195.3名	980件		11,755件		9,950円		118,696 千円	17.6名
聖隷ヘルパー センター浜松北	介護給付			予防給付		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護 (時間)	予防 (月)		
		月間	年間	月間	年間				
46.8 名	418 件	5,010 件	40.0 名	480 名	4,370 円	18,600 円	51,078 千円	5.9名	
聖隷ケアプラン センター細江	年間請求件数		平均単価		ケアタイム(三方原)		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	介護	予防	介護	予防	月件数	月額			
	1,920件	360件	16,162円	3,960円	8件	84,000 円	34,082 千円	5.7名	

聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド
障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ

新型コロナウイルスの影響により障がいのある利用者も制限ある生活を余儀なくされている。その中でも精神安定を目的に活動の場を減らすことなく「新しい生活様式」を基本に施設と在宅福祉サービスが協働し、安定した生活を送れるよう支援していく。

讃栄寮では全国救護施設協議会の推進する「①サービスの質の向上」「②利用者のニーズに応じた地域生活移行や他施設移行」を進め、生活困窮者受入など関係機関と連携し、循環型施設の役割を果たす。

通所・相談支援事業は地域生活で困っている利用者にも幅広く対応する為、訪問看護事業所や居宅介護事業所、障がい者相談支援センターなどと情報共有を継続していく。また、サービスの質の向上を図るための人材育成に取り組む。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために

一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者と職員の間を深め、利用者が「主人公」となる支援の実施
2. 年齢・心身状況に応じた移行支援と地域ニーズに対応した新規入所受入
3. 利用者の人権を尊重した支援・施設サービスの質の向上
4. 障がい者がサービスを効果的に活用できる地域生活支援の実施
5. 公益的活動における地域貢献など

【事業・運営計画】

1. 利用者と職員の間を深め、本人が「主人公」となる支援の実施
 - (ア)利用者や職員が一緒に楽しみなどを感じる行事・企画を実施し関係性を深める
 - (イ)利用者が考えている事に常に疑問を持ち、会話や行動から求めているニーズを察した個別支援計画を作成し、実施する
 - (ウ)作業療法士と連携し、日常的な活動内容の強化により運動機能低下の予防に取り組む
2. 年齢・心身状況に応じた移行支援と地域ニーズに対応した新規入所受入
 - (ア)居宅生活訓練事業における年間3名の地域移行支援を実施する
 - (イ)65歳以上の方には高齢者施設、身体上の日常生活動作に課題がある方には障害者支援施設への移行を利用者の意向等を踏まえて進める
 - (ウ)関係行政や病院、浜松市障がい者基幹相談支援センター、浜松市生活自立相談支援センターつながり等と連携し、地域生活が困難な方の新規・緊急一時入所の受入れを行う
3. 利用者の人権を尊重した支援・施設サービスの質の向上
 - (ア)福祉サービス第三者評価受審内容の改善に取り組む

- (イ)利用者満足度調査の実施と課題改善に取り組む
 - (ウ)虐待防止委員会により利用者虐待を正しく学び、人権を尊重した支援を実施する
4. 障がい者がサービスを効果的に活用できる地域生活支援の実施
- (ア)計画相談支援では新規利用相談を断ることがないよう、受入体制の強化を図り積極的に受入れをしていく
 - (イ)地域で暮らす障がいのある方に訪問看護や訪問介護などの早期導入を提案し安定した地域生活を支援する
 - (ウ)生活訓練では活動の場などで困っている精神科や発達障害などの利用者を積極的に受入れことができるよう障がい特性の理解や技術の向上に取り組む
 - (エ)福祉共同住宅ファーストステップは1床増床し、在宅福祉サービス事業所と連携し利用者を中心とした生活支援を行なう
5. 公益的活動における地域貢献等
- (ア)新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、積極的に実習生の受入れをしていく
 - (イ)教育機関や地域からの福祉理解に関する講師派遣等を行う

【数値指標】

	讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所(総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	23,725名	2,920名	1,095名
一日平均利用者数	65.0名	8.0名	3.0名
稼働率	108.3%	80.0%	75.0%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日
単価(一人一日当り)	10,450円	5,051円	6,383円
サービス活動収益	264,132千円		6,989千円
職員数(常勤換算)	31.2名		

	生活訓練事業所ナルド		ナルド	ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	指定相談支援	共同生活援助
利用者定員	10名	10名	-名	11名
利用者延べ人数	2,489名	2,535名	-名	2,937名
一日平均利用者数	9.7名	9.9名	-名	8.0名
稼働率	96.8%	98.6%	-%	73.2%
稼働日数(延べ)	257日	257日	-日	365日
単価(一人一日当り)	8,901円	7,015円	-円	3,891円
サービス活動収益	22,173千円	18,084千円	43,202千円	15,042千円
職員数(常勤換算)	4.8名		5.7名	2.8名

聖隷厚生園ナルド工房

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により施設内作業が影響を受けたものの、利用者に社会の一員であることを体感してもらうことを目標に、利用者と地域の方のためのマスク作りや施設外への実践的な就労機会を増やし、介護人材のサポート業務の範囲を拡大することができた。

2021年度は終息の見えない新型コロナウイルスの脅威の中でも利用者が、就労を通じて地域の中で活躍することができるように“社会情勢の変化に柔軟に対応しながら仕事を提供し続ける”ことを実践していく1年としたい。

また、利用者が心身ともに健康な生活ができるように、厚生園内をはじめとした相談支援事業所や在宅サービス事業所と多職種連携し、利用者の生活を支える支援を実践していく。

【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます

【経営方針】

1. 利用者が地域と接点を持ちながら活躍できる場所の提供
2. 利用者を支える多職種・関連機関との連携と顔の見える関係作り
3. 職員の役割分担と人材育成体制の整備
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者が地域と接点を持ちながら活躍できる場所の提供
 - (ア) 就労継続支援A型では介護補助作業の範囲を広げ、多くの利用者が実践的な仕事の経験ができる場を提供する。また、就労移行支援、就労継続支援B型も含めて介護補助業務に興味のある方に介護職員初任者研修の受講提案とサポートを実施する
 - (イ) 菓子販売では感染予防対策を利用者と一緒に考え、予約や注文販売を中心としながら、利用者がお客様や地域と接する機会を継続的に持てる取り組みを行う
 - (ウ) 仕事の成果と日々の目標達成状況を利用者にフィードバックし、利用者の作業への参加意欲と生産性の向上を意識した支援を行うことで、利用者自身が個々の賃金・工賃向上に取り組むことができるよう支援をする。また、感染予防対策について利用者自身が考え、実践できるように作業担当ごとにグループワークを実施する
 - (エ) 就労移行支援、就労継続支援B型の新規作業として名刺・ICカード印刷作業を開始する。事務作業の導入により、利用者の働く機会を増やし、身体障がい者への就労機会の提供に向けた取り組みを行う
 - (オ) 就労移行支援のグループワークにおいてソーシャルスキルズトレーニングや企業見学、実習を計画的に企画し、就職へのイメージ作りや明確な目標設定により利用者の就職へのスキルアップに結び付く支援を行う

2. 利用者を支える多職種・関連機関との連携と顔の見える関係作り

- (ア) 相談支援事業所ナルド、生活訓練事業所ナルド、訪問看護ステーション細江、聖隷ヘルパーセンター浜松北との事例検討会やモニタリングの場に作業担当職員も参加し、他サービスの理解を深め、日々の状況を共有しやすいように顔の見える関係作りを行う
- (イ) 就労定着支援では、ICT等の活用を提案し、利用者、企業担当者を交えた定期的な支援会議を行い、相互理解を深め、3年定着を目指した支援を実践する。3年定着後は必要に応じて障がい者就業・生活支援センターへつなぎアフターフォローができるように関係作りを行う
- (ウ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を活用し、利用者が働くうえでのアピールポイントや必要な配慮について利用者と職員が一緒に考え作成し、職員同士や支援機関との円滑な情報共有を図る
- (エ) 2021年度新設の浜松みをつくし特別支援学校からの実習を計画的に受け入れ、卒業後の進路先として選択されるように生徒や保護者、学校との情報交換を定期的に行う

3. 職員の役割分担と人材育成体制の整備

- (ア) 職員の役割分担を明確にして個々の業務負担の整理を行い、ICT等の活用をしながら業務の効率化を図る
- (イ) 利用者の障がい特性の理解や職業指導スキル向上、感染症対策のための勉強会、研修会に参加する
- (ウ) 虐待防止セルフチェックを年2回実施する。結果を職員間で分析し、利用者への関わりを定期的に振り返る
- (エ) 新人・中途採用職員・異動者の教育マニュアルを整備し、フォロー体制を構築する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣施設と合同防災訓練を企画・提案し、有事の際に協力ができる関係作りをする

【数値目標】

	聖隷厚生園ナルド工房			
	就労移行支援	就労継続B型	就労継続A型	就労定着支援
利用者定員	10名	15名	10名	20名(利用者数)
利用者延べ人数	2,548名	4,157名	1,507名	13名(登録者)
一日平均利用者数	10.4名	16.1名	4.9名	-名
稼働率	104.0%	113.1%	50.1%	-%
稼働日数(延べ)	245日	245日	301日	-日
単価(一人一日当り)	12,111円	7,427円	7,591円	24,722円
サービス活動収益	34,599千円	36,034千円	24,450千円	3,337千円
職員数(常勤換算)	17.2名			

浜松学園

障害者支援施設静岡県立浜松学園

聖隷チャレンジ工房浜松学園

2020年度、静岡県立浜松学園では支援ニーズに応じた選択制プログラムを導入し、多様なニーズを持つ利用者の受け入れを開始した。作業訓練種目の拡大とともに、利用者自身の持ち物管理支援や感情理解支援を行った。「静岡県立浜松学園のあり方に関する検討会」にて「利用者の状態に応じて2～5年程度で就労を目指す仕組みが必要。2022年度より民営化」と方向性が示され、公募により当法人が選定された。聖隷チャレンジ工房浜松学園では、浜松市より就労継続支援B型の認可を受け、2020年10月より多機能事業所として運営を開始した。

2021年度は、民営化に向けた増築及び既存改修工事を行うと共に、「静岡県立浜松学園」と「聖隷チャレンジ工房浜松学園」との一体的運営の中で、多様な作業訓練種目の整備と異年齢での関わりによる利用者同士の学びあいに重点を置く。そこで、多様なニーズに応じた体制作り、安心できる環境の整備と安定した経営、地域ニーズの把握と新たな価値の創造の3つに重点を置き、地域から求められ、信頼される施設運営を行いたいと考える。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 多種多様なニーズに応じた体制作り
2. 安心できる環境の整備と安定した経営
3. 地域ニーズを把握し、新たな価値を創造する

【事業・運営計画】

1. 多種多様なニーズに応じた体制作り

(ア) 利用者の状態に応じた「働く」支援の提供

- ①作業訓練にて会社の仕組みを体験し、役割を担うことで、仕事に対する責任感を身に付ける
- ②利用者自身が強みと課題を理解できるよう、作業評価の標準化・マイスター制度を導入する
- ③利用者に応じた作業訓練が提供できるよう、作業種目の再構築・新規作業種目を導入する
- ④“目指す社会人像”を利用者自身が明確にできるよう、定期的な振り返りを行う
- ⑤就労継続支援B型では高い作業工賃を維持し、“やりがい”と落ち着いた作業訓練環境を提供する

(イ) 生活に必要な知識技術を身に付ける「暮らす」支援の提供

- ①浴室・厨房改修の体験を通して、“当たり前の生活”への感謝の気持ちを育む
- ②利用者用ICカードを導入し、作業工賃を自身で管理できるよう支援する
- ③家庭と協力体制を整え個別支援を強化し、自宅で生かせる生活スキルの獲得をめざす

(ウ) 成長し続けるための「学ぶ」支援の提供

- ① 集団生活での人との関わりが体験的な学びにつながるよう、“気付き”を促す支援を行う
- ② 就労に必要なスキル等を身に付けられるよう、小集団にてグループワークを実施する
- ③ 電子黒板を活用し、利用者同士が学び合う場を設ける
- ④ 利用者自身が“学びたいこと”を見つけることが出来るよう、様々な体験活動を行う

(エ) 働き続ける支援体制作り

- ① 利用者自身が“働き続けるために必要なこと”を言語化できるよう、振り返りを行う
- ② 利用者に応じたアフターフォローについて就職前カンファレンスで明らかにし体制を整える

2. 安心できる環境の整備と安定した経営

- (ア) 安心して施設利用できるよう、工事予定等利用者・保護者・関係機関に丁寧な説明を行う
- (イ) 想定しない自然災害や大規模災害にも事業継続可能なBCP対応を強化する
- (ウ) 各職員が各事業を理解し一つのチームとして運営できるよう計画的な交換研修を実施する
- (エ) 職員がやりがいを感じ、主体的に行動できるよう教育体制を構築する
- (オ) 利用者の安定利用につながる支援を行うとともに、障害福祉サービス報酬改定に対応する

3. 地域ニーズを把握し、新たな価値の創造

- (ア) 民営化に向けた周知広報でいただいた利用者・家族・関係機関の声に真摯に向きあう
- (イ) 施設見学や体験を通して、保護者・学校の声を引き上げ、ニーズの具現化を検討する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
- (イ) 工事期間が想定されるため、防犯・防災対策を適宜見直し、県・浜松市と協議する
- (ウ) グランドや体育館など学園内施設の貸し出しを行う

【数値指標】

	施設入所支援 (指定管理)	就労移行 (指定管理)	就労定着支援 (指定管理)	就労移行 (自主事業)	就労継続 (自主事業)
利用者定員	60名	60名	20名	10名	10名
利用者延べ人数	11,618名	11,863名	76名	2,200名	2,516名
一日平均利用者数	33.5名	45.1名	一名	8.4名	9.6名
稼働率	53%	75.1%	－%	84%	96.3%
稼働日数(延べ)	345日	263日	一日	261日	261日
単価(一人一日当り)	3,581円	5,663円	19,358円	9,432円	8,128円
サービス活動収益	72,282千円	92,594千円	1,477千円	43,473千円	46,750千円
常勤換算職員数	5.6名	14.7名	0.2名	5.9名	2.1名

軽費老人ホーム もくせいの里

もくせいの里では、高齢化・要介護化が進み、軽度要介護者への生活支援ニーズが年々高まっている。今まで実施してきた日中活動や施設行事等を見直すとともに、外部サービス事業所との連携を深めて、ひとりひとりのニーズに合った支援を提供していく。また、低所得により、外部サービスの利用が困難なケースが徐々に増えている。低所得者に対する支援のあり方を検討し、もくせいの里をより長く、安心して利用できる支援策を導入したい。

2020年度は、新型コロナウイルスの流行により、施設行事や入居者の社会活動、地域活動への参加が大きく制限された。感染症への対応力を強化するとともに、コロナ禍においても提供できる支援内容・方法を模索し、入居者が自立した生活を続けられるよう支援していく。

【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす。

【経営方針】

1. 職員間、職場間、また法人内の他事業所との連携を強化し、入居者がもくせいの里で安心した生活が過ごせる支援を行う。
2. 入居者・利用者に満足していただける質の高い食事提供を行う。
3. 老朽化している施設の設備更新を図り、安心して利用できる施設を目指す。
4. 入居者と職員が協力して地域との交流を図り、地域貢献活動も積極的に行う。

【事業・運営計画】

1. 利用者に合わせたサービスの提供
 - (ア) 入居者と担当職員とのコミュニケーションの時間を確保し、入居者の希望を反映した個別支援計画を作成する。
 - (イ) 要介護2までの利用者を受け入れられる体制づくりのため、引き続き法人内の各事業所との連携を深めるとともに、日中活動や施設行事等の見直しを行い、直接援助業務を提供するための基準作りを行う。
 - (ウ) 低所得により外部介護サービスを受けられない入居者に対する支援策を導入する。
 - (エ) 入居者の主体的な活動を支援するため、施設内や地域で貢献できる活動を検討する。
2. 安心と安全を重視したサービスの提供
 - (ア) 配食サービス利用者の安否確認時の情報を家族やケアマネジャー等と共有していく。また、配食エリアを検討し、障がい者向けの情報発信をしていく。
 - (イ) 感染症への対応力を高めるため、衛生用品の備蓄を進めるとともに、感染症発生時の訓練（シミュレーション）を行う。
 - (ウ) 食形態の見直しを行い、入居者・利用者の状態に合わせた食事を提供する。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 外部研修等に積極的に参加し、個別支援に活かしていく。
- (イ) 他の軽費老人ホームやケアハウスの見学や意見交換を行い、視野を広げる。

4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する。
- (イ) コロナ禍の状況を踏まえながら、近隣幼稚園との定期的な交流を行う。また、草むしりや清掃など、入居者とともに協力できることを検討する。
- (ウ) もくせいの里の入居対象となる低所得高齢者の情報を持っている各機関に定期的な施設紹介を行う。
- (エ) 公民館サロンデーの企画・運営に継続して協力する。地域との交流を目的に2021年度も引き続き入居者の参加を促す。

5. その他

- (ア) 設備点検等での指摘事項について早期に対応し、利用者が安心して生活できるよう建物設備の維持管理を図る。

【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利用者定員	50名	—	
利用者予算（延べ）	18,250名	16,324名	
利用者予算（日）	50名	53名	
稼働率（％）	100%	—	
稼働日数（延べ）	365日	308日	
単価（一人一日当り）	6,230円	695円	
サービス活動収益（千円）	113,707千円	11,344千円	125,051千円
職員数	11.6名	2.4名	15.0名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

1998年4月に開設して25年目を迎える。開設当初の旧引佐町の総人口は15,000人を超えていたが、現在の総人口は13,000人(高齢化率:35.7%)を下回っている。高齢者人口(4,564人)が増加し、高齢者世帯、ひとり暮らし世帯数も増加している。自助共助で支えられてきたことが課題として突然に表出することも増加しているが、様々な課題に対して真摯な取り組みをしていきたい。引佐町の中山間地域を支え、地域において信頼されるサービスを提供するよう運営をしてきたが、さらにサービス提供エリアを拡大することで将来を見据えたサービス提供をしていく。在宅支援の拠点である「ケアセンターいなさ」との連携を強化して、相乗効果を上げることで地域での役割を担っていく。また、新型コロナウイルス感染症や大規模災害の発生を想定した、「感染症や災害への対応力を向上していきたい。

今後も施設理念である「利用者の尊厳保持、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する」を念頭に質の高いサービスを提供する。

【施設理念】

利用者の尊厳保持、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体での濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 利用者の尊厳を守り、生活の質の向上を目指した取り組みをする
 - (ア)利用者一人ひとりの個別ケアを充実させる
 - (イ)介護記録システムを活用した他サービスとの情報共有および連携をする
 - (ウ)清潔で明るく安全な環境作りをする
 - (エ)日々の挨拶等から意識して取り組む
2. 人材育成と働きやすい職場環境の整備をする
 - (ア)目標参画と職種ごとのラダーを有効的に活用する
 - (イ)介護分野のICT化等による業務省力化を図る

- (ウ) eラーニング等を活用し、効果的に学習する
- (エ) 職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少させる
- (オ) EPA 介護福祉士候補者の支援を継続する

3. 質の高いサービスを提供するように努める

- (ア) 認知症ケアの基礎的理解と充実をする
- (イ) 感染予防対策の強化をする
- (ウ) 看取り支援の研修と体制の見直しをする
- (エ) 利用者満足度調査をする
- (オ) 医療的ケアに対応するために喀痰吸引等修了者を計画的に増やす

4. 安定した施設運営をする

- (ア) 各サービスの新たな利用者の発掘と利用地域の拡大を図る
- (イ) 介護報酬改定の対策と新たな加算取得を検討する
- (ウ) 防災及び防犯管理体制の強化を図る
- (エ) 次世代のリーダー候補を育成する
- (オ) 建物修繕、設備更新及び車両更新を計画的に実施する

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 家族介護者教室の企画運営やサロン活動等を運営支援する
- (イ) 避難訓練や祭典等の地域行事への参加をする
- (ウ) 福祉避難所として必要時に開設定できるよう準備する
- (エ) 社会福祉法人利用者負担軽減事業の実施をする
- (オ) 新型コロナウイルス感染症の時期だからできる地域貢献を検討する

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通常規模型通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防	
利用者定員	30名	40名	20名	35名		
利用者延べ人数	10,731名	14,527名	6,438名	7,944名	967名	
一日平均利用者数	29.4名	39.8名	17.6名	25.6名	3.1名	
稼働率	98.0%	99.5%	88.2%	82.1%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	310日		
単価(一人一日当り)	13,375円	14,769円	13,541円	9,711円		
サービス活動収益	143,752千円	214,587千円	87,177千円	86,537千円		
職員数(常勤換算)	49.3名		15.7名	14.2名		
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護		
		介護	予防	介護	予防	
利用者定員	9名	/		10名		
利用者延べ人数	3,249名	1,680名	480名	2,682名	0名	
一日平均利用者数	8.9名	/		8.7名	0名	
稼働率	98.9%	/		86.5%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	310日		
単価(一人一日当り)	13,952円	17,679円	3,750円	12,600円		
サービス活動収益	45,330千円	32,316千円		33,793千円		
職員数(常勤換算)	8.7名	4.2名		6.1名		
	訪問介護		居宅介護 (障害)	配食サービス	在宅介護支 援センター	
	介護	予防				
利用者定員	/		/		/	
利用者延べ人数	2,695名	1,023名	403名	1,528名	/	
一日平均利用者数	7.5名	2.8名	1.1名	5.2名	/	
稼働率	/		/		-	
稼働日数(延べ)	361日	361日	361日	293日	365日	
単価(一人一日当り)	4,988円		2,888円	647円	/	
サービス活動収益	18,738千円		1,164千円	988千円	/	
職員数(常勤換算)			4.7名	/		
	合計					
利用者定員	/					
利用者延べ人数	/					
一日平均利用者数	/					
稼働率	/					
稼働日数(延べ)	/					
単価(一人一日当り)	/					
サービス活動収益	664,382千円					
職員数(常勤換算)	102.8名					

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
聖隷リハビリプラザいなさ

2020年度は聖隷リハビリプラザいなさサテライト三ヶ日を開設し、三ヶ日地域で機能訓練サービスを積極的に提供できるようになった。また、聖隷三方原病院から退院されるターミナルケアを必要とされる方の在宅生活を叶えるために聖隷ケアプランセンターいなさ南部では病院との連携を強化した。地域包括支援センター細江では複合課題を抱える世帯への支援が増える中、障がい分野、自立支援分野その他の関連機関とも連携をし、多くの世帯への支援を行った。そして感染症が拡大する中、介護サービスが住民の方々にとって必要不可欠になっている現実も目の当たりにすることとなった。

2021年度は地域の高齢化や介護や生活の担い手不足がこれまで以上に顕著になると予想される。また、8050世帯で象徴されるような複合課題を抱えた世帯も増加し、地域の困りごとの質の変化や感染症の影響も続いていくと思われる。

聖隷ケアセンターいなさはそのような地域実状に対応できるよう、拠点機能を活かし、法人内及び地域内の連携を深め、地域になくてはならないセンターとしての役目を果たせるよう各事業を拡大・展開させていく。

【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる。

【運営方針】

旧引佐三町において、住民が、住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現を目指し、地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権、自立心、価値観等を尊重し柔軟で包括的な支援を実施する。

【事業・運営計画】

1. 連携による地域ニーズへの対応

(ア) 聖隷法人内関係機関との連携

- ① 聖隷訪問看護ステーション細江・三ヶ日と連携し、在宅医療介護の体制づくりを行う
- ② ケアプランセンターいなさをはじめとするいなさ愛光園との情報共有と協働体制づくりを行う
- ③ 災害や感染症拡大時、事業継続のための連携を強化する

(イ) 地域関係機関や団体との連携

- ① 障がい分野や自立支援分野等との協働を進め、8050世帯などへの支援を強化する
- ② 地域の学校（小・中・高・大学）との協働を進める
- ③ 災害、感染症拡大時その他の非常事態対応のための地域内の協力体制づくりを行う

2. 経営の安定化の推進

(ア) リハビリプラザいなさ

- ①リハビリプラザいなさサテライト三ヶ日での稼働曜日増による受け入れ人数の拡大を図る
- ②在宅での生活の支援に視点を置いたサービスの提供による安定的な利用の実現を図る

(イ) ケアプランセンターいなさ南部

- ①訪問看護ステーション及び市内外病院との連携推進により、新規在宅療養者の受け入れ強化を行う
- ②ケアマネジャー不足地域である三ヶ日へ積極的に活動を展開する

(ウ) 地域包括支援センター細江

- ①増加を続ける介護予防及び介護予防マネジメントを滞りなく提供する
- ②介護保険申請率の低い地域へ重点的に広報活動を行う

3. 地域における公益的な取組

聖隷ケアセンターいなさ全体

- (ア) ロコモ事業による健康づくり、ノルディックウォーク自主運営サークルの支援を継続する
- (イ) 認知症の方やその家族が地域で安心して暮らせるよう地域サロンの運営支援、オレンジサークルの周知、地域の学校におけるサポーター養成講座を継続開催する
- (ウ) 引佐郡医師会、浜松市薬剤師会等と連携した住民対象の講座等の企画、開催支援する

【数値指標】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

浜松市 受託収入	予防支援 マネジメントA・B)	内 再委託件数	予防ケアマネジメント 単価（円）	総収入 （千円）	職員数 （常勤換算）
52,91 （千円）	予防支援 4,255 件	1,030 件	4,400 円	68,627 （千円）	10.0 人
	マネA 3,175 件	2,160 件	4,400 円		
	マネB 1,368 件	一件	3,195 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	総収入(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,940 件	300 件	15,500 円	4,000 円	12 件	4,400	32,579 千円	4.8 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
25.9 人	635.3 人	7623 人	106.1 人	1273.8 人	6,700 円	27,000 円	85,416 千円	16.9 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2021年度は介護保険改訂に伴い、自立支援・重度化防止への取り組みを強化していく。また新型コロナウイルス感染症の影響で最期の時を自宅で迎えたい意向が増えていることをふまえ、最期まで住み慣れた自宅で過ごすための支援は何か、聖隷ケアセンター三方原の3事業所が協働し、より情報を共有しながら、地域へ出向いていく事業を展開していく。

【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【事業・運営計画】

1. 浜松市北部エリアにおいて「地域に求められる」ケアセンターになる
 - (ア) 事業団内の病院・障害施設との連携を図りながら継続的に新規利用者を受け入れる。
 - (イ) 3事業所合同での終末期の関わり方に必要な知識を習得するための勉強会・利用者への関わり方を振り返る事例検討会を開催する。
2. 利用者の思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
 - (ア) 利用者の思いを形にするためのケアの質の向上を図る。
 - ① デイサービスセンター三方原
通所リハビリからの利用者を積極的に受け入れ、地域の居場所となる場へつなげていけるよう働きかける。
科学的介護推進体制加算・個別機能訓練加算・ADL維持等加算の取得に向けて口腔機能・栄養状態・認知機能の評価・情報の提出・活用を行う。
 - ② ケアプランセンター三方原
ターミナルケアマネジメント加算算定に向けて必要な制度の理解・訪問看護ステーションとの連携強化をはかる。
障がいサービスについて理解を深めるため事業所への見学・制度の勉強会を行う
 - ③ 訪問看護ステーション三方原
事例検討を通して終末期ケアを根拠に基づいて提供できるようになる。
精神疾患の利用者の強みを生かした関り方を理解でき、計画書を作成できるようになる。
3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域のシニアクラブへの出張講座を3事業所共同で開催する。
 - (イ) 三方原公民館でのロコモーショントレーニングサロン活動の内容を見直し、参加者を増やす。
 - (ウ) 地域活動（清掃活動・防災訓練等）へ積極的に参加する。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数(常勤換算)
180人	900件	10,754件	9,748円	106,882千円	16.7名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,190件	550件	15,580円	3,960円	24件	4,400円	36,854千円	6.4名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
35人	907人	10,884人	64人	768人	6,400円	31,250円	93,658千円	21.7名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス活動 収益	職員数(常勤換算)
1.5人	39件	451件	8,500円	3,837千円	21.7名

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

【施設理念】

地域の社会資源と連携し、三ヶ日の利用者に安心を届ける

【経営方針】

1. 地域が必要としているニーズを捉え、利用者により良いサービスを提供する
2. 医療機関やサービス事業所との連携を強化し、頼られる事業所づくりに取り組む
3. 職員が働きやすい環境を作り、やりがいを実感できる

【事業・運営計画】

1. 地域が必要としているニーズを捉え、利用者により良いサービスを提供する
 - (ア) サービス事業所との顔の見える関係づくり
 - ① 三ヶ日町内サービス事業所のニーズに合わせた勉強会を開催する
 - ② 訪問看護で行うリハビリテーションの活用方法や効果について広報活動を行う
 - (イ) 神経難病に関する知識を深め、状態変化に合わせタイムリーなケアを提供する
 - ① 難病認定看護師による勉強会・事例検討会の開催
 - ② 他医療機関への研修参加（北斗わかば病院など）
2. 医療機関やサービス事業所との連携を強化し、頼られる事業所づくりに取り組む
 - (ア) 地域の病院・サービス事業所への営業活動を行う
 - (イ) 聖隷三方原病院との連携を継続し、スムーズな在宅移行を行う
 - (ウ) 障がい者相談支援事業所との連携強化
 - ① 施設見学・相互交流の実施
 - ② 障害分野の勉強会開催・研修参加
3. 職員が働きやすい環境を作り、やりがいを実感できる。
 - (ア) 計画的に内部・外部研修参加と伝達講習にて、職場全体の知識技術の向上に努める
 - (イ) 中途採用者に向けた教育体制を充実させる
 - (ウ) ナーシングスキルの活用推進
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域住民が健康や介護へ関心が持てるよう、健康相談や体操教室の開催

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	常勤換算 職員数
77名	347件	4,167件	9,792円	41,391千円	6.9名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園	浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東	訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北	地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北	生活介護事業所きらめき

2020年度は、未曾有の災厄である新型コロナウイルス感染症との戦いの一年であった。感染症拡大防止策として、段階的な面会制限や、各種イベントの開催方法の変更等、自粛や制限を強いられた反面、制限の多い状況下でも、感染症対策を徹底しながら、利用者のためにできることは何かを常に探り、挑み続けた一年でもあった。2018年度より取り組んでいる介護職の業務を仕分けた上で、周辺業務を高齢者や障害者等のケアサポーターに委ねるといった業務省力化の流れを基礎とし、2020年度は、タブレット型介護記録システムの導入や介護職向けのeラーニング講義配信サービスの試行等、ICTやロボット等の具体的な活用を図ることで、介護・福祉職の現場改革を進めた。

2021年度は、これらに加え、新たに見守り支援システムを導入する等、更なる業務の自動化・省力化を推し進めるとともに、その過程で生まれる新たな時間や価値観等を、介護・福祉職としての「やってみたい」に着実に還元することで、介護・福祉職としてのプライドの醸成やケアの質の向上に繋げていく。また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながらも、その環境だからこそできる【新たな常態（ニューノーマル）】を創造し、利用者等に「安全・安心・安楽」を提供し続けていく年度としたい。

その上で、浜北愛光園は静岡第3エリアの基幹施設として、地域のセーフティネットを守護するという役割を果たしていくために、職員個々が感度と精度を高め、地域ニーズの多様な変化を適切に予測し、それに合致した質の高いサービスを創造・提供し続けていく。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切に施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、制度の枠を超えたワンストップ支援体制を構築し実践する
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職のキャリアアップを促進しながら、福祉機器やシステム等の具体的な活用を図ることで、新たな働き方を提案するとともに専門職としてのやりがいを創造する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割を果たし、地域貢献に取り組む

【年度事業目標・年度事業計画】

1. 制度の枠を超えた支援体制の構築

- (ア) 利用者とその世帯状況に応じて、ニーズの把握から計画立案、ケアの提供までを一貫して行うワンストップ支援体制を構築する
- (イ) 【地域課題解決会議】を通じて、地域課題を見通す能力を醸成し、資源開発を行う
- (ウ) 複合施設の強みを活かし、生活の連続性を意識した情報共有を図り、ケアに展開する

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、利用者の状態変化に早期に気付き、対応することで状態悪化を抑制していく
- (ウ) 支援困難な方や医療ニーズの高い方、障害者等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、利用者の人生に関わる情報収集を密に行い、情報が途切れることなく共有できる体制を構築する
- (エ) 職員やチームの特性を見出すことで、専門性を発揮して、利用者個々人が心地良いと感じるサービス提供に努める
- (オ) より適切な認知症ケア、看取りケア等の提供のために、職員が知識や技術を研鑽できる機会を設け、スキルアップを図る

3. 新たな働き方の創造

- (ア) 資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
- (イ) 根拠を持ったケアが実践できるように、職員個々の状況に合致した育成に努める
- (ウ) 業務仕分けを進め、「働きたい人」の雇用を促進するとともに、ケアサポーターから介護職への育成・成長を促進する
- (エ) 記録システムや見守り支援システム、その他福祉機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す
- (オ) 【みらい開発会議】にて、介護・福祉職の「やりたい」を具現化する

4. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る
- (イ) 各種報酬改定を見定めた適切な加算算定、請求の正確性・効率化を図る
- (ウ) 消耗備品の適正な在庫管理と業務委託契約内容の精査を図る

5. 全世代を対象とした地域における公益的な取り組み

- (ア) 【地域課題解決会議】で抽出された課題をもとに、施設機能を活かし、地域が必要とする情報を発信し、地域社会の核となるように努める
- (イ) 介護未経験者や近隣企業、学校等を対象に、時代に即した方法での情報発信や介護相談、研修会開催等を通し、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 事業 (浜松東)
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	18,440名	36,407名	5,842名	4,929名	8,362名	132名	
一日平均利用者数	50.5名	99.7名	16.0名	13.5名	27.2名	0.4名	
稼働率(%)	101.0%	99.7%	80.0%	67.5%	69.2%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	307日		
平均介護度	4.42	3.76	2.96	2.71	1.90		
単価(一人一日)	12,459円	14,155円	11,111円	14,920円	10,444円		
サービス活動収益 (千円)	229,743 千円	515,352 千円	64,910 千円	73,542 千円	88,710 千円		18,848 千円
職員数(常勤換算)	37.5	66.9	10.1	12.7	16.6		2.5

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
173名	850件	10,194件	9,994円	101,882千円	15.3名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,313件	360件	16,048円	3,820円	12件	4,400円	40,658千円	6.6名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
36,291千円	1,524件	780件	4,400円	50,227千円	7.1名

■聖隷チャレンジ工房浜北/生活介護事業所きらめき

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
就労移行	15名	3,198名	81.7%	261日	12,334円	39,444千円	12.3名
就労継続	25名	7,746名	99.6%	311日	9,283円	71,903千円	
就労定着		96名			30,125円	2,892千円	
生活介護	20名	2,997名	61.0%	246日	8,075円	24,202千円	5.1名

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
聖隷放課後クラブはなえみ森町
聖隷相談支援事業所森町

2021年度森町愛光園は、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中、入所サービスにおいては、日常の過ごし方について、「できないこと」よりも「できること」を見出し、利用者の思いに応えていく支援を提供する。そして、感染対策を徹底した上での余暇活動等、コロナ禍においても日常生活を楽しめるレクリエーションや家族や友人に会うための新しい方策を構築していきたい。在宅サービスにおいては、「暮らし」と「リスク」のバランスをとりつつ、安心して信頼のできるサービスの提供に努め、在宅生活を継続できるよう支援していく。障がいサービスでは、前年、聖隷放課後クラブはなえみ森町の定員を20名とした。しかし、4月以降も学校の休校期間が継続したことで新1年生の利用開始が大きく遅れた。本年度は新1年生と継続利用児童との利用調整を行い、過不足なく利用できる体制を整える。また、学校と連携し、児童個々の特性に応じた支援に取り組み、保護者と共に児童の成長を支える。

最後に、各職員は、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクの高い、障がい児者や高齢者支援の最前線において、自らの外出を控え、家庭内においても感染予防に神経を使い、緊張感を持って勤務している。このような状況の中、一人ひとりの職員が生き甲斐をもって働けるよう、ICTの活用や勤務形態の見直しを行い、業務負担の軽減に取り組む。また、組織の再編成を行い、職場環境の改革を推進する。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのQOLの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めてゆくことができる組織づくりを目指します

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの追求

- (ア) 新型コロナウイルスの影響により、利用者と家族や友人との関わりが減る中、関係性を保つことができるよう、情報提供、面会方法等、様々な手段・手法を考え、利用者の思いを大切にした支援を行う。
- (イ) 一人ひとりの生活スタイルを大切にし、個々に合った楽しみのある生活を実現する。
- (ウ) 利用者満足度調査等を実施し、利用者や家族のご意見を頂き、接遇やサービスの質の向上に職員全員で取り組む。
- (エ) 給食委託業者との協働のもと、利用者個々の嗜好に合った献立を考え、楽しみのある食事の提供を目指す。

2. 人材育成と働きがいのある労働環境の推進

- (ア) 専門職ラダーとeラーニングを連動させ、個々のレベルに応じた人材育成を図る。
- (イ) 介護記録システムを先行導入した施設に学び、記録による超過勤務時間の削減のため、導入に向けた検討を行う。
- (ウ) 夜勤体制を見直し、精神的・身体的負担の軽減を図る。
- (エ) ワークライフバランスを念頭に置き、会議・委員会・研修の在り方を見直す。
- (オ) シニア世代が経験・知識・技術・人脈を活かし活躍できる職場環境を推進する。

3. 健全経営の推進と衛生管理・防災管理体制の向上

- (ア) 新型コロナウイルス等の感染症を防ぐとともに、大規模災害にも事業を継続できるBCP（事業継続計画）を強化する。また衛生用品等の必要物資を確保する。
- (イ) 組織体制を見直し、リスク耐性のある経営を行う。
- (ウ) 2020年度に引き続き、修繕及び設備更新を計画的に行い、職場の環境整備の改善を図る。
- (エ) 2021年介護報酬改定に対応し、職員体制を整え新たな加算取得を目指す。
- (オ) 在宅サービス事業所は、新規利用者確保のために随時居宅介護支援事業所を訪問する。
- (カ) 待機者及び新規利用者確保のため、積極的に情報収集・関係作りを行う。また、入院リスク軽減のため、2021年度は尿路感染症予防の対策を重点的に取り組む。

4. 地域共生社会の実現に向けた取組

- (ア) 地域の社会資源と垣根を越えて連携し、高齢者・障がい児者への相談機能を強化し、地域特有のニーズに応え、利用者の複合的で解決困難な課題に対応していく。
- (イ) 聖隷放課後クラブはなえみ森町において、児童と施設利用者や地域住民との交流の機会が持てる行事を実施する。
- (ウ) 一宮幼稚園やかわせみ保育園との交流を可能な範囲で実施する。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地元小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入れや、特別支援学校からの実習受入れ、高校や福祉系学校の介護実習、ボランティア体験の場として施設機能を提供する。
- (イ) 新型コロナウイルス感染症発生施設等へ、静岡県等からの要請に基づき職員派遣ができる体制を整える。
- (ウ) 一宮町内会や天宮町内会で行われる地域防災訓練に専門職を積極的に派遣する。

【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,874名	7,110名	10,333名	2,945名	7,095名	1,270名	
1日平均利用者数	59.9名	19.5名	28.3名	8.1名	23.0名	4.1名	
稼働率	99.9%	97.4%	97.6%	67.2%	64.7%		
稼働日数(延べ)	365日		365日	365日	308日		
単価(一人一日当り)	12,952円		13,847円	11,177円	9,808円		
サービス活動収益 (千円)	375,410千円		143,080千円	32,917千円	82,045千円		
職員数(常勤換算)	41.9名	16.7名	21.5名	5.3名	14.6名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護 合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		1,844名	312名	4,514名	1,003名	444名	
1日平均利用者数				14.7名	3.3名	1.4名	
稼働日数(延べ)					359日		
単価(一人一日当り)		16,017円		3,905円	3,559円		
サービス活動収益 (千円)		34,533千円		21,545千円	1,580千円		691,110千円
職員数(常勤換算)	0.1名	4.9名		5.8名			110.8名
	放課後等 デイサービス	相談支援事業		障害 合計			
		特定相談	障害児				
利用者定員	20名						
利用者延べ数	3,775名	88人	231人				
1日平均利用者数	11.3名						
稼働率	78.3%						
稼働日数(延べ)	241日						
単価(一人一日当り)	9,692円						
サービス活動収益 (千円)	36,588千円	4,616千円		44,036千円			
職員数(常勤換算)	6.9名	0.6名		7.5名			

聖隷びゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

2020年度は、聖隷こうのとり富丘開設に伴い、児童発達支援事業の再編成を行うとともに、ライフステージに応じた継続的な支援を提供できるように各事業間の連携に重点を置き取り組んだ。

また、新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、「安心・安全・継続した関わり」を提供できるよう、利用者、家族に理解・協力をいただきながら運営を行った。2021年度は、各事業が連携した取り組みを通して利用者サービスの質を向上すること、行政と「発達支援の在り方・子育て支援センターに求められていること等」を協議し「あるべき姿」を共有すること、持続可能な事業運営に重点を置いた取り組みを通して、地域に根差した施設運営につなげていきたい。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ・聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① 子ども主体で活動できるような、領域を意識した療育プログラム・目標を作成する
- ② 人への信頼感と自己肯定感を育み、主体性や選択力を養い長所を育む療育を行う
- ③ ライフステージ・活動の場（園学校）を繋ぐ支援を提供できるよう連携体制を整える
- ④ ペアレントプログラムの視点を活かし、子どもの能力・言動を引き出す
- ⑤ 季節や年齢に応じた社会体験、地域との関わりを大切にしたイベントを企画する
- ⑥ 保護者がその家族らしく子育て出来るよう、子ども理解を促進する取り組みを行う
- ⑦ 保護者の“子育て”力を引き出すため、保護者同士のつながり・子どもの成長を実感する場を設定する

- ⑧ 就園・就学・進学を安心して迎えらるよう、先輩ママの体験講話を行う
- ⑨ 保護者が地域で相談できる場所を複数持てるよう、関係機関と連携体制を整える
- ⑩ 子どもの強み・成長・課題について関係機関と共有し、支援の方向性を決定する

(イ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ①利用者の“可能性”を引き出せるような個別支援の強化
- ②利用者が“責任”と“やりがい”を持ち、主体的に作業に参加できる仕組みを作る
- ③ステップアップを意識した就労支援の形を作る
- ④働き続けることができるよう、利用者に応じた定着支援の在り方を構築する

(ウ) 磐田市発達支援センターはあと

- ①保護者と同じ視点に立ち、“子どもを受け止める”保護者に寄り添う伴走者となる
- ②保護者と関係機関に“ことばで伝える力”を伸ばすための実行可能な方法を助言する
- ③発達支援の在り方について、磐田市と協議し、体制の見直しを図る

(エ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ①複合課題のある世帯を重層的に支援できるよう、予防的支援を持ち早期連携を図る
- ②自事業所の長所を活かし、関係機関と役割分担を行い、顔の見える関係を築く
- ③地域生活を継続できるよう、生活応援クラブの役割を地域・関係機関と再構築する
- ④地域の高齢者の実態を把握・分析し、地域課題について関係機関と協議する

(オ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ①多様な課題を抱える子育て相談は、専門機関と連携し継続的に関わる体制を整える
- ②ファミリーサポートの援助会員を対象としたフォローアップ講座を開催する
- ③子育ての孤立化を防ぐため親子に寄り添える場・人・地域との関わりを意図的に作る

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

- (ア) 想定しない自然災害や大規模災害にも事業を継続できる BCP 対応を強化する
- (イ) 各職員がやりがいを感じられるよう、「目標とする自身の姿・チームの姿」を明確にする
- (ウ) リスク管理をチームで行い、職員が小さな変化へ気付く力を培い事故の減少につなげる
- (エ) 障害福祉サービス報酬改定に対応し、待機者対応と安定利用につながる支援を行う
- (オ) 職員一人ひとりが役割を認識し主体的に行動できるよう、職場目標管理を徹底する

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
- (イ) イベントへの参加を通して、情報を発信する
- (ウ) 磐田市と協議し、私立幼保に対するコンサルテーション・地域の事業所を対象としたペアレントプログラム養成研修を実施する
- (エ) 発達障害の支援の在り方について、磐田市と協議し“あるべき姿”を提言する
- (オ) 乳幼児一時預かり保育において求められる「役割」について、磐田市と協議し体制を整える
- (カ) のびのび休館日を活用し、発達が気になる親子の療育と集いの場を設ける

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	14名	15名	6名
利用者延べ人数	7,828名	770名	—	—	3,685名	4,051名	1,074名
一日平均 利用者数	32.2名	—	—	—	13.4名	14.7名	4.4名
稼働率	107.4%	—	—	—	95.7%	98.2%	72.8%
稼働日数(延べ)	243日	243日	—	—	275日	275日	246日
単価 (一人一日当り)	15,191円	10,897円	—	—	10,102円	7,606円	7,764円
サービス 活動収益	118,919 千円	8,391 千円	4,640 千円	7,572 千円	37,227 千円	30,812 千円	8,339 千円
常勤換算職員数	20.9名	2.2名	2.0名		6.1名	6.0名	1.4名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談
利用者定員		20名	—	—	—	—
利用者延べ人数		5,162名	—	—	—	—
一日平均 利用者数		21.3名	—	—	—	—
稼働率		106.7%	—	—	—	—
稼働日数(延べ)		242日	—	—	—	—
単価 (一人一日当り)		10,264円	—	—	—	—
サービス 活動収益	3,215 千円	52,982 千円	32,459 千円	20,988 千円	22,706 千円	10,487 千円
常勤換算職員数	0.3名	10.8名	8.0名	6.4名	3.0名	2.0名

浅田在宅地区複合事業

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

【事業・運営計画】

1. ターミナルケアと障がい者支援に強い事業所になる。
 - (ア) 人生会議手帳等を活用しながら病状の軽いうちからアドバンス・ケア・プランニングを意識した支援を開始する。
 - (イ) 認定資格取得者を活用し、ターミナルケア対象者や難病利用者の QOL 向上を図る。
 - (ウ) 躊躇せずに早い段階で浜松市西・南障がい者相談支援センターへ相談をかけ、多職種と連携して効果的な対応を行う。
 - (エ) 医療に特化したケアマネジメントを行う。
 - (オ) 浜松市南部地域の方が利用する病院との看看連携を継続する。
2. 次世代の職員を育てる
 - (ア) 日常場面をとおして次期管理者候補に在宅複合事業所のマネジメントを伝える。
 - (イ) 訪問看護・訪問リハビリ・ケアマネジメントの知識・技術・トラブルや困難の乗り越え方を言葉と実践をとおして伝え、学び合う。
 - (ウ) 認定資格取得者は職員に対し、自己の専門分野（緩和ケア・栄養水分管理・心臓運動療法等）の知識技術指導を行う。
3. 働きやすい職場をつくる。
 - (ア) 日常実践で感じた思い・悩み・疑問を話すことができる小グループをつくる。
 - (イ) 他職種の役割と業務に関心を向け、協力しあう。
 - (ウ) 係を中心に職場全体でアサーショントレーニングを行う。
 - (エ) 計画した人員を確保し、業務の効率化を図り超勤を削減する。
4. 防災・感染症対策を実践し、職員と利用者を守る。
 - (ア) 業務継続ガイドラインに沿った発災時・感染症発生時の業務マニュアルを作成・整備する。
 - (イ) 地域の防災訓練に参加、職場内の防災・防犯訓練を実施する。(年1回)
5. 地域への公益的な取り組み
 - (ア) コロナ禍の為フレイルや感染予防を地域のサロンや老人会に出向き講座を行う。

【数値目標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価（円）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
164名	876件	10,519件	医療 11,680 介護 9,077	107,905千円	20名 (12.6)

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
384件	396件	15,500円	3,951円	0	0	23,644千円	4名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応が中心となり、新しい生活様式の中で集いの場や地域共生社会を検討する会議等がやむなく中断され、今後の地域共生社会の取組みについて新たに再考することとなった。2021年度は、浦安市高洲高齢者福祉施設の指定管理が契約更新され第4期の1年目となる。この5年は新型コロナウイルス感染症への対応も継続しつつ、中期的な目標である地域共生社会に向けての具体的な取組みを着実に進めるべき期間であると考えている。浦安市内で地域住民のために、「うらやす健康・元気コンソーシアム」や「新町圏域地域支え合い会議」等、地域住民や関係諸機関と相互協力をしながら社会福祉法人としての役割を果たしていきたい。

人材確保については、年々厳しさを増しているが2021年度は特に無資格者の受け入れについて2020年度で計画した育成プログラム等を実践していきたい。また、離職防止対策としては20歳の早期離職の傾向が見受けられるため、日々の業務の中に福祉のやりがいを見出し、福祉業界で若い職員が自己実現できる組織的な支援を意識して取り組んでいく。事業部の中期目標である「私たちの全ての業務を自動化する」への実現に向けて、役職者が取り組むことは必須であるが、この機会に若い職員の積極的・主体的な参画を促し、将来の聖隷を支える職員の育成も同時に取り組んでいきたい。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

- ①各専門職が密に連携をし、入居者の状態変化に応じて、施設サービス計画書を適宜見直し評価することにより、個々の状態に合ったサービスを提供する
- ②新しい生活様式の中で、入居者が居心地良く、楽しみを持って生活できるよう取り組む
- ③入居者家族との新たな情報共有方法を検討実施し、安心して頂けるような取り組みを行う
- ④ヒヤリハットやアクシデントの内容、分析結果、対策を全職員が密に共有理解し、事故予防、再発防止に注力する

(イ) ケアハウス

- ①入居者の社会性維持・閉じこもり予防のための、地域交流とプログラムを強化する
- ②入居申込・退去要件に応じたパスの実施
- ③入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
- ④事故予防に関する入居者への啓蒙・啓発と予防の強化

(ウ) 通所介護

- ①地域のニーズに寄り添った生活支援サービスの提供と充実を図る
- ②在宅生活を続けられるよう、現状の身体・認知機能の維持につながる個別性を重視したプログラムを提供する

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) 各専門職のラダー、コンピテンシー評価、目標参画システムを適正に運用し、職員個々の特性を把握し強みを活かす働きかけを行う
- (イ) 各専門職が効率的に働ける職場環境を整備するため、介護周辺業務職の受入れを継続強化する
- (ウ) EPA 候補生、無資格・未経験者を継続的に受け入れ、育成システムのスケジュールに沿った教育の実施・評価を行う
- (エ) 浦安地区全体で、離職防止に向けた新たな仕組みを検討導入する
 - ①魅力ある職場をとともに共有する
 - ②入居者・利用者のためにやりたいことを有言して実行することを支援する
 - ③気軽に相談や悩み事を話せる機会・場を設定する

3. 経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム

- ①入居待機者の重度化が進む中、迅速に入居決定できる新たな仕組みを検討導入する
- ②空床期間の短縮施策を継続、空床ショートの利用も促進する

(イ) 短期入所

- ①新規入所者の定着化と緊急・措置利用受け入れの際の迅速な調整、支援を行う

(ウ) ケアハウス

- ①空床期間の短縮に向け待機者への関わり方を強化する
- ②入居者が安心できる生活継続に向けて、一部特定施設への転換を図る

(エ) 通所介護

- ①地域の特性の理解と居宅支援事業所との連携を図り、安定した稼働を維持する

- ②地域で必要とされている朝食・服薬管理サービスの効果を記載した営業ツールを作成、定期的に周知を行い更なる浸透を図る
 - ③基準緩和型デイサービス等地域のニーズを捉え、新たな利用者を獲得する
 - (オ) 5S（整理、整頓、清潔、清掃、しつけ）を実践し業務の無駄を省く
 - (カ) ICT 介護ロボットの導入を継続検討し、業務効率と生産性の向上を図る
4. 防災体制の確立
- (ア) 災害緊急時において、施設のBCPマニュアルを策定整備し、訓練を実施する
 - (イ) 職員全員が自立して行動できるよう、実態に即した防災訓練を行う
5. 地域における公益的な取り組み
- (ア) 新しい生活様式の中で、実習・職場体験やボランティアの受入れ方法を検討実践する
 - (イ) 関係機関と連携を行い、障がい者雇用の法定雇用率を達成する
 - (ウ) うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加し、新たな取組みを地域に発信する

【数値指標】

	特養	短期	ケア ハウス	高洲 デイ	猫実 デイ	総合計
利用者定員	100名	50名	50名	25名	25名	250名
利用者延数	34,675名	15,543名	14,361名	5,815名	6,253名	79,854名
一日平均利用者数	95名	43名	39名	19名	20名	225名
稼働率(%)	95%	85%	79%	76%	82%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	306日	306日	
単価(一人一日当り)	—	—	—	—	—	
サービス活動収益 (千円)	589,117 千円	237,223 千円	103,550 千円	51,478 千円	59,582 千円	1,040,950 千円
職員数(常勤換算)	66.8名	32.8名	8.6名	8.8名	10.3名	127.3名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2020年度は感染拡大防止に努める1年となり、様々な自粛や面会制限が設けられた。そのような中、無資格・未経験者への育成マニュアルの完成や入浴の仕組みを変えるためのリフト浴の導入に取り組むことができた。そして制約のある1年を過ごしたことで改めて普通に日常生活を送ることや非日常の大切さを感じることができた。2021年度は施設理念である「私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします」を念頭に基本に忠実な施設運営に取り組む。

サービスの質の維持・向上を図るには、人材が不可欠であり2020年度に構築した育成システムを実践し評価することで、今後も無資格・未経験者の採用と育成を継続し離職を防止する。職員においては、2020年度末に導入したリフト浴について、安心・安全を大前提に業務省力化や生産性の向上を伴う本格的な仕組みを構築し、職員の働きやすい環境を整備する。介護記録システムについては、HIMVITを導入し将来を見据えた更なる業務改善につなげていく。

介護報酬改定で示された、重度化防止や感染症対策の強化、業務継続に向けた取組みについては高洲地区での連携を図り積極的に実施していく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 安全・安心で質の高いサービスを提供する
 - (ア) 新しい生活様式の中で、可能な限り入居者の生き甲斐を支援する
 - (イ) 一人ひとりの状態変化・体調変化に早期発見・早期対応できるよう、タイムリーな情報共有・連携の在り方を模索する
 - (ウ) 浦安ベテルホームリハビリ職との連携を図り、個別機能訓練を強化する。入居者の重度化と寝たきりを防止し、生活の質の維持・向上を図る
 - (エ) 職員全体の認知症への対応力向上、障がいの理解を深める
 - (オ) ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の考え方を共有し特養でのあり方を考える
2. 多様な人材の確保・育成・定着に向けた取組みの強化
 - (ア) 経営方針を浸透させ、行動できる職員を育成する
 - (イ) シニア世代や障がい者雇用を継続し、一定数を維持する
 - (ウ) 無資格・未経験者の採用継続と育成システムを評価する

- (エ) 長時間労働の是正と有給休暇取得の継続、3 連休以上の取得率を向上するために、ユニット間の協力体制を強化する
- (オ) 高洲地区の過去に退職した職員の退職理由分析から、入職 3 年以内の職員を対象に離職防止に取り組む

3. 地域共生社会の実現

- (ア) はぐくみ浦安において、浦安市高洲地域包括支援センターや障がい福祉課、基幹相談センターと連携を図り、8050 問題に積極的に取り組む
- (イ) はぐくみ浦安において、浦安市内の連携会議やケース会議に参加し、地域の実情を把握する
- (ウ) 共生型サービスの利用希望者に対しては、空床時にショートステイを検討する

4. 経営の安定と業務改善の継続

- (ア) 空床ショートステイの定期的な利用者を確保し、入居及び空床ショートステイの稼働率 96.5%を達成する
- (イ) 2021 年 3 月に導入するリフト入浴装置について、安全性の向上と業務省力化・生産性の向上を評価する
- (ウ) 介護支援システム HIMVIT を導入し、他職種連携強化とペーパーレス化を進める
- (エ) 変更した朝食の提供方法の安全性と効果を検証する

5. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習受け入れを継続する
- (イ) 高洲中学校特別支援学級との交流を継続する
- (ウ) 自然災害に備え、福祉避難所としての機能強化と事業継続のため B C P を作成し訓練を実施する

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	-	-
利用者延べ人数	26,068 名	386 名	-
一日平均利用者数	71.4 名	-	-
稼働率	96.5%	-	-
稼働日数（延べ）	365 日	242 日	-
単価（一人一日当たり）	15,195 円	14,158 円	-
サービス活動収益（千円）	396,115 千円	5,465 千円	401,580 千円
職員数（常勤換算）	50.5 名	1.0 名	51.5 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2020年度は、地域の病院と在宅をつなぐ中間施設としての役割を担う自施設にとって、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けた近隣病院からの入居が半減したため、経営収支としては非常に厳しい状況であった。ただし、従来型居室及びユニット型居室共に、年間を通じて在宅強化型を維持したこと、また通所リハビリテーションは地域ニーズの高い短時間利用者を最大限確保したこと等、地域における変化、利用者ニーズを見極めて、創意工夫をしながら施設運営を行うことができた1年であった。

2021年度は、このような社会情勢の中、あらゆる問題、課題を機会と捉え変化に対応していく。在宅での生活を希望する利用者を支援するため、新たに訪問リハビリテーションの開始を検討する。また新しい生活様式の中で、対面ではない非接触での接点づくりのための営業ツールを検証、活用していく。そして、職員が心身共に健康で楽しんで働くことができるよう、連携・支援体制を構築、現場革新に必要なICT導入も積極的に行う。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. エビデンスに基づく、利用者本位のケアの追及
 - (ア) 認知症研修への参加や多職種による認知症プロジェクトを立ち上げ、認知症対応力を上げる
 - (イ) アクティビティ推進チームによって、利用者個々のニーズに沿った活動を行う
 - (ウ) OJTを通じて、利用者の「やりたいこと」「可能性」「リスク」等へのアセスメント能力を高める
 - (エ) 障がい者・児ケアについて職員育成を行い、障がいニーズへの対応力を上げる
 - (オ) 終末期におけるその人らしさを尊重したケアの実践力を高める
 - (カ) 利用者本位のケアを行うために、福祉用具（車椅子・ベッド等）を計画的に整備する
2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成
 - (ア) 各プロジェクト（アクティビティ、認知症、排せつ等）を推進し、職員が多職種協働の中で専門性や役割を発揮する場を創出する
 - (イ) Web研修やeラーニング等を通じて、職員のやりたいことを引出し、その実現を支援する
 - (ウ) お互いの良いところ見つけ伝え合う「いいところプロジェクト」「ハピネスボックス」の活動を継続、発展させる

- (エ) 働くうえでの不安や悩みを早期に相談・サポートできる支援体制を構築する
- (オ) 連続休暇（4日以上）や負担を軽減するため、職場間、職種間を越えた業務連携体制をつくる
- (カ) インカム機器の効果検証を継続するとともに、HIMVIT 導入実施に向け準備をすすめる

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化

- (ア) 訪問リハビリテーションを開始して、在宅生活支援施設としての役割を強化する
- (イ) 老人保健施設の強みを活かした障がい者・児の医療型短期入所事業を開始する
- (ウ) ミドルステイのベッドコントロールを強化し、在宅超強化型への移行を模索する
- (エ) 通所リハビリテーションにおいて市内のニーズに合わせた新たな運営体制を検討する
- (オ) ベテルの在宅生活支援機能、ケアや活動内容に関して、YouTube 等を通じて発信する
- (カ) 施設内での感染症や転倒による入院を 2020 年度比 20%削減する

4. 防災・防犯体制の強化

- (ア) 災害発生時に、職員が適切で実践的な行動ができるよう施設実態に合った訓練を行う
- (イ) 防災・防犯・風水害・感染対策マニュアルを都度更新し全職員が実践する
- (ウ) 感染症発生時を想定したシミュレーションや訓練を実施する

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

- (ア) 生活保護受給者の受入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準（10%）を満たした運営を行う
- (イ) 地域福祉に資する「地域に向けたお役立ち情報」を定期的に発信する
- (ウ) オンライン等の非接触での地域に向けた介護予防講座やリハビリ講座を実施する
- (エ) 利用者と地域社会とのつながりを発展するために、在宅ボランティア等実施可能な形で受入れる（年間延べ 50 名）

【数値指標】

	ベテルホーム入所	ベテルホーム短期	通所リハビリ	総計	
利 用 定 員	100 名			45 名	145 名
利用者延べ数	31,025 名	1,460 名	11,922 名	44,407 名	
一日平均利用者数	85.0 名	4.0 名	38.7 名	127.7 名	
稼 動 率	89.0%			86.0%	—
稼動日数(延べ)	365 日			308 日	—
単価(1人1日当り)	15,264 円	18,290 円	11,465 円	—	
サービス活動収益(千円)	500,297 千円		136,688 千円	636,985 千円	
職員数(常勤換算)	61.3 名		21.0 名	82.3 名	

聖隷ケアプランセンター浦安

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムの推進
 - (ア) 必要なサービスを切れ目なく提供できるように、同法人の複合施設としての強みを生かし、利用者にケアマネジメントを実践する
 - (イ) 病院関係者、在宅に関わる関係機関と連携を図りながら、病院から自宅に戻ってからも安心して在宅生活ができるように、更に連携を強化し支援体制を整える
2. ケアマネジメントの質の向上
 - (ア) リモートなどを活用し積極的に事例検討を行い、ケアマネジメントのスキルを向上する
 - (イ) 相談支援スキルラダーを積極的に活用して、相談援助技術の向上を図る
3. 安定した経営と働きやすい職場づくり
 - (ア) 安定した件数を確保できるように、地域包括支援センター等と連携を強化し、新規利用者を獲得する
 - (イ) 業務整理を行い効率よく業務を遂行することで超過勤務の削減、有給取得率の向上を図る

【数値指標】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価（1人1日当り）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
—	1,500名	242日	17,210円	26,675千円	3.5名

浦安市高洲地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 地域における機能と役割の強化
 - (ア) 浦安市新町地区の特性を活かし、地域包括支援センターの普及啓発やサロン活動、地域との会議等にメール配信やWEB会議を導入し、情報収集や発信を更に強化する
2. 専門職としてのやりがいの創出
 - (ア) 多岐に渡る相談に適切な判断、支援ができるよう、法人・行政の研修（相談援助・虐待・認知症等）のほかに職能団体主催の研修にも積極的に参加し、各専門職の専門性を高める

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数（常勤換算）
39,400千円	予防支援 1,044件	444件	4,800円	45,843千円	4.6名
	マネA 732件	48件	4,800円		

聖隷訪問看護ステーション浦安

【事業・運営計画】

1. 地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションとしての役割の継続を通じ、サービスの質の向上を図る。
 - (ア) ターミナルケア・精神障がい・認知症・アロマケアの知識共有と評価を重ね、ケアの質を向上させていく
 - (イ) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社との協働を続け、法人の枠を越えて地域を支援する体制を継続する
 - (ウ) 地域の研修会や連携会議に参加し、浦安地区全体の地域包括ケアシステムの構築に資する

2. サテライト稲毛海岸の運営と経営を安定させ、2022年4月に独立開設できる体制準備を行う
 - (ア) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社やUR都市機構等と協働し、地域の情報分析をしながら、病院や居宅介護事業所と密に連携できる運営を目指す
 - (イ) 聖隷訪問看護ステーション浦安の稼働バランスを取りながら一体的な運営を行い、それぞれの適切な人員配置を決めていく
 - (ウ) 新たな職員を増やし、教育プログラムに沿ってOJTを行い、訪問看護の質を確保する

3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) 目的と使命を職員全員で共有し、目標参画システム・職種別ラダーを活用して、個々の役割を実践する
 - (イ) 各々の職員の得意分野を生かし、内部・外部研修などを通して学び、職場全体の知識・技術が向上する教育体制を進める
 - (ウ) ICTを活用したスケジュール調整、記録など、業務の効率化を行い、良いワークライフバランスにつなげる

4. 地域における公益的取組
 - (ア) 地域住民が健康や介護へ関心を持ち、住みやすい街になるよう、地域主催のイベントに健康相談を行うために参加する

【数値指標】

	平均 利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス 活動収益	職員数 (換算)
全体	110名	732件	8,529件	9,499円	81,017千円	10.5人
浦安	87名	575件	6,830件	9,468円	64,670千円	8.5人
サテライト	23名	157件	1,699件	9,621円	16,347千円	2.0人

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸

2020年度は世界中で新型コロナウイルス感染症がひろがり、人々の生活に様々な影響を与えた。松戸愛光園でも新規事業の延期や設備更新の中止などの影響がある中で、地域福祉の拠点として事業を継続してきた。

2021年度、松戸愛光園においては各事業で一人一人のニーズに合わせた専門性の高いサービスの提供が行えるようにする。そのために各専門職の育成を今まで以上に推進していく。更に業務のデジタル化や自動化にも積極的に取り組んでいく。

今後も、感染症対策に取り組みながら、地域の高齢者、障がい者ニーズに合わせた事業を実施し、地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. 高齢者・障がい者の個別ニーズに合わせた専門的なサービスの提供
 - (ア) 入所・短期入所においてはケアプランを基にした個別ケアの充実を図る
 - (イ) 多職種での協働をすすめて、看取り、認知症ケア、機能訓練など利用者ニーズに合わせた専門的なケアを提供する
 - (ウ) 通所介護事業では、軽度者から重度者まで多様なニーズに柔軟に対応したサービス提供を継続する
 - (エ) 居宅介護支援事業では、医療との連携を充実させてターミナル利用者への支援を積極的に進める
 - (オ) 共生型生活介護については、相談支援事業との協働を図りながら、障がい特性に応じた個別のプログラムを提供していく

2. 働きがいと成長を実感できる職場づくり

- (ア) 専門職ラダーやWEB研修等を積極的にすすめて各職員のスキルアップを図る
- (イ) EPA職員や無資格職員等の資格取得を支援し、専門性の高い人材の確保を図る
- (ウ) ペーパーレス化、5S活動などを進めて、活力ある働きやすい職場づくりを行う
- (エ) 実習を通じた各学校との繋がりを深化させて職員採用に繋げる

3. 設備更新によるデジタル化や効率化の推進

- (ア) 記録システム等の活用をすすめて、記録のデジタル化推進を図る
- (イ) ナースコールに代わる見守りシステム導入を検討し、介護業務の省力化を図る
- (ウ) 2020年度見送りとなった空調設備・介護浴槽の設備更新を行う

4. 新たな手法での社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と共に実施していた、福祉学会、チャリティバザー、地域清掃活動については、コロナ禍でも実施できる方法や内容を検討し継続していく
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、実際の災害時を想定した受入れ方法を検討し、マニュアル作成や必要物品の確保をすすめる

【数値指標】

入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護保険	障害	介護	総合	障害
利用者定員	103名	21名		34名		
利用者延べ数	36,548名	6,618名	89名	6,060名	1,492名	844名
一日平均利用者数	100.1名	18.1名	0.2名	19.6名	4.8名	2.7名
稼働率(%)	97.2%	87.5%		80.0%		
稼働日数(延べ)	365日	365日		309日		
単価 (一人一日当り)	14,848円	15,174円	10,664円	9,500円	29,869円/月	8,089円
サービス活動収益 (千円)	545,090千円	102,679千円		89,655千円		
職員数 (常勤換算)	76.1名	14.8名		15.1名		

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,509件	234件	16,937円	4,611円	60件	4,400円	26,900千円	4.0人

障がい者(児)相談支援事業

年間サービス 利用数	年間継続サービス 利用数	サービス 活動収益(千円)	職員数 (常勤換算)
104件	286件	4,884千円	1.2人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園

聖隷訪問看護ステーション横須賀

横須賀愛光園 デイサービスセンター

聖隷ヘルパーステーション横須賀

西第二地域包括支援センター

聖隷ケアプランセンター横須賀

2020年度は、施設の抱える様々な課題を改善しつつ、中長期的な事業展開をすすめるため、大規模修繕とICT機器も含めた設備投資を行う計画としていた。しかし、新型コロナウイルス感染症への対応などの状況変化と、施設改修における補助金活用の可能性が発生したため、それら計画を2021年度へ持ち越すこととした。コロナ禍による影響はありつつも、スタッフも交えたプロジェクトの開始や短期入所における障がい者ニーズへの対応の拡大など着実に実施でき、各事業ともに安定した事業運営が継続できたことは、職員一人一人の努力と地域の利用者の協力の賜物であった。

2021年度は、地域医療介護総合確保基金などを活用し、大規模修繕の実施と新規事業開設準備を行い、各事業においてはICT機器や記録システムの導入による業務の変革を加速させていきたい。また、この改修とICT機器も含めた設備投資により働く職員にとっても魅力ややりがい創造でき、人材の育成や確保にもつながるよう進めていく。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人一人の資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービスの提供

【事業・運営計画】

1. 施設の継続性を意識した変革と新たな価値の創造
 - (ア) 老朽化した厨房、デイサービス、1階浴室、事務室、洗濯室、非常電源等について、新規事業の開設も踏まえた大規模修繕と設備投資を行い、利用者満足と職員満足の向上を図る
(令和3年度地域医療介護総合確保基金の申請、活用)
 - (イ) 各事業においてICT機器の導入、試行を行い、効率性の高い業務への変革を促進する
 - ① 特別養護老人ホームにおいて、見守りセンサー・職員間コミュニケーション機器を導入し、休日・夜間などの不安の軽減と、利用者の待ち時間の減少を図る
 - ② 介護記録支援ツールHIMVITの導入を行いペーパーレス化に取り組む
 - ③ 訪問介護において、ケアぴあノートアプリを導入し、開始終了の連絡・応対、記録、情報伝達機能の効率化を図る
 - ④ 訪問看護において、スケジュール作成ソフトの試行、検討を行い、専門職の間接業務時間の削減を図る
 - (ウ) 事務所の移動、改修を実施し、在宅事業も含めた一体運営ができる環境造りや事務業務の分担化に取り組む

2. 働き方の改革と多様な人材の確保、育成

- (ア) 各職場長によるラダー、目標参画の確実な実施と、意識したフィードバックを実践する
- (イ) 職種、階層別の教育支援体制の構築、実施
 - ① 介護職、看護職のeラーニングの活用を促進する
 - ② 新人、プリセプター、リーダー、役職者の階層別研修の企画、実施
- (ウ) 『横須賀わくわくプロジェクト』を継続し、「やりたい」仕事のための変革をすすめる
- (エ) 魅力配信や求人活動のオンライン化を試行する
- (オ) 36協定の遵守、労働災害発生0件の達成、有給休暇取得率向上を目指す取り組みの実施

3. 介護報酬改定に対応し、利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供

- (ア) 特別養護老人ホーム
 - ① リーダー会、わくわくプロジェクトを中心に、見守りセンサー・HIMVITの導入検討～活用促進を行い、効率化・ペーパーレス化・標準簡素化を図る
 - ② 排泄ケア、認知症ケア、栄養ケア、口腔ケア、機能訓練の検証と取り組みを行い、利用者満足度の向上を図る
 - ③ 感染予防策の徹底と事業継続計画の検討、作成
- (イ) 短期入所
 - ① 在宅事業との情報共有の継続と個別支援計画の整備を行い、利用者満足度の向上を図る
 - ② 空床利用の調整と障がい短期入所の対応の促進を図り、稼働率の向上を図る
- (ウ) デイサービスセンター
 - ① 浴室、トイレ、活動環境の改修、機能訓練機器の整備と提供プログラムの転換を行い、幅広いニーズへ対応できる体制を整える
 - ② 介護支援システムの活用と、準備片付け業務の整理を行い間接業務時間の短縮を図る
 - ③ 共生型生活介護を活用し、特別支援学校の進路となる活動の試行と実習受け入れを行う
- (エ) 西第二地域包括支援センター
 - ① 生活支援コーディネーターを配置し、二層協議体設立に向けたアプローチを継続する
 - ② 相談ラダーの活用と育成計画の作成を行い、相談支援における人材育成を可視化する
 - ③ 介護予防、権利擁護啓発活動の更なる推進に向けた取り組みの継続
- (オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀
 - ① 看護ラダー、eラーニングの活用とカンファレンスの充実を図り、重度者や家族支援への対応ができる人材育成に取り組む
 - ② インターンシップ、教育体制の整備を行い、新卒採用への仕組み作りを行う
 - ③ 総合病院の医師とのタイムリーな連携について、検討、試行する
- (カ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀
 - ① eラーニングの活用を促進し、サービス提供責任者の指導力の向上と、登録ヘルパーのスキルアップに取り組む
 - ② 事業所内のケース移行を計画的に行い、緊急対応や感染対応などに柔軟に対応できる体制を作る
- (キ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① 相談ラダーの活用と計画的な研修の実施や参加を行い、地域からの総合的な相談がワンストップで対応できる人材を育成する
- ② 総合病院や地域の開業医への情報提供の仕組みを検討し、関係づくりに取り組む
- ③ 特定事業所加算Ⅱの取得を継続する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 在宅事業との連携強化とともに、地域に対し適切かつ有益な情報発信を行う
- (イ) 地域ボランティアセンター運営への参加を継続する

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	64名	40名	16名	30名	—
利用延数	22,849名	14,271名	4,972名	6,921名	—
一日平均利用者数	62.6名	39.1名	13.6名	22.1名	—
稼働率(%)	97.8%	97.8%	85.1%	73.8%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	308日	—
平均介護度	3.98	3.95	2.95	1.82	—
単価(1人1日)	12,120円	15,000円	11,850円	9,250円	—
サービス活動収益	278,806千円	214,132千円	58,221千円	62,916千円	37,164千円
職員数(正・エA)	31.2名	20.1名	6.1名	3.2名	4.2名
職員数(パ・ア)	7.9名	7.2名	1.8名	6.8名	1.0名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	127.0名	51.0名	86.2名	9.8名	256.6名	—
月平均訪問件数	647.3件	331.5件	1,002件	37.1件	268.3件	—
利用延時間数	—	—	10,130時間	403時間	3,730時間	66時間
稼働延日数	241日		255日			
単価	11,000円/件	11,900円/件	4,960円/時間	13,650円/月	4,310円/時間	—
サービス活動収益	135,447千円		68,502千円			
職員数(正・エA)	9.5名		6.0名			
職員数(パ・ア)	5.8名		8.1名			

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正・エA	パ・ア
1,680件	72件	16,800円	4,560円	60件	4,500円	28,656千円	3.0名	2.0名

宝塚せいのりの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚すみれ栄光園園内保育所

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいのりの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。その人らしい生活を実現させるには、選択できる機会が重要であり、利用者が自分の意思を表現し、我が家のように安心して生活できる施設として、取り組んで行く。そのために職員は、福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応は、2021年度も継続が予想される中、利用者、家族、地域との関わり方が変わっても、「結ぶ」役割は変わらず地域福祉の推進に取り組んで行く。

資格職が質の高い専門性を発揮するために導入した介護補助者や障害者雇用に加え、2021年度はICT機器、介護ロボットの導入をさらに推し進めることで、業務ルーチンや勤務シフトの見直しを行う。2019年度より始めた、採用年度・職務経験に応じて職員間の繋がりを目的とした研修は、離職率の減少成果として表れており継続して実施する。これらハード、ソフト両面で、職員が働きやすい環境整備に努めて行く。

地域とは、顔の見える関係が出来ており、地域コミュニティ会議への継続参加、防災訓練やサロン、福祉教室等への参加は、関わり方を工夫し行いたい。また、地域自治会との災害時防災協定については、積み残しとなったため、締結に向けて協議を再開し、地域の安心拠点としての役割を担えるように活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 専門性に特化したサービスの提供
 - (ア) 入居者・利用者一人ひとりの能力に合わせた、個別性のある介護を提供する
 - (イ) 趣味嗜好や生きがいといった個別の楽しみに繋がるレクリエーションの充実を図る
 - ① 園芸活動を通じた作業療法士の領域を拡大する。
 - ② 生活の快となる個別アクティビティーの充実を図り、生活の活性化を目指す

(ウ) 多職種連携による総合的な視点を高め、入居者・利用者の心身の状態に応じた適切な介護を行う。

(エ) 園内保育所は職員・地域枠利用者に対し、キリスト教保育を実践する

2. 職員にとって「働きがいのある職場」環境、職員教育の推進

(ア) 聖隷・施設理念に基づくケアの浸透。職員それぞれが介護計画を通じたアセスメント力の向上と介護力の向上を行う

(イ) 見守りセンサーを使った、利用者にとって安心できる巡回システムの構築と記録システムのルール明確化、介護リフトを使った利用者にとって安心できる移動介助を実現する

(ウ) 入居者と家族、そして施設を結ぶ、新たなコミュニケーションツールを活用する

3. 職員教育の推進

(ア) 利用者の生活全体を見る力を高め、ケアマネジメントの質の向上を図る

(イ) 在宅介護・施設介護の互いの環境を学び、シームレスなサービスを提供する

(ウ) 介護保険制度に則った、適正な支援を提供する

(エ) 新たなシステム、機器、制度に対応できる教育を行う

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

(ア) 地域サポート型施設として、地域高齢者が安心して生活が継続できるように支援する

(イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放する

(ウ) 入居者が地域の一員であるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入を行う

(エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る

(エ) 介護講座・介護相談の開催、実習受入れを通して福祉教育にも注力する

5. 環境活動への取り組み

(ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める。

(イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む。

【数値指標】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	35,040名	7,081名	6,831名	2,490件	240件	
一日平均利用者数	96名	19.4名	22名			
稼働率	96.0%	97.0%	73%			
稼働日数(延べ)	365日	365日	310日			
単価(一人一日・件当り)	15,348円	15,229円	11,600円	17,530円	4,250円	
サービス活動収益(千円)	563,839千円	109,876千円	77,654千円	44,670千円		796,039千円
職員数(常勤換算)	75.3名	16.3名	17名	7.7名		116.3名

宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいのりの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。特養に比べ自立度の高いケアハウス宝塚では、入居者の個々の希望、ニーズを受け止め、その人らしい生活が営むことができる施設づくりに取り組んでいる。その人らしい生活を実現するためには、「一人ひとりの想い」を実現させる機会、選択できる機会が重要である。満足頂けるサービスのためにも、職員は福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。

宝塚せいのりの里内での住み替え希望者は多く、特にケアハウスは中間施設としての役割を果たしている。また、平均年齢では特養よりも高く、施設で看取りを迎えられる方も増えているが、軽度者から、認知症・重介護者まで利用者は幅広く、在宅生活の延長線上としての設えを進めて行く。新型コロナウイルス感染症対応による家族の面会制限継続は続くと思われる中、入居者の状態変化の連絡方法も考えていかなければならない。

2020年度より導入を開始した見守り機器により、ユニット形態に拘らない勤務体制の見直しを図られた成果を、里全体で共有していく。職員間の繋がりを目的とした研修は、離職率の減少成果として表れており継続して実施する。これらハード、ソフト両面で、職員が働きやすい環境整備に努めて行く。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援に向けて
 - (ア) 入居者の状態変化に早期に気付き、施設での生活を継続できるように支援する
 - (イ) 入居者の状態に応じ、宝塚せいのりの里内での連携を高める
 - (ウ) 入居者の「自分らしら」に対応した、余暇活動や外出企画を計画・実施する
2. 職員にとって「働きがいのある職場」環境、職員教育の推進
 - (ア) 聖隷・施設理念に基づくケアの浸透。職員それぞれが介護計画を通じたアセスメント力の向上と介護力の向上。

- (イ) 見守りセンサーを使った、利用者にとって安心できる巡回システムの構築と記録システムのルール明確化、介護リフトを使った利用者にとって安心できる移動介助を実現
- (ウ) 入居者と家族、そして施設を結ぶ、新たなコミュニケーションツールの活用

3. 職員教育の推進

- (ア) 利用者の生活全体を見る力を高め、ケアマネジメントの質の向上
- (イ) 在宅介護・施設介護の互いの環境を学び、シームレスなサービスの提供
- (ウ) 介護保険制度に則った、適正な支援の提供
- (エ) 新たなシステム、機器、制度に対応できる教育

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

- (ア) 地域包括ケアに対する役割として、地域高齢者が安心して生活を継続できるように支援
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放
- (ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入
- (エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る
- (オ) 介護講座・介護相談の開催、実習受入れを通して福祉教育にも注力する

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める。
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む。

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,512名
一日平均利用者数	67名
稼働率	96.0%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当たり）	14,402円
サービス活動収益（千円）	352,287千円
職員数（常勤換算）	46名

宝塚せいの里

介護付き有料老人ホーム 結いホーム宝塚

結いホーム宝塚が開設し、7年経過した。この間、高齢化の進展と労働力人口の減少といった社会的要因および近隣に競合施設が複数開設したことで入居者募集、職員確保の面で競争が激化する等、事業を取り巻く環境は年々厳しさを増している。また、新型コロナウイルスの感染拡大がもたらした影響は大きく、入居者サービス、家族への連絡等で従来の形でのサービス提供ができなくなっている。そのような中、これまで同様、利用者・家族のニーズに応えその人らしい生活を過ごしていただくことを堅持すると共に、社会情勢の変化に対応した新たなサービスの開発、提供を模索していく。

これまで「高齢者生きがい就労」にて採用した介護補助者の活用により、資格職の専門領域業務への傾注が可能になってきた。2021年度は、介護ロボットの導入をさらに推進して業務の効率化、勤務の見直しを実施すると共に、ICTを活用し、施設と家族間、入居者と家族間の新たなコミュニケーションを構築する。新卒、中途職員の横の連携を目的とした里内研修の実施により離職率が減少したことから、この取り組みは継続して行っていく。こうしたハード、ソフトを活用することで職場環境を整え、職員が働きやすい施設を目指す。

地域との関わりとして、地域コミュニティ会議への継続参加、防災訓練やサロン、福祉教室等への参加は、関わり方を工夫し行いたい。また、地域自治会との災害時防災協定については、積み残しとなったため締結に向けて協議を再開し、地域の安心拠点としての役割を担えるように活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 施設理念、経営方針、行動指針に基づいた教育の実施
 - (イ) 入居者、家族に信頼されるサービスの実施
 - ① コミュニケーションツールを導入し入居者家族へ適切な情報提供を行う
 - (ウ) 入居者の期待を超える専門性の高いアクティビティの提供
 - (エ) 全体行事、フロア企画、個別レクリエーションのそれぞれにおいて既存の取り組みを精

- 査し、ニーズに合わせたサービスを提供する
- (オ) 入居者の「食べる楽しみ」に応えるために、日々の食事およびイベント企画を充実させる
 (特別食・選択食を充実させる)
2. 職員が生き生きと働くことができる職場環境、職員教育の推進
- (ア) ICT化、介護ロボットの導入の拡充により、業務の改善、効率化を図る
- ①勤務時間、申し送り方法の見直しによる効率化
- ②顔認証システムの導入により離園防止及び職員の負担を軽減する
- (イ) 評価ツール・教育ツール・新人オリチェックを活用し職員育成を行う
- (ウ) 業務内容・役割分担を見直し、障がい者・高齢者をはじめ多様な人材への就労の場・スキルアップの仕組みをつくる
3. 安定した施設運営
- (ア) 経年劣化を見越した計画的な修繕の実施
- (イ) 入居者募集活動の推進
- ①募集媒体、ツールの強化
- ②体験入居、空床ショートステイの活用
4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取組
- (ア) 地域住民や団体の活動・発表の場として宝塚せいの里内の研修室を開放し、訪れやすい施設運営を行う
- (イ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる
- (ウ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る
- (エ) 介護職・看護職等の専門職による地域住民向けの介護講座・介護相談の開催、中学生トライアル研修・大学生ボランティア・実習受入れを通して福祉教育にも注力する
5. 環境活動への取組
- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	34,675名
一日平均利用者数	95.0名
稼働率	95.0%
稼働日数(延べ)	365日
単価(一人一日当り)	16,964円
サービス活動収益(千円)	588,243千円
職員数(常勤換算)	68.1名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2021年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設42年目を迎える。特別養護老人ホームは、地域の方にとって『最後のとき』を安心してむかえたい」という希望を叶えるための「介護における『最後の砦』」である。宝塚栄光園はそのために存在し、職員は利用者サービスを提供している。2021年度も新しい生活様式の継続が想定されるなか、利用者へサービスの質を確保していくうえでも、ICTや介護ロボットを更に活用し、業務の効率化・新たなニーズへの対応を行える人材育成を行う。また、これからも地域で必要とされる福祉施設であるため、新型コロナウイルス感染症拡大の環境下で、関わり方を工夫しながら、大規模災害等の訓練を地域と協力開催し、非常時に継続できる事業体制の構築を目指す。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者を守る

- (ア) その人らしく最期を迎えるために看取りケアで個別性を尊重した柔軟な対応を引き続き実施する。
- (イ) 新たな生活様式に則った余暇活動の充実として、疑似外出行事や少人数制ドライブを実施し、利用者満足度を向上する。
- (ウ) 宝塚エデンの園附属診療所のセラピストと連携した個別機能訓練の継続で現存機能の維持を図る。

2. 施設を守る

- (ア) 非常時に継続できる事業体制の構築の一環として大規模災害や感染症に対するシュミレーション訓練を定期的実施する。
- (イ) 防犯体制の強化として、ICTを活用した防犯体制の構築と定期的な防犯訓練を実施する。

3. 職員を守る

- (ア) 見守り支援センサーの導入で効率的な利用者の状況把握を可能にする。
- (イ) 次世代を担う人材の育成を行うために、外部研修・交換研修を積極的に実施する。
- (ウ) WINCARE の更なる活用により、事務業務の削減を実施する。
- (エ) チャレンジ精神を尊重する職場風土の構築を継続する。

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 新たな生活様式の中で、自治会への参加を行い、地域の中で必要とされているニーズを把握し、必要に応じて自治会と協力しながら対応する。
- (イ) 集まらないで実践できる地域に向けての介護技術や認知症予防等の勉強会を実施する。
- (ウ) 可能な限りデイルームを開放して、地域活動の受入を実施する。

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。(個室 19 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	15 人	85 人
利用者延べ人数	24,820 人	4,891 人	29,711 人
一日平均利用者数	68 人	13.4 人	81.4 人
稼働率	97.1%	89.3%	95.8%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	12,910 円	12,613 円	12,861 円
サービス活動収益(千円)	320,960 円	61,691 円	382,651 円
職員数(常勤換算)	48.8 人	6.2 人	55 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1. 利用者のニーズに対応できる事業所作りをする
 - (ア) 身体介護に特化した職員の育成に重点を置き、要介護者の受け入れ幅を広げる。
 - (イ) けあピアノートを活用して働きやすい職場環境や待遇も含めて整備を行い、登録ヘルパーを確保する。
 - (ウ) 要支援者への新たなサービスを見出していく。
 - (エ) 生活する力に目を向けた IADL 機能訓練の取り組みを行う。
 - (オ) 独居・高齢世帯の利用者について、他事業所と連携を図りながら支えていく。
 - (カ) 第二地区のデイサービスで移管を含めた連携を強化して、地区全体で利用者を支えていく。
2. 業務の ICT 化を進めていく
 - (ア) WINCARE を活用して業務のペーパーレス化を図る。
 - (イ) WINCARE を活用して他職種との情報交換や密な連携を図る。
 - (ウ) けあピアノートを活用して業務の効率化を図る。
3. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する。
 - (イ) 他施設も含め、役職者を担える職員を把握し、育成を目 3 的とした人事交流を行う。
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域住民に向けて、専門職が講座を行う。
 - (イ) 宝塚第二地区内の拠点 4 か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する。
 - (ウ) 地域ケア会議に積極的に参加し、地域の一体感を熟成していく。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
122 人	1,149 件	13,791 件	45 人	539 人	4,500 円	19,000 円	90,599 千円	28.3 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)		
27 人	689 人	8,268 人	24 人	282 人	10,500 円	42,100 円	98,946 千円	19.6 名

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚 聖隷ケアプランセンター宝塚 逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供

- (ア) 宝塚地区内の看護・セラピスト・介護・相談が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を支援する。聖隷訪問看護ステーション宝塚においては、特定医療行為研修の受講を進めていく。
- (イ) 聖隷訪問看護ステーション宝塚においては機能強化型訪問看護管理療養費1を、聖隷ケアプランセンター宝塚においては特定事業所医療介護連携加算を、継続的に算定していく。
- (ウ) 関係機関や地域住民に対して、ACP（アドバンスケアプランニング）を啓発していく。

2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

- (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する。
- (イ) 他施設も含め、役職者を担える職員を把握し、育成を目的とした人事交流を行う。

3. 資源の効率的活用と生産性の向上

- (ア) 事務職員の業務内容・配置を見直し、地区全体としての効率的な事務体制を構築する。
- (イ) 紙帳票のデータ化、保管方法の見直しにより新たな空間を生み出し、職場環境を改善する。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 宝塚第二地区内の拠点4か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する。
- (イ) ソーシャルワークの専門性を高め、制度と繋がっていない方へのアウトリーチ機能を強化する。
- (ウ) 地域ケア会議を積極的に開催し、地域の一体感を熟成していく。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	66人	653件	7,836件	10,300円	169,013千円	23.8名
介護	135人	712件	8,545件	9,300円		
予防	22人	78件	935件	8,600円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
3,738件	329件	18,800円	4,200円	2,500件	4,950円	84,030千円	14.6名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)		
4,920件	2,640件	5,000円	610円	78,095千円	15.1名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

[事業・運営計画]

1. 質の高い介護サービスを提供し、利用者が在宅生活を継続できるよう支援する。

(ア) 本人・家族が安心できる安全な介護サービスを提供する。

- ①要介護3以上の中重度介護が必要な利用者を中心に受け入れる。
- ②職員への介護技術のOJT・OFF-JT機会を創出し人材育成に努める。
- ③ケアの安全性を高める介護機器を検討し導入する。

(イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する。

- ①ICTを活用し訪問看護・在宅医と連携する。
- ②看護体制を強化し看取り期の利用者受け入れを増やす。

2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるよう支援する。

(ア) 認知機能評価により行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する。

- ①作業療法による認知症リハビリテーションを実施する。
- ②利用者個々の行動・心理症状へ対応する個別ケアを実施する。

(イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるよう関わる。

- ①介護負担尺度評価により介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する。
- ②事業所と利用者家族が関係構築できる場（運営推進会議）を定期的に設ける。

3. 地域における公益な取組

(ア) 逆瀬台地域の単身・高齢世帯への見守り活動に協力する。

(イ) 宝塚市地域生活支援事業「日中一時支援事業」を受託し障害児入浴サービスを継続する。

【数値目標】

通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
24人	628人	7,538人	8人	101人	13,000円	39,000円	110,638千円	21.8名

地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
7人	190人	2,280人	—	—	17,000円	—	38,607千円	7.2名

聖隷デイサービスセンター結い

【事業・運営計画】

1. 地域で最も質の高い機能訓練を提供できるデイサービスを目指す。
 - (ア) セラピストによる個別運動指導を充実させ、当デイサービスセンターでしか提供できないリハビリテーションを提供する。
 - (イ) 生活機能向上連携加算の算定率 30%UP を目標とする。
 - (ウ) 質の高いリハビリテーションを病院の退院支援・居宅介護支援事業所に積極的に発信していく。
 - (エ) 法人内、提携法人のセラピスト間で連携・教育体制を構築し、スキルアップを図る。

2. 報酬改定・制度の変化に対応し、事業継続できるよう運営体制変更していく。
 - (ア) 利用率は要介護 4 割：要支援 6 割を目指し要介護者の利用者獲得を図る。
 - (イ) 業務見直しを行い介護度の上昇に対応しつつ、人件費率 60%前後を維持する。
 - (ウ) 報酬改定・制度に合わせて所得可能な加算は積極的に算定する。
 - (エ) 通所の相談員で研修会を開催し、他事業所との調整能力・相談技術向上を図る。
 - (オ) 介護技術の向上を目的とした研修体制を構築し、要介護者の受け入れ範囲を拡大する。

3. 地域とのつながりの更なる発展と公益的取組
 - (ア) 地域住民交流会「ぷらっと野上」に対して施設設備内容を発信し、機能訓練を体験する場の提供を行う。
 - (イ) 機能訓練を通して地域向けにセラピストが行う介護予防講習会を開催する。
 - (ウ) 聖隷コミュニティケアセンター宝塚店と連携し、福祉用具の展示会を開催する。

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護 (日)	予防 (月)		
12 人	302 件	141 人	90 人	1,090 人	6,650 円	33,000 円	60,075 千円	11.6 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2021年度の介護報酬改訂では福祉用具貸与単価の上限見直しにより上限価格が下がるため、当事業所は年間2,500千円の減収が予測される。この収入減は、既存取り引き先からの依頼を確実に売上に繋げる事や自費貸与サービスの範囲を広げ貸与件数を増やす事で補っていく。また浜松での障がい事業を参考に、宝塚地区で事業展開を図るための「仕事」を作る。

【事業・運営計画】

1. 貸与受発注業務の改善

- (ア) 業務管理ソフトを導入することで、営業職員間での業務量や受注差を是正し依頼を受け易い体制を作り、聖隷の地域包括支援センター、居宅支援事業所からの貸与紹介件数を2020年度比5%アップを目標とする。
- (イ) 貸与紹介件数5%アップには営業職員間での連携が必須である。連携できる人員配置、役割を作り、職場の好循環を利用者のサービス向上に活かす。
- (ウ) 新型コロナウイルス感染症対応で在宅ワークが行える様、業務管理ソフトを使った新しい働き方を作る。

2. 自費貸与サービスの拡充

- (ア) 施設、在宅を問わず、自費レンタルの要望に応えられるよう取引先と協力し、対応できる品目を増やし、制度の谷間で困っている方へのサービスを作る。

3. 地域における公益的取り組み

- (ア) 聖隷のデイサービスセンターの空スペースを活用し、デイサービス職員の協力を得ながら利用者や地域へ向けた福祉用具の相談、PRを行う。

【数値指標】

年間 貸与件数	年間 貸与収益	年間 販売収益	年間 住宅改修収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
9,346件	101,323千円	57,700千円	19,000千円	178,023千円	11人

花屋敷せいの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2020年度は、新しい生活様式が求められ、改めて感染対策の重要性を理解するだけでなく、各事業におけるサービスや事業継続の在り方等、多くのことに影響を受けた年度であった。

2021年度は、在宅サービスと施設サービスといった制度の枠を超えた支援体制を促進させ、訪問看護とデイサービス、ショートステイが協働した新たなサービスに取り組む。また、より専門職として質の高いサービス提供が行えるよう、認知症ケアや医療的ケアといった専門的な関わりが行える体制構築に努め、継続した人材育成と情報共有システム等の活用にも注力する年度としたい。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
 - (ア) 在宅サービスと施設サービスが種別を問わずワンストップでの支援体制を促進させるとともに地域への周知に努める
 - (イ) 訪問看護と協働し、デイサービスやショートステイにおいて継続したりハビリや中重度利用者の受入体制を構築する
 - (ウ) 地域ニーズの把握に努め、既存サービス内容の見直しや新たなサービスを創造する
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
 - (ア) 資格取得職員を中心とした、認知症ケアや医療的ケアの専門的な関わりが行える体制を構築する

- (イ) 利用者の状態とケアの差異による介護事故の防止を図るとともに体調変化の早期発見と迅速な対応により、状態悪化の抑制に努める
- (ウ) ACP の考え方を共有し、看取りケアの有り方を考えるとともそのプロセスをケアプランや日々のケアにも反映させる
- (エ) 利用者の社会参加と季節を感じられる食事やアクティビティを提供する

3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり

- (ア) 根拠に基づいた支援が実践できるよう、eラーニング等を活用した育成体制を再構築する
- (イ) 専門研修の受講や資格取得により専門性の向上を図る
- (ウ) 介護支援システムや福祉機器等の活用を進め、業務負担の軽減や効率化を図る
- (エ) 新たな働き方を意識し、計画的な機器の購入や環境整備等を行う

4. 運営安定化の推進

- (ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (イ) 衛生管理及び感染予防を徹底し、集団感染や感染症蔓延防止に努める
- (ウ) ケアサポーターや障害者雇用を促進させ、外部委託業者の契約状況の評価と見直しを行う
- (エ) 適切な加算算定が行えるよう業務改善を図る

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 近隣の小学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める
- (イ) 地域の催事等にホールの開放を継続するとともに地域コミュニティへ参画する

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型空床型	通所介護		
			通常規模型	予防型	
利用者定員	108名	12名	47名		
利用延数	37,814名	4,326名	8,295名	1,033名	
一日平均利用者数	103.6名	11.8名	26.5名	3.3名	
稼働率(%)	96.0%	98.5%	63.4%		
稼働延日数	365日	365日	313日		
平均介護度	4.1	2.8	2.0	0.4	
単価(一人一日)	15,361円	14,500円	10,698円		
サービス活動収益(千円)	583,455千円	66,962千円	93,222千円		
職員数(常勤換算)	81.6名	9.0名	20.1名		
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)	障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	
宝塚市受託収入(千円)	37,700千円	—	—	13,194千円	
年間請求件数	予防プラン 請求件数	3,840件	360件	180件	—
	予防プラン 委託件数	1,080件			
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,175円	15,100円	15,100円	—
サービス活動収益(千円)	57,710千円	5,436千円	2,718千円	13,194千円	
職員数(常勤換算)	10.8名	3.7名			

	聖隷訪問看護ステーション						聖隷ケアプランセンター			
	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
医療	32人	263件	3,159件	9,800円	118,041千円	16.2名	—	—	—	—
介護	114人	685件	8,215件	9,170円			3,851件	17,300円	67,469千円	11.2名
予防	26人	105件	1,269件	9,170円			204件	4,200円		

ケアハウス花屋敷

2020年度は新型コロナウイルス感染が世界中で拡大し、生活様式を大きく変える事態となった。今後も起こるであろう新たなウィルスの脅威に対して、組織としての対応力強化と日頃から感染予防対策を行っていくことの大切さを痛感した。2021年度は、感染予防対策を取りながら、日常を取り戻し、ケアハウスの本来の役割「入居者の健康を維持し、生活を楽しんでいただく」取り組みを再開したいと思う。制限された生活の中で気付けたこともあり、入居者の多様な思いに寄り添い、新たな行事の在り方、参加方法等今まで以上に配慮していきたい。また、現在、入居者の平均年齢は87歳超となり、入院などをきっかけにADLの低下が進み退去せざるを得なくなることも多い。変化に早く気づき、速やかに支援につなげられるよう、新たなアセスメントツールの活用を進めていく。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります。
2. よりよいサービスを提供します。
3. 地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1. ACPについての理解を広め、体調変化や急変時等、本人の意思を尊重した対応が出来る
 - (ア) 定期的な情報収集のための訪問、担当者会議、日頃の会話から、利用者の価値観や大切にしていることを知り、本人の望む生活、生き方が出来るよう支援することができる
 - (イ) 急変時や老衰等になった際の医療的な処置の要否や人生の最終段階の過ごし方、場所等についても確認し、緊急時対応記録に残す
2. 入居者の心身の変化、状況の変化にタイムリーに対応できる体制と対応力の強化
 - (ア) 基本情報、生活状況を把握する為、定期的な情報収集を継続
 - (イ) 毎日午後の30分を入居者情報共有とアセスメント、支援内容検討・評価の時間とする
 - (ウ) 職員皆が使いやすいアセスメントツールを構築し、支援の方向性、支援内容を明確にプランとして挙げる事ができる
 - (エ) 学研eラーニングを導入、個別研修、施設内研修を行い、知識・技術の向上を図る
3. 健康維持増進のための取り組み
 - (ア) 心身の健康維持の為、「楽しむこと」を重視した催し・行事を企画する
 - (イ) 訪問看護ステーション山本の理学療法士、脳活性化ゲームの会、ツボ押し体操等、外部

講師の協力も得ながら、バリエーションのある健康体操を実施し、入居者が楽しみながら健康維持が出来る

(ウ)毎朝のラジオ体操を継続し、入居者・職員の健康維持を図る

4. ケアハウスらしい「健康的で美味しい食事」の提供

(ア) 栄養バランスのとれた、高齢者が食べやすく、美味しい食事を提供する

(イ) 敬老の日、クリスマス等の大きなイベントだけでなく、日本古来の習慣や関西の食の文化を大切にした食事を提供する

5. 運営の安定化の推進

(ア) 入居待機者増員に向け、高齢者住宅閲覧サイトを活用する

(イ) 感染状況に応じて、見学会又はWEB見学会を実施する。

(ウ) 地域活動、サロン訪問等を通して、困った時に相談しやすい関係を構築する

(エ) 入居者の多くが望む、せいの里で最期まで過ごせる仕組み、地域の方々がその人らしく最期まで過ごせるような仕組みをさらに進化させる

(オ) 業務内容、業務時間割を見直し、適性な職員配置が出来る

6. 災害時の準備、避難方法等、入居者の協力を得て、更にバージョンアップする

(ア) 夜間職員が少ない中でも安全に避難できる体制と安否確認方法をさらに高める。

【数値指標】

利用者定員	100人
利用者延べ数	36,500人
稼働率(%)	100%
単価(一人一日)	4,304円
サービス活動収益(千円)	157,109千円
職員数(常勤換算)	14.4人

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

【事業・運営計画】

1. 専門性の高い人材を育成し利用者のニーズに沿ったサービスを提供する
 - (ア) 対応できる人材を育成し、持続可能な療養生活を提供する
 - ① eラーニングで訪問看護知識、技術の向上、WEB研修に参加し対応力向上につなげる
 - ② 医療依存度の高い小児看護の対応力向上に向けて小児病棟研修や小児訪問看護研修に参加する
 - ③ 神戸市看護大学の精神事例検討会に参加し、精神看護や認知症看護の対応力の向上につなげる
 - (イ) 癌・非がん終末期患者と家族の意思決定支援の実現ができる
 - ① ACP・エンドオブライフケア支えのシートの取り組みを実践する
 - ② 希望に添える看取りができるようにケアの提供、家族支援ができる
 - (ウ) 難病や医療依存度の高い方へ24時間サービス提供できるよう連携し支援する
 - ① 聖隷ケアプランセンター北神戸、聖隷訪問看護ステーション北神戸との定期合同研修、合同カンファレンスを実施し、質の強化と支援体制の強化を図る
2. 各機関との連携を強化し、地域のニーズ、解決に取り組む
 - (ア) 退院時や発症直後の早期介入、密な多職種連携で要介護状態の改善や悪化の予防に取り組む
 - (イ) 北区地域包括ケア推進協議会に参加し地域課題に取り組む
 - (ウ) 認知症初期集中支援チームのメンバーとして初期対応し、その後の支援についても自施設を含めた支援機関へつなげる
 - (エ) 兵庫県立こころの医療センターと看・看連携し、交換研修を実施
 - ① 精神科病棟、外来への実習の参加や、訪問看護実習の受け入れをして、お互いの精神看護の質の向上と利用者の支援体制の強化を図る
 - (オ) 神戸市北区ケアマネジャー連絡会の企画運営へ参画し地域社会の問題解決につなげていく。
 - ① 他事業所も交えた事例検討会を開催する
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チームへ職員1名の派遣
 - (イ) 神戸市介護保険認定調査会審査員として職員2名の派遣
 - (ウ) 神戸市委託事業介護予防講座に2名の派遣
 - (エ) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授、講師を務める
 - (オ) 兵庫県看護協会 看・看連携実習を受け入れる

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

年間件数		平均単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
医療	介護・予防	医療	介護・予防		
5,827 件	5,369 件	10,200 円	8,695 円	100,147 千円	14.9 人

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
1,404 件	660 件	17,000 円	3,700 円	26,522 千円	6.5 人

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっとりこ

聖隷ケアプランセンター淡路、聖隷在宅介護支援センター淡路

2021年度の聖隷カーネーションホームは、法改正及び感染症対策を踏まえた内部強化・機能強化を推進し、東浦地区での事業の充実を図るとともに、淡路エリアにおける中核施設としてエリア全体での業績の質的・量的向上に邁進する。内部強化面では、ICT機器やeラーニングの本格導入による福祉・介護現場のイノベーションと、介護機器の更新を含むノーリフトケアを促進する。これらによって、利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場環境とやりがいのある仕事」を提供し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある総合福祉拠点を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え安心して生活できるよう、事業継続計画の見直し及び机上訓練の計画・実施と、リスク管理体制の強化を継続する。
 - (イ) 介護支援システム及びICT機器を活用してケアプランや情報共有のシステム化を進め、タイムリーな情報を基にケアを提供できる体制を構築する。
 - (ウ) 重度の認知症や障害者など支援困難な方や、制度の狭間で困窮している方等の受け入れに積極的に取り組み、より広い利用者層に活用していただける施設づくりを促進する。
2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進
 - (ア) 自立(自律)人材育成と事業目標達成の両立と、次世代リーダーの発掘・抜擢・育成のために、事業計画と連動した目標管理及び達成支援及びeラーニングの導入・活用を行う。

- (イ) ノーリフトケア推進のために介助機器を導入・更新し、職員の身体的負荷の軽減と安全性の向上を図り、働きやすい介護環境を整備する。
- (ウ) タブレット型介護記録入力システム (HIMVIT) を導入し、既存の WINCARE 介護支援システムと併せて業務の省力化と快適な使用環境を構築する。
3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善
- (ア) 業務の仕分けと分業を促進するとともに、ICT・IoT・スマートデバイスを活用したフィードバックを実施し、業務の量の削減と合理化・自動化を図る。
- (イ) 施設が地域の社会資源として有効に活用されるために、利用ニーズと稼働率を意識した経営を行い、利用者をよりスムーズに受け入れられるよう体制を改善するとともに、短期入所の増床を検討・企画化する。
- (ウ) 適切な加算算定と合理的な人員配置を行い、安定した経営を維持する。
4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓
- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続するとともに、潜在的な福祉ニーズを発掘する。
- (イ) 地域全体の福祉の向上のため、淡路エリア聖隷施設との相互支援や、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する。
- (ウ) 地域の福祉避難所としての役割を意識し、周辺地区の防災・防犯活動などを通して地域との繋がりを強めていく。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	16名	25名		12名
利用者延べ人数	19,053名	5,730名	5,890名	868名	2,631名
一日平均利用者数	52.3名	15.7名	19.0名	2.8名	8.2名
稼働率 (%)	96.9%	98.2%	87.3%		68.3%
稼働日数 (延べ)	365日	365日	310日		310日
平均介護度	3.95	3.09	2.38	—	2.2
単価 (1人1日当り)	11,865円	11,192円	10,451円	3,456円	12,169円
サービス活動収益 (千円)	227,390千円	65,348千円	63,031千円		31,823千円
職員数 (常勤換算)	32.4名	7.2名	10.9名		4.4名
	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷在宅介護 支援センター淡路		
年間請求件数	介護	予防			
	2,100件	300件			
訪問調査年間件数	36件				
サービス活動収益 (千円)	35,076千円		7,440千円		
職員数 (常勤換算)	6.0名		1.2名		

淡路栄光園

2020年度、淡路栄光園は、その多くの場面において新型コロナウイルス感染症による制限や縮小という、守りの姿勢が多い年であったといえる。しかし、この守りの中においても利用者・職員ともにより良くなっていきたいという職員の思いや取り組みは、着実に積み上がり、2021年度のステップに向けた大きな種となっている。2021年度、淡路栄光園は、コロナ禍においても利用者の安心や喜びにつながる新たなサービスの形、生活環境を実現していきたい。事業継続計画の強化や入浴、食事など生活の基本に直結するケアの充実、環境整備が大きな柱となる。そして、これらを実現実行する職員1人1人が働きやすく、やりがいを感じられる職場づくりとして、業務自動化や職員負荷軽減を目的としたシステム・機器を積極的に導入する。また利用者や職員全体の土台となる淡路栄光園という事業が、今後も地域の中で安定継続できるよう、介護報酬改定を踏まえた加算取得や増床、地域包括ケアシステムの推進につながる活動を実施する。これら全ての活動と成果は、利用者や地域の喜びとなり、職員の成長や働きがいにつながるプロセスであることを念頭に、本計画の達成に向けて邁進していきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 感染や災害に強く、利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
2. 職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
3. 介護報酬改定に対応し、今後も安定、継続して利用者サービスができる施設になる。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

【事業・運営計画】

1. 感染や災害に強く、利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
 - (ア) 感染症・災害・事故への対策の強化として、「感染症発生時等の事業継続（BCP）」「感染症発生施設への職員派遣」「安全対策担当者を中心としたリスク管理」の体制を整備する。
 - (イ) コロナ禍においても利用者満足を追求し、大きな楽しみである「入浴に関する満足度調査と質の向上」「ICTを活用した面会やレクリエーション」に重点を置いた取り組みを実施する。
 - (ウ) より楽しい食と居心地良い生活の場をめざし、「厨房機器・利用者用食器の入替」「トイレ・壁・床の美化修繕」「施設内環境美化」「照明機器LED化の検討」の取り組みを実施する。
2. 職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
 - (ア) 職員の負担軽減と働きやすさを追求し、「入浴用移乗機器の導入」「インカムの活用性の検証」「施設環境美化に伴う職員休憩室の整備」を実施する。
 - (イ) 職員の業務効率化と利用者サービスの充実を目的に、「施設内WiFi環境整備」とともに「タブレット型介護記録管理システム ヒムビット」を導入配備し、最大限の活用を目指す。

(ウ) 介護人材及び職員研修体制を強化するため、「EPAに基づく介護現場での外国人材の育成と協働」「オンラインでの介護研修システム 学研介護サポート」を開始する。

3. 介護報酬改定に対応し、今後も安定、継続して利用者サービスができる施設になる。

(ア) 増加するショートステイニーズに応えるため、「ショートステイ 2床を増床」「従来型個室のユニットケア居室化の検討」を実施する。

(イ) 利用者の生活機能、生活の質向上につながる加算の算定として、「短期入所 個別機能訓練加算」の他、「利用者の入浴、口腔衛生、栄養管理に関わる加算」の算定を目指す。

(ウ) 空床空席を最大限利用者に還元していく取り組みとして、「効果的な入退院を目的とした聖隷淡路病院との連携会議」「通所介護間での空席情報を共有するシステムの構築」「ホームページ情報の充実」を実施する。

4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

(ア) 地域包括ケアシステム推進への取り組みとして、「関係機関との協力に基づく ACP への取り組み」「認知症機能テストの定期実施」「eラーニングによる認知症研修」を実施する。

(イ) 地域との交流・貢献事業への取り組みとして、「近隣地域と協働の清掃活動」「認定こども園夢舞台と安全に配慮した交流事業」「山間地福祉バスの実現可能性の検証」を実施する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60名	19名	18名	
利用者延べ数	21,352人	6,609人	4,540人	341
一日平均利用者数	58.5人	18.1	14.6	1
稼働率	97.5%	95.2%	87.2%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	311日	
単価(一人一日当り)	11,817円	11,937円	9,186円	8,987円
サービス活動収益	252,324千円	78,893千円	44,770千円	
職員数(常勤換算)	42.0人	4.7人	6.7人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路第二
聖隷ヘルパーステーション淡路
聖隷ライフサポート津名

2020年度、当センターはリハビリテーション強化型の通所介護事業所を開設し、在宅支援体制の強化を図ることができた。これにより事業所間で繋がりが増加し、協働による効果的な支援が実践できている。又、訪問単価向上を意識した積極的な活動を行い経営の安定化も図られつつある。2021年度はICTを活用した広域での活動体制を整え、効率的な訪問による実績増加で安定した経営を継続させる。又、地域から信頼される在宅サービス拠点となる為、効果的なサービス展開ができる職員の早期育成を図ると共に、コロナ禍における感染対策を充実させていく。

【事業・運営計画】

1. 安定した経営の継続

- (ア) 支援現場で専門性が発揮できるよう、業務の分業と職種間の協働を推進する。
- (イ) 各事業共、単価を意識した事業運営を継続し、収益率を更に向上させる。
- (ウ) デイサービスは午後半日コースを開始し、登録者数の増加を図る。
- (エ) 居宅介護支援は訪問看護と連動し、自立支援や重度化予防を積極的に行う。

2. ICTによる業務改善

- (ア) 訪問看護は事務作業や人員体制の効率を図る為、スケジュール作成ソフトを導入する。
- (イ) 訪問介護は業務の省力化やケアの統一可を図る為、ケアピアノートを導入する。
- (ウ) 居宅介護支援は更なるタブレットの活用で業務を効率化し、利用者増を図る。
- (エ) デイサービスは早期の目標達成を目指した定期評価で、効果的なリハビリテーションを実施する。

3. 個別的、効果的なサービス提供のできる人材育成を行う。

- (ア) ケアセンター内でのカンファレンスや事例検討会を活発化させる。
- (イ) 職種別ラダーやWeb研修等を活用し、職員のスキルアップを図る。
- (ウ) 支援現場での対応力向上に向けた同行訪問や交換研修を増加させる。
- (エ) インシデント・アクシデント・苦情対応等の検討を充実させ、業務改善に繋げる。
- (オ) 淡路エリア看護連絡会と感染委員会との協働で、新型コロナ感染対策を確実に挙げる。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 感染対策の上、多職種や地域住民を対象とした感染対策等の啓発活動を行う。
- (イ) 関西医療大学や平成看護専門学校の在宅実習を可能な範囲で受け入れる。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
322 件	10,250 円	984 件	8,800 円	135 件	8,000 円
サービス活動収益		158,819 千円	職員数（常勤換算）		24.5 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
106 件	22 件	15,000 円	4,500 円	2 件	20,256 千円	2.6 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
1035 件	3,750 円	165 件	2,950 円	352 件	4,500 円	14 件	2,250 円
サービス活動収益		74,764 千円		職員数（常勤換算）		16.7 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付	
	延べ利用者数	4,118 名	延べ利用者数	3,004 名
25 名	1 日平均数	16 名	1 日平均数	11.6 名
営業日数	単価（1 人 1 日）	8,587 円	単価（1 人 1 日）	4,108 円
258 日	サービス活動収益	47,891 千円	職員数（常勤換算）	8.8 名

聖隷こども園夢舞台

新しい生活様式など社会や生活の場面での変化が続く中ですが、2021年度も保育の質を考える年度と捉え、聖隷こども園夢舞台が目指す保育の展開を職員と共に考えていきたい。キリスト教保育についても、形だけに捉われるのではなく、まずは職員の心が動いていくような投げかけや場面の設定を通して一步ずつ進んでいきたい。

また、職場の中でのチーム作りを心がけ、会議や打ち合わせの場面で職員が主体性を持って意見を発信することや、異なった意見に対してその内容を前向きな検討材料として受け入れていけるように語りあえる風土を作っていきたい。

子育て支援事業の一時保育や園庭開放、子育て支援プログラムの充実を図り、家庭で保育をされている保護者の悩みやニーズを把握し、この地域に求められているものを模索していく。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22:39)

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する。
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育計画を立案し、実行する。

また、個々の子どもの興味や関心に寄り添いながら、遊びを通して主体性をひきだし、そこから行事へと繋げていけるように意識をしていく。
 - (イ) 年間研修計画に従い、施設内外の研修に参加し、知識や技術の向上を図る。また、各自の学びを職員会議の中で伝え合い、職場全体のスキルアップへと繋げる。
 - (ウ) 園児の成長発達にあった玩具や環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める。
 - (エ) 保育職ラダーを活用し、個々の役割や目標を明確にして個々の資質向上を目指す。
 - (オ) 聖隷訪問看護ステーション淡路と連携した病後児保育を行う。
2. 信頼され、選ばれ続けるこども園となるため、園の保育方針や子どもの姿を保護者へ発信することを大切にしていける。

(ア) 危機管理委員会を活性化し、ヒヤリハットの分析をもとに、リスクに対する意識向上を目指す。

(イ) 聖隷淡路病院と連携を図り、子育て支援プログラムの実施を行う。

(ウ) 地域の町内会や各種団体等と交流を図り、相互理解に努め、信頼・共助関係を構築する。

(エ) 病後児保育事業を進めるに当たり、地域の子育て家庭の支援に努める。

3. 地域における公益的な取組を継続実施する。

(ア) 中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する。

(イ) 小学校との連携を図り、個々の子どもの引継ぎを詳細に行い、就学へと繋げていく。

(ウ) 相談・見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職として積極的に関わることで支援に努める。

(エ) 実習生の受け入れを積極的に行い、雇用へ結び付けられるようにしていく。

4. 安定した運営に努める。

(ア) 適切かつ効率的な職員配置が行えるように、職員雇用やクラス編成を検討する。

(イ) 消耗備品の購入状況、及び外部委託業者の契約状況を評価し、適正化を図る。

(ウ) 行政機関との円滑な調整、情報開示の徹底、計画的な人員の確保等を図る。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
利用定員(1号)	-	-	-	10名	10名	10名	30名
利用定員合計	5名	5名	15名	31名	32名	32名	120名
一日平均入所者数	4.6名	18.5名	21名	43名	31名	32名	150名
年間入所延人数	55名	222名	252名	516名	372名	384名	1,801名
入所率	91.7%	370.0%	140.0%	138.7%	96.9%	100%	125.1%
開所日数(延べ)	293日(教育週数 49週)						
サービス活動収益	164,339千円						
職員数(常勤換算)	25.6名						

【実施事業】

延長保育、障がい児保育、一時預かり保育、病後児保育

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービス
・聖隷チャレンジ工房カナン

2020年度は新型コロナウイルスの蔓延防止として、感染症対策の強化及び機器等の整備と効果的な活用等、これまでの業務方法を大きく変革する年度となった。

そのような状況において、地域の高齢者や障害者へのサービス提供、地域共生社会の実現に向け事業を継続できたことは、職員一人ひとりの努力の賜物である。

また、人材確保が厳しい状況の中、就労支援事業所の訓練を積んだ障害者雇用や、高齢者の雇用により介護周辺業務従事者の確保や、介護職員の負担軽減に努めた。

さらに、訪問介護員が減少する中、コロナ渦の影響のため防護服を着用し身体介護のサービス提供や、大型台風接近時に10名の緊急受け入れなど手厚い支援ができた。

2021年度は介護ロボット等の積極的な導入を検討し、サービスの質の維持・向上に努め、既存する福祉事業の強化を図り「地域にとって欠かすことのできない福祉拠点」としての更なる価値を高めていく。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、このことを通じて

私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組
 - (ア) 利用者の尊厳を大切にサービス提供、職員の知識・技術向上のために研修等を活用し、サービスの質の向上へと取り組む。
 - (イ) 利用者の個性・ニーズに合わせた個別支援計画を作成し、質の高いサービスを提供する。
 - (ウ) 利用者の安全な生活環境を高めるために、事故予防や入院予防、口腔機能の維持、看取りケアの促進に取り組む。

2. 職員満足向上のための取組

- (ア) 介護ロボット等の導入・活用を検討し、業務効率化や生産性の向上に取り組む。
- (イ) 職員の資質と意欲の向上を図るために、専門職ラダーの運用及びOJTを推進する。
- (ウ) 職員の健康維持及びサービスの質の向上のために、介護機器を活用する。

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築

- (ア) 相談専門職の技術促進を目的とした研修企画の運営実施及び定期の連絡会において、組織目標を意識した事業の安定化に取り組む。
- (イ) 入院者のフォローによる長期入院の削減及び待機上位者の早期入所へ取り組む。
- (ウ) 聖隷ケアセンターの立地条件を生かし、障害を持つ青年期への支援を検討する。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 福祉拠点施設の経験や機能を活かし、オンライン等を活用した介護者勉強会を開催する。
- (イ) 生活困窮・高齢・自信を無くした方々に対し職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供する。
- (ウ) 地域の社会福祉法人と連携し、地域における災害時の支援・感染症対策支援・生活困窮に関する課題の解決に向け実践する。

【数値指標】

	特養入所		短期入所		訪問給食	生活困窮
	従来型	ユニット型	従来型	障害		一時生活支援
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,703名	10,622名	3,132名	80名	16,425名	37名
一日平均利用者数	48.50名	29.10名	8.58名	0.22名	45名	0.10名
稼働率	97.0%	97.0%	85.8%	2.2%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	365日	365日
単価 (一人一日当り)	12,206円	14,901円	12,111円	11,669円	800円	6,000円
サービス活動収益	216,077千円	158,268千円	37,927千円	937千円	13,140千円	219千円
職員数(常勤換算)	36.6名	19.3名	5.1名		2.8名	
	奄美佳南園デイサービス			春日デイサービス		
	地域密着	介護予防	生活介護	地域密着	介護予防	
利用者定員	18名			15名		
利用者延べ人数	3,807名	309名	276名	2,256名	1,934名	
一日平均利用者数	12.32名	1.00名	0.89名	7.30名	6.26名	
稼働率	68.45%	5.56%	4.97%	48.68%	41.73%	
稼働日数(延べ)	309日	309日	309日	309日	309日	
単価 (一人一日当り)	9,574円	5,057円	7,781円	10,543円	5,026円	
サービス活動収益	36,453千円	1,566千円	2,150千円	23,909千円	9,722千円	
職員数(常勤換算)	8.4名			7.1名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		就労支援	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続B
利用者定員					6名	14名
利用者延べ人数	663名	177名	5,082名	739名	1,658名	3,653名
一日平均利用者数	2.15名	0.57名	13.92名	2.02名	6.40名	14.11名
稼働率					106.68%	100.75%
稼働日数(延べ)	309日	309日	365日	365日	259日	259日
単価 (一人一日当り)	16,943円	13,639円	4,143円	4,051円	8,220円	9,908円
サービス活動収益	11,236千円	13,639千円	21,056千円	2,994千円	13,627千円	36,196千円
職員数(常勤換算)	3.2名		7.2名		7.7名	
	年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)	
在宅介護支援センター	1,200名	259日		6,000千円	2.0名	
居宅介護支援	介護	840名	259日	16,787円	14,101千円	2.5名
	予防	360名	259日	4,594円	1,654千円	

春日保育園

2020年度春日保育園は設立60年を迎え、先人から受け継いできた保育方針や地域における役割を振り返り、春日保育園の必要さを改めて認識した。

新型コロナウイルス感染症により、行事の在り方や新しい生活様式に基づいた対応が求められた。2021年度も引き続き感染症対策は続くと考え、行事の在り方の見直し等についてさらに検討していく。

また、子どもたちの自己肯定感や考える力を育む事を目的とし、個別支援の充実に向けた保育環境を整えていく。

近年、特性が強い児童が増加傾向にあるため、児童発達支援センター等関係機関との連携をさらに推進し、統合保育へのニーズに対応する。

人材確保及び育成については、奄美エリア内各施設と共に、求人活動やキャリアアップ育成方針を実施し、保育の質の向上に努める。

現代の社会現象として不登校が大きな問題になっている。幼児期に親子の「愛着関係」を育むことがいかに大切かを知ってもらうための様々な機会を設けると共に、奄美の中で地域貢献を担う組織として、また子育て支援拠点としての更なる価値を高めていく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～子どもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園となる～

【経営方針】

1. 保育園の機能強化と専門性の向上
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 保育園の機能強化と専門性の向上
 - (ア) 保育理念、保育所保育指針等により目標を明確にし、発達に則した環境に配慮をする
 - (イ) キャリアアップ研修や専門分野研修に参加し、職員のスキルアップを図る
 - (ウ) 保護者支援
 - ① 前向きな気持ちで子育てに向き合えるよう、多くの保護者を対象としたペアレントプログラムを実施する
 - ② 個別面談を実施し、子育てに関する悩み等の相談に対応する
 - ③ 子育てサロンを定期的に開催し、保護者同士の交流の場を提供する
 - ④ 安心して子育てに向き合えるよう、育児講座を行い知識を広げる

- (エ) のぞみ園、聖隷かがやきと共に、専門的な保育・療育に関する職員研修を開催する
- (オ) 保育職ラダーや目標参画を通じ、自己の課題や成長を明確にし、職員のスキルアップに取り組む

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) 児童発達支援センターのぞみ園と、並行通園児の情報共有を行う
- (イ) 通園児の奄美市健康診断後の相談や発達検査のフォローに関し、関連機関と連携を行う
- (ウ) 春日保育園主催の親子教室の開催を継続的に行い、気になる親子への対応については保健師との連携を図る

3. 地域との連携を根ざした公益的な取組

- (ア) 地域の子育て支援拠点として、広報誌の発行や行事等への参加の呼びかけを行う
- (イ) 「子育てサロン」や「新米パパ・ママ保育所体験」を開催する
- (ウ) 実習生の積極的な受け入れや学校へ出向く機会を設け、交流の場を増やす
- (エ) 高齢者との触れ合いの場を設ける

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	12名	24名	24名	20名	20名	20名	120名
一日平均入所者数	8名	20名	23名	27	26名	16名	120名
年間入所延人数	96名	240名	276名	324名	312名	192名	1,440名
入所率	66%	83%	95%	135%	125%	80%	100%
開所日数(延べ)	295日(教育週数 52週)						
サービス活動収益	133,816千円						
職員数(常勤換算)	25.5名						

のぞみ園

児童発達支援センター
放課後等デイサービス
相談支援

2020年度は、障害福祉サービス等報酬改定が行われると同時に、新型コロナウイルス感染症への対応や虐待・貧困など複合的な問題を抱える世帯への支援、事業体の増加に伴う連携体制作りなど、新たな役割に取り組んだ年でもあった。しかし、その一方で現場の労働力不足は深刻で、事業体の増加も影響し求められる福祉ニーズへの対応やサービスの持続性を確保するための「人材確保」については課題が大きい。

そこで、2021年度は2020年度から中長期的継続目標に定めた、ライフステージに応じた「継続性のある支援」と「成長した先の自立支援」の体制作りに、奄美エリア各施設と連携体制を強化しながら取り組んでいく。また、感染症や災害発生時においても必要なサービスが継続的に提供できる体制作り、地域共生社会や労働人口の減少に対応した「高齢者と障害者がともに働きやすい職場」作りを推し進めていく。くわえて、地域に施設機能を活用してもらい取り組みの実践等を通して、地域に貢献できる施設運営を行っていききたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～子どもたち一人ひとりの育ちと保護者の願いに寄り添う支援～

【経営方針】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと感染症や災害時に対応できる体制作り
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化

(ア) 子どもの発達支援

- ① 愛着関係を基本とした子どもの発達支援と、養育者と子どもの愛着形成に向けた支援を柱とした療育を行う
- ② 子どもの気持ちを出発点にした意欲と自己肯定感を育む療育を行う
- ③ 各ライフステージに応じて、将来の自立に向けたソーシャルライフスキルを高めることのできる支援体制作りを行う
- ④ 保育所等訪問支援事業の充実と丁寧な相談支援の実施により、関係機関と連携を深め、継続性のある支援を行う

イ) 保護者支援

保護者懇談会・保護者交流会・ペアレントプログラムの実施を通して、保護者同士の仲間

作りや就学支援など、見通しを持って子育てしていける環境作りを行う

ウ) 地域支援

施設見学、職場体験、福祉・保育実習の積極的受け入れと、地域の子育てや発達に関する相談窓口として、関係機関や市町村保健師との連携体制を強化する

2. 働きやすい職場環境作りと感染症や災害時に対応できる体制作り

ア) 専門職としてのキャリアアップ支援への取り組み（オンライン研修の積極的導入・資格取得と関連研修受講促進・各専門職ラダーと目標参画との連動と活用・研修委員会を中心とした年間の事業所内研修の企画運営）

イ) 生産性の向上を目的に業務のマニュアル化や業務分掌の明確化をすすめ、周辺業務に対する非専門職人材の雇用を進める（高齢者、障がい者雇用）

ウ) 職員間のコミュニケーション向上と離職防止への取り組み（職場、個人の目標達成に向けた支援の徹底・奄美エリア施設間も含めた職員交流の促進・エリア子ども支援会議による連携強化）

エ) 防災計画を見直し、地域と合同の防災・防犯訓練の開催と感染症発症時の対応訓練を実施する

3. 地域における公益的な取り組み

ア) 奄美市親子教室への参画とのぞみ園親子教室「はっぴい」を開催し、地域向けの子育て支援、保護者の交流促進等を通して、療育施設を知ってもらう取り組みを行う

イ) 障害特性により配慮が必要な親子の災害時の受け入れ先として、事業所が担える役割を奄美市と協議し体制を整える。

ウ) 鹿児島県発達支援通園事業連絡協議会や奄美療育ネットワーク・自立支援協議会と連携して、地域の療育に関わる支援者の育成研修を企画・実施する

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25名		10名		
利用者延べ人数	6,838名	40名	2,964名	11名	530名
一日平均利用者	28.61名	0.17名	12.4名	2.22名	0.05名
稼働率	114.4%		124%		
稼働日数（延べ）	239日		239日		
単価（一人1日当り）	13,672円	11,200円	9,515円	17,363円	19,316円
サービス活動収益	93,490千円	448千円	29,701千円	191千円	10,238千円
職員数	19.5名	0.7名	7名	3.2名	

聖隷かがやき

児童発達支援センター
放課後等デイサービス
相談支援

2020年度は、北大島地区における児童発達支援センターとしての役割による保育所での親子遊びの提供や、子育ての相談に対応することで地域に開かれた施設として理解が高まり利用増加につながった。子どもの困り感に寄り添い、「療育」の必要性を感じ「今、子どもにできるところ」、「子どもの将来に結びつくところ」として子ども、保護者が安心できる支援施設としての機能を果たしている。また、放課後等デイサービスにおいても、家庭や地域の学校、学童との連携により、学童期での大切な場所として役割の認知度が上がり、地域に定着した。

2021年度は「療育」の必要性が地域に更に高められるためにも、施設開放での園庭利用や発達に即した遊びの充実を図ると共に職員の資質向上に向けて研修体制を整え、支援体制を強化し、地域に根差した施設運営を推進していく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や成長の発達につまずきのある子どもの支援～

【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化を図る

(ア) 子ども支援

- ① 子ども一人ひとりの特性に合わせた個別支援の充実を図り、「できる」気持ちを高め自己肯定感を持たせる支援プログラム・目標の作成
- ② 年間のテーマを決めて「集団」における人とのコミュニケーション力を培える環境設定
- ③ 個々のこだわりへの対応負担軽減の為にも「食」への意欲形成を構築する支援の実施

(イ) 家族支援

- ① 個別の支援計画に沿って家庭でもできる関わりを共有し、子どもの困り感に家族も寄り添い、子どもの長所を伸ばしていける支援体制の充実を図る
- ② 保護者同士が交流できる場の設定、親子遊びの提供を実施
- ③ 保護者のペアレントプログラムへの参加により、保護者自身の自己肯定感、子育てへの不安軽減を図る

(ウ) 地域支援

- ①地域の保育所、子育てサークル、学童との交流や施設開放での園庭活用で身近な地域との関わりを持ち安心した子育て環境作りに取り組む
- ②地域の子育て相談事業所としての位置づけを図る

(エ) 経営の安定化

- ①地域への親子遊びの場の提供から、気になる子どもへのフォロー体制作りを構築することで、行政との連携の強化を図る
- ②早期療育への理解を広めることに努め、利用の安定化につなげる

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

- (ア) 目標参画、保育士ラダーを活用し、個々の課題、チームとしての課題を振り返る場の設定により自己の評価、改善から質の向上につなげる
- (イ) 奄美エリア内における職員同士の横のつながりを持つリモート研修をする機会の設定

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 行政主催の親子教室への参画（遊びの提供、相談、早期療育）および地域への自施設での親子遊びの場の提供
- (イ) 他法人団体の地域貢献活動への参画（龍進塾送迎事業）
- (ウ) 災害時における地域自治体との協力体制を構築

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	3,770名	49名	2,830名	105名	92名
一日平均利用者数	15.77名	0.21名	11.84名		
稼働率	78.9%		118.4%		
稼働日数（延べ）	239日	239日	239日		
単価（一人一日当たり）	12,764円	13,286円	7,522円	16,579円	15,348円
サービス活動収益（千円）	48,122千円	651千円	21,287千円	1,740千円	1,412千円
職員数（常勤換算）	9.5名	0.5名	5.0名	0.3名	0.4名

聖隷ケアセンター沖縄

聖隷訪問看護ステーションゆい

聖隷居宅介護支援センターゆい

聖隷デイサービスセンターゆい

2020年度、全世界を震撼させた新型コロナウイルスにより、沖縄地区では3度の緊急事態宣言が発令され、在宅サービスに多大な影響を与え、感染対策や働き方等を改めて見直す1年となった。2021年度、感染拡大のリスクが続く中、安全に安定した事業継続のために業務を見直し、また、介護保険改正に合わせ、安定した経営基盤を作っていく。With コロナという新しい課題の中で、センター内の連携をさらに強化し地域の中で信頼される場所にしていきたい。

【事業・運営計画】

1. 職員個々の専門性を強化し、地域で信頼される事業所となる
 - (ア) 各事業所で研修計画の作成、Webも活用した研修へ参加をする
 - (イ) 各事業、業務内容の見直しやICTを活用し、業務の効率化を実現することで利用者が増加しても超過勤務削減、有給休暇取得をしやすい職場作りを目指す
 - (ウ) センター会議やセンター内勉強会の定期開催を実施する
 - (エ) 利用者アンケートの実施をする
2. 感染・災害に対応し事業継続できるための基盤作りとセンター内の連携強化
 - (ア) 各事業、現状に即したBCPの作成、見直しをする
 - (イ) センター内で感染症対策研修や訓練の実施をする
 - (ウ) センター内事例検討会の開催をし、情報共有の仕組み作りをする
3. それぞれの事業が経営的に自立することでセンターとして安定した経営基盤を築く
 - (ア) 加算の見直しをし、適切な加算算定を目指す
 - (イ) 訪問看護ステーションゆいは利用件数を増やすための業務改善を実施する
 - (ウ) 近隣病院、相談支援事業所、居宅介護支援事業所等への営業活動方法の検討をする
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域で実施する事業への参加や講師の派遣をする
 - ①認知症キャラバンメイト連絡会へ参加
 - ②嘉手納町事業のゆる（認知症）カフェ 認知症サポーター講座への講師派遣
 - (イ) 地域の防災訓練への参加をする
 - (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの受け入れを行う

【数値目標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	平均単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
66名	288件	3,452件	9,792円	31,924千円	3.7名

居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
1,071件	281件	14,973円	4,250円	17,230千円	3.0名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数		年間件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	介護	予防		
426件	50件	5,118件	604件	8,800円	5,164円	48,161千円	8.0名

聖隷こども園わかば

2021年度は近隣に新設の保育園が増えており、地域に信頼され、選ばれる園となる為にも今まで以上に保育の質の向上に力を入れていく。今後確実に進む少子化に対し、自園の強みを理解し分かりやすく地域に発信し続けていくと共に、乳幼児の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたる生きる力を育む基礎となる重要な時期であることを理解し、その大事な時期に関わることの意味を改めて考えたい。

また、職員にとって働きやすい職場作り、業務改善については継続して努めていきたい。そして、職員一人ひとりが社会状況の動きに関心を持ち、何が必要か考え見極めていく力をつけていけるよう、保育の専門性を高める研修や勉強と共に、OJTによって社会人としての力の底上げをしていきたい。

さらに、地域の子育ての拠点施設として引き続き園を開放し相談事業、多世代支援に力を注いでいく。地域に開かれる拠点施設として求められていることを職員一人ひとりが理解を深め、こども園併設型の支援ひろばの在り方を改めて考えていきたい。また、病後児保育事業、統合保育の推進等、関係機関・地域との連携を図った取り組みを進めていきたい。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え判断し行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 入所希望のニーズに応えることで安定した運営をはかる
2. 職員一人ひとりが施設理念・園目標をもとに、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う
3. 子育て世代に求められる幅広い子育て支援を知り、積極的に取り組むことにより、地域での存在の意義を深める
4. 感染症対策の取り組みに対し、見直しを行い強化を図る

【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を实践する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく
 - (イ) 乳幼児が主体的・対話的・深い学びが出来るよう、保育者が関わりについて学びを深めるとともに、継続的に遊びが展開できるような環境作りを進め、発達に即した教育・保育内容の充実を図る

2. 保育職としての専門性を高める

- (ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う
- (イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる
- (ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園だより・クラスだより・連絡ノート・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していく

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばの充実をはかり、子育てに悩みを抱える方の相談、安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する
- (イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	24名	30名	36名	36名	37名	37名	200名
利用定員（1号）	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	24名	30名	36名	38名	39名	39名	206名
一日平均入所者数	15.3名	30.0名	36.0名	35.0名	34.0名	34.0名	184.3名
年間入所延人数	183名	360名	432名	420名	408名	408名	2,211名
入所率	63.5%	100%	100%	92.1%	87.2%	87.2%	89.4%
開所日数（延べ）	293日（教育週数 44週）						
サービス活動収益	237,328千円						
職員数（常勤換算）	45.9名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

地域子育て支援拠点事業

病児保育事業（病後児型）

聖隷こども園桜ヶ丘

2020年度は、新型コロナウイルス感染防止により、「新しい生活様式」における日常の保育の在り方や行事の見直し行うことになった。新型コロナウイルスはいまだ猛威を振るっており、終息に至った後も社会生活や働き方に大きな変化や影響を受け、子ども・子育て支援ニーズについても新たな生活様式に基づいた対応が求められることが予想される。

コロナ禍であっても日常の喜びや四季の変化を五感で感じることができる子どもたちが、のびのびと健やかに成長していけるように、子ども主体の保育・教育の充実を図っていく。そのために、今後も園内研修やリモート研修の充実、園内研修の中で、「保育について語り合う風土」を構築、職員間のコミュニケーションを図り保育の質の向上に努めていきたい。

2021年度は、職員の得意なことを活かした親子広場の企画を取り入れたり一時保育の受け入れを積極的にして地域のニーズに応える保育をしていき入園にもつなげていきたい。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 職員一人ひとりがこども園への理解を深め、入園希望者のニーズを理解し、応えることで安定した運営をしていく
2. 職員一人ひとりが、園目標を基に質の高い教育・保育を実践できるよう、職員の資質向上を目指す
3. 信頼され、選ばれる園となるよう園内外の保護者支援に努める
4. 地域に信頼される園となるべく、地域との交流を深めて地域貢献を図る

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 子どもの最善の利益を考え、施設理念や保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育・教育」を実践する
 - (イ) 全体的な計画、教育課程、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「キリスト教保育指針」に基づき、「子ども主体の保育」を実践する
 - (ウ) 統合保育の実践
 - ①浜松市の「子どもの発達支援巡回事業」を積極的に利用して、専門知識や個別配慮の必要な子の関わり方を共有し保護者へのアプローチの仕方を学ぶ。
 - ②障がいがある園児の並行通園施設や医療機関と連携を図り、きめ細やかな保育を行う。
 - (エ) 子どもが主体的に生活できる環境を整え、遊びや体験を通して学べる保育・教育を展開する

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 保育職ラダーを活用し、職員個々の課題の明確化、スキルアップと共に各自が自分の役割を理解し、キャリアアップを目指しながら職員全体の資質向上を図る
- (イ) 園内勉強会を年間計画（事例検討・講師を招いた講話や実践等）にそって月に1回行い、保育について語り合い専門性を高める
- (ウ) 保育浜松エリアの職員間でピアジェの構成論に基づいた研修を行い、遊びや生活における乳幼児の知的発達を理解し、保育に活かしていく。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 働きやすい環境整備、並びに計画的な業務推進により、職員の心身の健康維持に努める
- (イ) 保育浜松エリア協同で保育システムの有効な使い方を検討し、業務省力につなげる
- (ウ) お互い意見が言い合える環境を整える。

4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み

- (ア) 中高生の職場体験を受け入れ、次世代育成に貢献する
- (イ) 親子ひろばや園見学等で来園される方に対して、職員が専門職として丁寧に関わることで保護者支援に努める
- (ウ) 地域の自治会やシニアクラブ、近隣施設（都田南小学校・浜松学園等）と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する
- (エ) 近隣の学童保育施設から、卒園学童を18時～19時まで受け入れを実施する

5. 新型コロナウイルス感染症予防の取り組み

- (ア) 室内消毒清掃・換気・手洗い(手指消毒)・毎日の検温(体調管理)等の感染対策を徹底しながら、日々の保育や行事の在り方の検討する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	21名	30名	30名	36名	36名	37名	190名
利用定員(1号)	-	-	-	-	-	-	-
利用定員合計	21名	30名	30名	36名	36名	37名	190名
一日平均入所者数	11名	28名	30名	33名	32名	34名	168名
年間入所延人数	132名	336名	360名	396名	384名	408名	2016名
入所率	52%	93%	100%	91%	88%	91%	88%
開所日数(延べ)	293日						
サービス活動収益	200,857千円						
職員数(常勤換算)	38.7名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型)

親子ひろば

聖隷こども園ひかりの子

乳幼児の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っている。しかし、急速な少子化の進行、家庭及び地域を取り巻く状況の変化等が複合的に絡み合い、乳幼児の生活経験が不足しているといった課題もみられる。こども園においては、集団活動を通して、家庭や地域では体験し難い、社会・文化・自然等に触れる中で、乳幼児期に育みたい資質・能力を育成する教育・保育の実践の質の向上に一層取り組んでいく必要がある。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症への対応をとりつつ、子どもの健やかな育ちをいかに支えていくかが今日の課題となっている。こうした課題にも的確に対応するため、保育環境の整備も含めた乳幼児の教育・保育の内容・方法の改善や充実、職員の人材確保・資質及び専門性の向上、質の高い保育・教育を推進するための体制の構築等の取組を進めることが必要である。

【施設理念】

『ひかりの子らしく歩みなさい』～エフェソ信徒への手紙 5:8～

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 教育・保育理念に基づき、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を指標として事例検討会等で具体的な学びを深め、保育実践に繋げる。
 - (イ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、生活・遊びの中で、他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える。
 - (ウ) 子どもの環境を通しての学びを職員間で共有し、乳幼児期の発達と学びの連続性を踏まえ、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく。
 - (エ) 感染症予防を大前提とし、日常の保育活動から行事の内容や方法を見直し、行事を通して一人ひとりの子どもが大切にされ、充実した主体的な楽しい活動が保障されるよう、職員間でその都度確認し合っていく。
 - (オ) 子どもの発達や学び、園での教育・保育の実践の意図やねらいを保護者に丁寧に伝え、教育・保育を可視化することで相互理解を図る。

2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (カ) 保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加する。
- (キ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む。
- (ク) 保育の記録システムを有効活用し、業務の ICT 化及び業務負担の軽減を目指す。

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 小学校教育との接続をふまえ与進小学校との交流（授業体験・プール交流等）
- (イ) 松浜会市野与進こども園と連携・交流をしていく。
- (ウ) 行政・民生児童委員・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図る。
- (エ) 地域の美化活動・子育て会議・老人会との交流に参加し、地域の実態を把握すると共に、園の教育・保育内容の発信を行う。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) ケガの報告やヒヤリハットの検証を行い、リスク発生時の対応と予防の周知を図る。
- (イ) 感染症に関する正しい知識や情報を共有すると共に、有事には関係機関とスムーズに連携できるよう体制の整備、研修の充実を図る。
- (ウ) 防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する。（親子ひろば・園庭解放）
- (イ) 中高生の職場体験学習やボランティアを受け入れ、次世代育成に貢献する。

【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3）	27名	36名	36名	43名	43名	43名	230名
利用定員（1号）	—	—	—	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	27名	36名	36名	45名	45名	45名	236
一日平均入所者数	16.2名	30.0名	35.0名	40.0名	40.0名	39.0名	200.2名
年間入所延人数	194名	360名	420名	468名	480名	468名	2,390名
入所率	59.9%	83.3%	97.2%	88.9%	88.9%	86.7%	84.4%
開所日数（延べ）	239日（教育週数 44週）						
サービス活動収益	235,980千円						
職員数（常勤換算）	43.2名						

【提供保育事業】

延長保育事業	障がい児保育事業
一時預かり事業（一般・幼稚園型）	外国人児童保育事業
親子ひろば	類似型学童保育事業

聖隷こども園めぐみ

浜松市の待機児童対策に寄与する形で開園し4年が経過した。この間様々な保育ニーズに応え1号認定児、外国籍児、障害児等を受け入れ園児数も増えてきた。2021年4月より事業所内保育所聖隷めぐみ保育園との統合により、定員を166名から216名に増員しスタートすることとなった。既存の施設を有効活用し保育を展開していきたい。

保育士の人材確保が困難な中、重点的に採用活動を行なった結果、2021年度は保育士配置が充足した為、今後はより一層育成に力を入れていきたい。保育環境が変化する中で「保育の質の向上」に向け、園内研修や保育学会への取り組み、研修参加等を通して職員一人ひとりの専門性の向上を目指したい。更に、乳幼児期の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたり生きる力を育むことに繋がっていることを職員皆で認識し、乳幼児が主体的で対話的な深い学びが展開できるような環境をつくるなど発達に即した教育・保育内容の充実を図りたい。

確実に進む少子高齢化、大きく変動する社会情勢、コロナ禍が続く中、こども園に求められている福祉的側面を重視し、園児の安心・安全を確保するとともに、地域の子育て支援、働く保護者をサポートする病後児保育、統合保育の推進への取り組みなど地域の中での存在意義を確立していきたい。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」

マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

- (ア)「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」をより実態に則したものに作り直し、職員間で共有化する。年間、月間指導計画、日誌等を関連付けて作成、記録し会議の中でお互いに実践報告しながら意見を出し合い保育の質向上に努める。
- (イ) 聖隷の保育の基本となるキリスト教保育を主に、ピアジェの構成論をベースとした勉強会、園内伝達研修を通して、より具体的に学ぶ。
- (ウ) 聖隷保育学会はリモート型で行うなど学びへの姿勢を継続していく。職員が主体的に疑問や課題を見つけて、解決するために互いに取り組み、乳幼児の教育・保育の醍醐味や達成感を味わうことにつなげる。
- (エ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。課題を明確

にし、改善し目標をもって実践することでレベルアップを目指す。

2. 和合せいれいの里の施設利用者との交流・連携をすすめる

(ア) 恵まれた環境（高齢者、障害児者、乳幼児など色々な人が身近で生活している）を最大限にいかす。コロナ禍の中でもできることはないか工夫し、交流を継続し、聖隷の理念とあわせて「地域共生社会」のあり方を確認しあう。

3. 地域における公益的取り組み

(ア) 在園家庭及び地域の子育て家庭への育児に関する発信を強化する。
(イ) 中高生の職場体験やボランティアの受け入れを継続し、次世代育成に貢献する。

4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 保育浜松エリア協同で保育システムの有効な使い方を検討し、業務省力につなげる。
(イ) 保育浜松エリア主任・副主任会を継続し職場内の問題解決に向けて具体的に取り組みをすすめる。現場の声がいかされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	36名	36名	40名	40名	40名	210名
利用定員（1号）	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	18名	36名	36名	42名	42名	42名	216名
一日平均入所者数	11.9名	35.7名	36.0名	39.0名	34.0名	37.0名	193.6名
年間入所延人数	143名	428名	432名	468名	408名	444名	2,323名
入所率	66.2%	99.1%	100%	92.9%	81.0%	88.1%	89.6%
開所日数（延べ）	293日（教育週数44週）						
サービス活動収益	229,485千円						
職員数（常勤換算）	41.7名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

外国人児童保育事業

親子ひろば

病児保育事業（病後児型）

聖隷浜松病院ひばり保育園

2020年4月より定員を200名へと引き上げての運用が開始された。従業員枠の入所対象を聖隷浜松病院で働く全職種へと変更されたが、看護師、医師の利用希望が多く、特に0歳児、1歳児の入園需要が増加している。また、乳児クラスの定員が増員したことにより、幼児クラスへの利用継続も増えてきている。量が拡大する中で、専門性を持った質の高い保育・教育を展開する為には、保育者一人ひとりの専門性の向上を図り発達の見通しをもった連続的な保育を構築する必要がある。キリスト教保育を基盤とした保育理念の共有化を図ると共に、2020年度から実施しているピアジェの構成論に基づいた子どもの発達と子どもを見る視点を養う園内研修を継続し、職員同士学び合う中で保育実践へとつなげ保育の質の向上を目指す。

聖隷児童クラブ「アイビー」の拠点を園舎内に移して一年が経過し、継続利用児童に加え新規の利用希望もあり着実に利用者数が増えている。利用学校の追加に伴い、送迎範囲が広域となる為、送迎ルートや公用車の運用方法の検討を行い、安全な送迎体制を整える。今後、利用定員を超える需要が考えられるため、2022年度からの運用に向けて利用に際しての規約変更を行っていく。

また、新型コロナウイルス感染症などの感染予防対策を徹底し、衛生的で安全な保育環境作りを行っていく。目標参画、保育職ラダーを活用し職員一人ひとりが課題を明確にし、主体的に行動できるように支援していくと共に、働きやすい職場環境を構築していく。

【施設理念】

- ・キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す。

【経営方針】

- ・職員の資質向上を図り、利用者との信頼関係を構築して利用増（特に幼児クラス）に繋げる。
- ・園内研修や自己研鑽できる環境をつくり、保育所保育指針、キリスト教保育の理解を深めると共に、発達理論をもとに職員一人一人が保育根拠をもちながら保育実践をしていく。
- ・子どもたちが主体的に生活、遊びが展開されるよう、必要な玩具や備品を揃える等の物的環境を整える。
- ・地域や小学校との連携を図り、子どもたちの育ちを支える。

【事業・運営計画】

1. 質の高い保育サービスの提供

- (ア) 構成論に基づく子どもの発達や新保育所保育指針への理解を深め、子どもの知的な思考発達、教育的側面に視点をあてた活動を展開する。発達の見通しをもち、連続性のある保育を築いていく。保育、子どもの育ちを可視化し、保護者へ発信していく。
- (イ) 自己評価を行い、園の強み弱みを把握して改善に努め、利用者に還元する。
- (ウ) 聖隷のこども園・保育園と連携を図り、保育学会での学び合いを深め、自園の保育に生

かす。

2. 専門性の向上を図る。

(ア) 研修計画に沿って WEB 研修を含めた園外研修への参加を促進して学びの機会を増やすとともに、キャリアアップを図る。

(イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々課題を明確にして目標達成に向けて取り組むことを通しスキルアップを図る。

(ウ) 園内研修を充実させ、子どもを知る楽しさを味わい、実践に向けての意欲を高め職員の自主性を育む。

3. 職員の働きやすい環境づくり

(ア) 保育システムの有効活用と時間の使い方を精査し、業務の省力化、記録業務時間の確保を図る。

(イ) 風通しのよい職場風土づくりをするためにも、園内で保育士交換を実施し互いの保育を共有し活発な意見交換ができるような環境を作る。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 育児講演会や人形劇などの催しを企画し、回覧板やホームページなどで子育て家庭に参加を呼び掛ける。

(イ) 住吉地区の文化展などに参加、出品し、地域との連携を深めて相互理解、自助共助につながる。城北小学校や地域の交友会との交流の機会を新規に作る。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（従業員枠）	30名	30名	30名	30名	30名	30名	180名
利用定員（地域枠）	6名	7名	7名	-	-	-	20名
利用定員合計	36名	37名	37名	30名	30名	30名	200名
一日平均入所者数	15.9名	42.8名	27.3名	25.0名	7.0名	11.0名	129.0名
年間入所延人数	191名	514名	327名	300名	84名	132名	1,548名
入所率	44.2%	115.8%	73.0%	83.3%	23.3%	36.7%	64.5%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	219,858千円						
職員数（常勤換算）	36.4名						

【提供事業】

延長保育事業

乳児保育事業

学童保育事業

聖隷のあ保育園

2021年度は開園3年目をむかえる。市街地の中心部に位置し、待機児童対策、近隣企業に就労の家庭、近隣の子育て家庭の支援を併せて行ってきた。2020年度は、少人数の園の特性を活かした質の良い保育の提供とニーズに合わせた援助の継続を目指し、保護者支援についての研究を進めた。また、コロナ禍における行事のあり方や対応について法人内の聖隷こども園・保育園と情報共有し、自園でできることを考えながら保育をすることができた。引き続き、健やかな子どもの成長発達に合わせた安心、安全な保育を継続していく。更に、保護者支援の研究を深め、子育ての悩みや不安に寄り添い、各家庭に合わせた援助の継続を目指すこととする。また、連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜日、特別保育期間の共同保育などにおいて連携を図ることを継続していきたい。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てができるよう支援する。

【経営方針】

1. キリスト教保育を基盤に、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う。
2. 定員19名という少人数の園の特性を活かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整え保育を行う。
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う。
 - (ア) キリスト教保育を基盤に、聖隷の保育を形づけていく
 - (イ) 園内勉強会で自園の研究を深め、ニーズに合わせた保護者支援を行っていく。
 - (ウ) 養護と教育が一体になった保育を行うために、子どもの成長発達に関連付けて子どもを観る視点、子ども理解に努める。
 - (エ) 少人数の乳児保育の利点を活かした保育を行う。個々に合わせた丁寧な関りを意識する。
 - (オ) 保育環境を子どもの発達と併せて考え、環境と保育内容を常に見直し改善していく。
2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。
 - (ア) レイバー表を用いて職員の動きを可視化し意識することで、業務省力につなげる。
 - (イ) 職員間で、互いにコミュニケーションをはかり、報告、連絡、相談を徹底する。
 - (ウ) 職員が働きやすい環境を整え、心身の健康維持に努める。
 - (エ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育にあたり協力体制を整える。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て家庭の相談に応じ、保護者理解、育児支援に努める。
- (イ) 自治会に向けて園の情報を発信し、交流を通して関係を深めていく。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
利用定員(3号)	6名	6名	7名	19名
一日平均入所者数	4.3名	7.8名	5.3名	17.4名
年間入所延人数	51名	93名	63名	207名
入所率	70.8%	129.2%	75.0%	90.8%
開所日数(延べ)	293日			
サービス活動収益	42,556千円			
職員数(常勤換算)	8.0名			

【提供事業】

延長保育事業

外国人児童保育事業

こうのとりの保育園

2020年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、園での過ごし方や行事の持ち方等において大きな変化が求められた年であった。今後も感染拡大防止の為、今まで以上に衛生管理を徹底し、園児の体の健康のみならず心の健康にも気を配り、保護者や公的機関との連携を取りながら保育活動を続けていく。

2021年度は、「子ども主体の保育」に重点を置き、保育の質の向上に力を注ぎたい。更に、2021年4月より新たに保育ICTシステム「コドモン」が導入される。これによって職員の負担となっている書類の作成や記録、報告業務を省力化することで、子どもと向き合う時間や心理的ゆとりを増やし、専門職として誇りと自覚をもった保育を実践する。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取組み

(ア) 教育、保育理念を理解し実践する

- ① 乳幼児期の養護と教育を一体的に考え、発育を促すための心地よい生活を基盤に、一人ひとりの成長に合わせた教育、保育を行う。
- ② 子どもの興味、関心から、子どもの身体的、知的、情緒的な発達を促していく環境を用意し、子どもが自ら考えて遊びを行う事が出来るように、空間的・時間的な保証をする。
- ③ 自分の役割を理解し、仲間へ貢献し、個の力を発揮することでチーム力の向上に繋げる。
- ④ 同職種や異なる職種の職員それぞれが専門性を活かし、連携し協働することで、課題解決に取り組む。
- ⑤ 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて分析し、個々のスキルアップを図る。
- ⑥ 職員ひとりひとりが生きがいややりがいを持ち、職員ひとりひとりが専門職として誇りと自覚をもって業務にあたる事ができるようにする。

(イ) 家庭と連携をして子育てを共有する

- ① 子ども達の様子や育ちについて、総会、懇談会、行事等を通して解りやすく伝え、有意義な時間を共有し、相互理解を図る。

- ② 保護者に保育参加を通して、園での子どもの様子や友達との関わりを見ていただき、面談を通して子どもの育ちを共有する。

2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

- (ア) 保育磐田エリアで保育システムの有効な使い方を共有し、業務省力につなげていく。
 (イ) 保護者との連絡手段としてアプリを導入し、園とのコミュニケーションを円滑に行い、園への安心感、満足度の向上を目指す。
 (ウ) 業務内容や会議体の見直しを図り、時間の使い方を精査する。
 (エ) 職員間で円滑なコミュニケーションを図り、働きやすい職場風土を作る。

3. 統合保育の実践

- (ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う。
 (イ) 「磐田市発達支援センターはあと」の巡回相談を利用し、積極的に働きかけ、専門的な観点の理解を深め、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 他機関と連携し、子育て家庭の抱えている課題の相談をきめ細やかに行い、支援センターに反映させていく
 (イ) 地域住民や小中高校生との交流など多世代の方たちが子育てに関わる機会をつくる

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	20名	20名	20名	20名	20名	20名	120名
一日平均入所者数	15.3名	24.8名	26.0名	26.0名	25.0名	27.0名	144.1名
年間入所延人数	183名	298名	312名	312名	300名	324名	1,729名
入所率	76.3%	124.2%	130.0%	130.0%	125.0%	135.0%	120.1%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	206,907千円						
職員数（常勤換算）	39.3名						

【提供事業】

延長保育事業	一時預かり事業（一般型）
地域子育て支援拠点事業	病児保育事業（病後児型）
休日保育事業	学童保育事業

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ“オリーブ”

2021年度は新入職員数名の入職や異動の職員もあり、園全体の職員構成が変わる。その為、副主任やクラスリーダーへの意識付けと役割を明確にし、人材育成に力を入れる。また、コロナ禍で外部研修が減ってきている中、園の核となる“一人ひとりを大切にする保育”を実践するために、園内での学びの場・研修の時を充実させる。

2020年度に続き、コロナ禍での保育が続くことが予想される。感染症対策を徹底しながら日々の保育、行事の在り方を今一度考える必要性がある。また、感染症対策として保護者の入室制限や、行事参加人数の制限をすることもあり、保護者とのコミュニケーション不足も課題の一つとなっている為、より良いコミュニケーションをとる方法を見出し、関係を築けるようにする。

放課後児童クラブオリーブは、利用希望者が増えている。多くの利用がある中で放課後の児童の居場所として安心して過ごせる場の提供と充実した学習支援を行う。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る。
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる。
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践する

- ① 保育 ICT システムを導入することで、業務省力化を図り、子どもと丁寧に関わる時間を増やしたり、効率よく教材準備等をすすめる。
- ② ワクワクするあそびの提供や子どもの表現したい気持ちを引き出す保育等を実践できるスキルを身につける。
- ③ 言葉の研究を通して、子ども自身が自分の気持ちを言葉で表現できる環境をつくる。
- ④ SDGs の目標の中の“すべての人に健康と福祉を”・“質の高い教育を”の2項目に焦点を当て、こども園できる事を考え実践する。

(イ) 保護者支援を実践する

- ① 保護者に対して保育理念や保育目標に基づいた実践事例を提示することで、子どもの様子や成長を伝える。また、園便り、クラス便り、ドキュメンテーションを活用し、国籍を問わず解りやすく子どもの様子を伝える。
- ② 言葉の研究を行う中で保護者も巻き込み、子どもに対する言葉の掛け方や関わり方を考える機会とする。

2. 統合保育・他機関との連携

- ① 保育者自身が統合保育の在り方を学び、理解し、子どもが共に育ち合う環境をつくる。
- ② 虐待が疑われる家庭や障害のある保護者（精神疾患・知的障害）、配慮が必要と思われる子ども（家庭）の問題は、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全と情緒の安定を図る。

3. 食育の推進と環境

- ① 栄養士、調理師、保育教諭が連携を取り、野菜づくりや食育絵本の内容を献立に反映させた活動を通して、子どもの食への関心を高める。

4. 地域における公益的な取組

- ① 畑や田んぼでの活動を通して高齢者とのつながりを持ち、行事参加等で交流を図る。
- ② 看護師による地域の方への健康管理（血圧測定・健康体操指導）を年2回実施する。
- ③ 年16回の園庭開放を実施し、「こども園での生活」、「遊びの経験」、「身体測定」「歯科講習」等を通して育児相談の場を提供する。

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

2020年度、学習する環境や興味のある遊びを充実させられるように環境を整備した。

そのような中で更に主体性をもって過ごせるよう、子どもの様子に合わせてながら環境を整える。

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生 児童予定数：通常38名（長期休み：45名）

対象小学校：原則・・・東部小、田原小、福田小 *田原・福田については送迎車利用

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	28名	28名	36名	36名	36名	36名	200名
利用定員（1号）	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	28名	28名	36名	41名	41名	41名	215名
一日平均入所者数	15.0名	30.0名	36.0名	37.0名	41.0名	40.0名	199.0名
年間入所延人数	180名	360名	432名	444名	492名	480名	2,388名
入所率	53.6%	107.1%	100.0%	90.2%	100.0%	97.6%	92.6%
開所日数（延べ）	293日（教育週数45週）						
サービス活動収益	254,573千円						
職員数（常勤換算）	44.5名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型）

外国人児童保育事業

病児保育事業（病後児型）

学童保育事業

聖隷こども園こうのとり豊田

2021年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を図りつつ、園児の健全な心身の発達と家庭及び地域の実態に即した適切な教育及び保育並びに子育て支援が行えるように計画や実践を行う。

「学校の新しい生活様式」を参考にしつつ行事等の在り方についても子どもの姿を踏まえながら考えていく。保育 ICT システムを活用した業務が4月から本格的にスタートする。在宅・福祉サービス事業部や磐田地区の保育園・こども園と連携を図りながら進めていき、業務改善や保育の可視化、保護者との連絡ツール等として活用できるようにする。園児一人ひとりの興味や関心、成長や発達等を子どもの姿より多角的に捉え、個に応じた援助を行う事で多様性を認め合いながら共に育ち合う環境を作る。研修や園内の勉強会等を通して、職員一人ひとりが自己研鑽できる職場環境の整備や支援を行い、園全体の質の向上につなげる。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13 : 34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① 乳児保育で、ゆるやかな育児担当制保育を継続し、園児（特に乳児）が自分の生理的リズム、発達や行為のテンポに応じて見通しを持ち、主体的に生活できるよう援助する。
- ② 幼児の主体性を大切にした教育・保育を目指し、園児の成長や発達、興味や関心を子どもの姿より捉え、定期的に見直しながら保育環境や日課等を整えていく。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 連絡帳や保育 ICT システムを通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図を丁寧に伝えることで保護者との相互理解を深める。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策を図りながら保育参加を推奨し、園での子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行う。面談を通して子どもの育ちを共有する。

2. 保育の専門性を向上と働きやすい職場環境の構築

(ア) 新型コロナウイルス感染対策に考慮しつつ、教育・保育に必要な知識と技術を習得する為、オンライン等を活用し、外部研修に積極的に参加する。園内で情報共有を行うことで、保育の幅を拡げ具体的な実践につなげる。(キャリアアップ研修・実技研修・海外研修・給食研修・衛生管理研修等) また、園内研修(ビデオカンファレンス・グループディスカッション)を通して、教育・保育について語り合う環境を作り協働性を育む。

(イ) 人材育成ツールとして保育職ラダーや自己評価を活用し、具体的な保育力の向上を図る。

(ウ) 保育 ICT システムの活用方法について使用しながら話し合いを重ね、業務改善へと繋げていく。

3. 統合保育・専門機関との連携

(ア) 発達の良い気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)は、子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する。

(イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学ぶ。

(ウ) 小学生と園児の交流や小学校教諭との情報交換会を行い、互いに教育の理解を深める。また、小学校教育との更なる円滑化を図る為に、参観等を計画し実践する。

4. 地域に根ざした取り組み

(ア) 地域の子育て家庭への助言や相談を行う機会を設ける。

(イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける。

(ウ) 新型コロナウイルス感染対策を行いながら地域ふれあいクラブとの交流方法を検討し行っていく。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭や管理栄養士等の専門的育児講座を企画する。
(離乳食講座・BP プログラム等)

(イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	23名	24名	25名	25名	25名	140名
利用定員(1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	18名	23名	24名	30名	30名	30名	155名
一日平均入所者数	13.4名	24.0名	28.0名	33.0名	35.0名	34.0名	167.4名
年間入所延人数	161名	288名	336名	396名	420名	408名	2,009名
入所率	72.2%	104.3%	116.6%	110%	116.6%	113.3%	107.7%
開所日数(延べ)	293日(教育週数45週)						
サービス活動収益	209,086千円						
職員数(常勤換算)	38.7名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型・幼稚園型)

親子ひろば

学童保育事業

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘・聖隷訪問看護ステーション富丘

日本の少子高齢化と人口減少が進行する中で、持続可能な社会を目指すために私たちに与えられた課題は大きい。国は待機児童解消を図るための新たな目標として、2024年度末までに新たに14万人分の保育施設を確保することを盛り込んだ「新子育て安心プラン」を策定した。保育の量に目が注がれている中、私たちは保育の質にこだわっていききたい。

こうのとり富丘では、こども園と児童発達支援そして訪問看護ステーションの3事業が連携し合い、より質の高い乳幼児の教育・保育、療育を提供することを可能としている。3事業それぞれが目標を効果的に果たし、成果をあげていくことで、地域に社会に貢献していききたい。目標を掲げ、お互いの専門性を活かし刺激し合って、より高い効果をあげていくことを目指す。

【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 施設運営

- (ア) 職員の意見を反映させる場を設定し、安全・安心な環境をつくる
- (イ) 多職種の職員がお互いの実体験をもとに語り合い、複数の視点を持ち、視野を広げ、利用者支援に活かす
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、職員のスキルアップを行い、専門職としてのやりがいをつくる
- (エ) 安定した運営ができるよう、適切な職員配置、コスト管理を行う

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 施設理念に基づいた保育研究や保育実践を行い、保育の質を高める
- (イ) 保護者向けにミニ講演会を企画し、保健・医療の観点から子育てを考える機会とする
- (ウ) できる限り少人数で保育を行い、ひとり一人の育ちを丁寧に観ることで、“子どもが何を経験しているか”を考え、何が育っているかを保護者と一緒に考え合う機会を持つ
- (エ) 3事業の専門性を活かし、定期的に事例発表を行い、お互いの専門性を活かし、吸収し合い、地域福祉の視点を広げる。

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 客観的な指標を基に、領域を意識した療育プログラムを作成・実行する

- (イ) 保護者が子どもと向き合いつつ、自身の社会活動や自己発揮に向けた行動を支える
- (ウ) 職員が、持っている力を十分に発揮しながらチームで支援にあたる(訪問療育の開始)
- (エ) 安定経営に向け、施設管理を適切に行いつつ新規利用児を計画的に受け入れる

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 利用者・家族のニーズに沿ったケアを実施する
- (イ) 施設内、事業所内での役割達成のため、自ら行動し、やりがいを創造する
- (ウ) 磐田地区聖隷事業所との連携を強化し、利用者の確保、安定した経営を目指す

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 園庭開放を行い、子育て中の親が孤立しないように保護者同士の交流の場とする
- (イ) 地域住民や小・中学生との交流など、多世代の方たちが子育てに関わる機会を作る
- (ウ) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

【数値指標】

■聖隷こども園こうのとり富丘

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	20名	20名	20名	21名	21名	120名
利用定員(1号)	-	-	-	3名	3名	3名	9名
利用定員合計	18名	20名	20名	23名	24名	24名	129名
一日平均入所者数	15.0名	20.0名	22.0名	23.0名	26.0名	19.3名	125.3名
年間入所延人数	180名	240名	264名	276名	312名	232名	1,504名
入所率	83.3%	100%	110.0%	100%	108.3%	80.6%	97.2%
開所日数(延べ)	293日(教育週数 45週)						
サービス活動収益	187,666千円						
職員数(常勤換算)	35.6名						

【提供事業】延長保育事業・一時預かり事業(一般型・幼稚園型)・病児保育事業(病後児型)

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利用者定員	10名
利用者延べ人数	2,698名
一日平均利用者数	11.2名
稼働率	111.97%
稼働日数(延べ)	241日
単価(一人一日当り)	16,500円
サービス活動収益	44,517千円
常勤換算職員数	9.2名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	73名
月間訪問件数	320件
年訪問件数	9,544件
単価	9,544円
サービス活動収益	35,550千円
常勤換算職員数	5.8名

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ (放課後児童クラブ)

子どもたちと一緒にワクワクできるようなビジョンをかかげ、保護者と共に子どもたちの育ちを喜び合える保育園にしていきたいと思う。新しい生活様式の中、園の役割や求められているものについて、応じることと保護者と共に考えていくことの精査を職員の声を聴きながら進めていきたい。

職員間のスムーズな連携、協働が行える組織をイメージしながら、職員一人一人の個性が十分に発揮できるよう適切な役割分担を心掛けていく。保育園での生活が総合的に展開できるよう、全体的な計画をもとに、再度保育の内容が組織的計画的に構成され創意工夫を意識した職員集団を目指していきたい。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 —エフェソ 5-2—

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上の為の取り組み
 - (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を大切に、ひとりひとりの声や思いを保育実践に繋げていく。また、子どもや保護者の些細な違和感に気づき、早期アプローチを心がける
 - (イ) 異年齢児や小学生などとの交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、子どもが自ら活動を選択できる場を設け、興味や関心の幅を広げる
 - (ウ) 子どもたちの様子や育ちについて、保護者と話し合える場や懇談会の実施方法を検討し、有意義な時間を共有できるよう工夫する。また、全体の中の個への対応を大切にしながら、必要であればそれぞれの家庭へかかわり方を伝えるなど保護者と共有していく
 - (エ) 園の理念や思いを、保護者に伝えていくことを意識していく
 - (オ) 日々の食に興味を持ち、栄養士の協力を得ながら食育への取り組みを行う。また、野菜の栽培や収穫だけでなく、食品ロスや野菜くずの再利用などについて職員が考えたり課題を見出したりする
 - (カ) 放課後児童クラブ(のがみっこくらぶ・にじっこくらぶ)は、小学校との情報交換や共有を行っていく。また、子ども達の安心できる生活の場となるよう意識を持ちつつ、保護者と共に考える姿勢を持ち、子どもの育ちを支えていく
 - (キ) 保育園と児童館、放課後児童クラブが連携をとり、協力してできることを検討する
 - (ク) 職員会議・パート会議の在り方を検討し、個々の思いや考えを伝え合えるような機会を取り入れていく

2. 施設の防災力の強化

- (ア) 自園の防災力強化を図るため、園内研修から見てきたものをもとに、防災に対して職員全体が意識を高めて必要なことやできることを考えていく
- (イ) 引き取り訓練の内容を検討する
- (ウ) 危機管理委員会で、ケガ報告やヒヤリハットの検証を行い職員間で周知する

3. 地区聖隷施設との連携

- (ア) 無理のない形での高齢者との交流を推進する（聖隷逆瀬川デイサービスセンター・結いデイサービスセンター・宝塚エデンの園・宝塚栄光園）

4. 「人づくり」への取り組み

(ア) 研修への参加など

- ① 職員が専門性を高めるための研修とともに、教育アドバイザーや積み木講習など実践を伴った研修への積極的な参加
- ② 聖隷保育学会・階層別研修・あゆみ合同研修・キャリアアップ研修に参加
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
- ④ 園内研修で興味のある事に取り組み、自主性や積極性を養い保育の質の向上を目指す
- ⑥ 保育士ラダーの活用により、目的意識の明確化を図る。日々の保育をお互いに確認し合うなど保育の振り返りを実施

(イ) 次世代育成

- ① トライアルウィークの中学生や高校生ボランティアの受け入れを実施する。実習生を積極的に受け入れ採用へつなげる

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 安全な環境のもと、かけっこ教室や積み木遊びを計画する
- (イ) 地域のニーズを探り、子育て支援プログラムの充実化を図る
- (ウ) 子育て支援担当者による相談事業の充実

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	10名	12名	14名	22名	23名	90名
利用定員（1号）	-	-	-	0名	0名	0名	0名
利用定員合計	9名	15名	14名	14名	28名	28名	108名
一日平均入所者数	9名	15名	14名	14名	28名	28名	108名
年間入所延人数	105名	180名	168名	168名	336名	336名	1293名
入所率	97.2%	150%	116.7%	100%	127.3%	121.7%	119.7%
開所日数（延べ）	293日（教育週数 3.5週）						
サービス活動収益	195,521千円						
職員数（常勤換算）	30.7名						

【提供事業】

一時保育事業、延長保育事業、障がい児保育、子育て支援事業、学童保育事業

野上児童館

「乳幼児と保護者の支援」「中高生世代への居場所提供」を意識しながら、心身ともに健康で自身の存在価値を認め、社会の一員としての道徳心、適応力が身につくサポートを心掛けていきたい。また、児童館の役割や職員の気付きなど職員間で共有しながら子育て支援の形を考えていく。

配慮を必要とする家庭への支援については、専門機関との速やかな報告相談等の連携を心掛け、早期対応に努めていきたい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す。

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや、子育て不安を抱える保護者の心やすらぐ児童館、地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上
 - (ア) コロナ禍でできる乳幼児・小学生向けのプログラム等、様々な活動を企画する
 - (イ) 年間のテーマを持ち、食育の取り組み方を模索する
 - (ウ) 「ホールで遊ぼう」のプログラム内容を検討し実施方法を考える
 - (エ) 玩具やゲーム等、利用者が安心安全で遊べる環境作りを目指す
 - (オ) 放課後子ども教室等の活動に協力できるよう体制を整えていく
 - (カ) 児童館と保育園や学童保育が協力して行うことができることを検討する
 - (キ) 中高生の居場所作りとして毎月第1水曜日に19時まで開館延長を行う
2. 地域との連帯の強化
 - (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
 - (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し、さらに地域の協力を得ながら、ニーズに見合った実施を進め定着させる
 - (ウ) コロナ禍で行う地域の行事等に児童館ができることを検討し、地域とのつながりを深めていく
 - (エ) 来館者の悩みや思いに寄り添いつつ、児童館としての支援方法を模索する
3. 職員の資質向上
 - (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
 - (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

【数値指標】 ひろば型3名 出前児童館3名

逆瀬川あゆみ保育園

2019年度から取り組み始めた「発達と玩具」の研究については2021年度も継続をし、それぞれの研究を園全体としてどのように実践していくのかを考えていく。2020年度から継続するコロナウィルス感染拡大防止策の中、園の行事について、子どもや保護者にとってどのような形が望ましいのかを考え実践していきたい。2021年度はコミュニケーションについての研修等を園全体で開催し、職員間のコミュニケーションを深めることに重点を置き、保育士の質の向上、正職員とパート職員の横のつながりを大切にしていく。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る

- ① 保育理念、施設目標を確認し、「主体性を育む保育」の浸透をめざす。
- ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。
- ③ 子どもの興味・関心があることに目を向け、スピード感を持って環境を整える。

(イ) 保育者として基本に立ち返る

- ① 学習会を実施し、定型発達の基本を学び、子どもへの適切な関わりと援助を行う。
- ② 専門性を意識し、保育を理論化して捉え、保育計画を立案していく。
- ③ 保育の基本スキルに加え、保育者としての経験から培われた柔軟性をプラスして保育に取り組む。
- ④ リズム活動やわらべうたを保育に取り入れ子どもの体幹を育てる。

(ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ① 園内研修や「あゆみ合同研修」を実施し、保育の専門性を高める。
- ② 保育者の興味にあった外部研修に参加し、学んできた事を職員間で共有する。
- ③ 保育の中での疑問や気づきを掘り下げて研究し、学会などで発表する。
- ④ 全体的な計画を確認し子どもの成長を見とおし、理解を深めカリキュラム作成に反映させる。

2. 保護者との交流

(ア) 実施可能な限り、保育参観や保育参加・懇談会・個別相談・送迎時の会話・おたより・連絡ノート・ドキュメンテーションボードを通して活動の様子を知らせる。

(イ) ICT化による保護者とのコミュニケーションを考え実践する。

3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携

(ア) 合同研修や学会を通して情報交換をし、連携を図ることで共に学び歩いていく。野上あゆみ保育園は3歳児以降の受け入れ先となる為、同じクラスになる3歳児との交流にICT等を活用して取り組み、3歳児の不安を軽減できるようにする。また、保育士間の交流・連携も大切にする。

4. 地域とのつながり

(ア) 人数を制限しながら、コロナによる育児孤立を防ぐため、地域参加プログラム「すくすく」や、園庭開放、室内開放を通して保護者同士の繋がりを育て、育児支援をしていく。

(イ) 一時保育は、人数を縮小しながらも、子育てに難しさを抱える保護者の支援も行っていく。受入れ状況は、ホームページを利用して随時知らせる。

5. 食育

(ア) 栄養士を中心に、保護者に向けて行事やお便りを通して食に関する情報の発信を行う。

(イ) 栽培やクッキング、食べ比べ、給食を通じて旬の食材の名前や役割や味、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく。行事食を通じて季節や日本の文化に触れる。

6. 防災訓練

(ア) 毎月の防災訓練に加え、災害時、園舎が使用不可になった場合を想定し、野上あゆみ保育園に避難する訓練を実施する。停電対策の強化につとめる。

7. 働きやすい環境づくりに取り組む

(ア) 働き方改革の一環として、ICT環境 コドモンを導入し事務作業軽減化を図る。副主任を中心に書類の整理をし、業務の省力化を考え実践する。

8. 地域における公益的な取り組み

(ア) コロナ禍の中、地域の高齢者との交流の機会を持つことが出来るように手立てを考える。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	10名	10名	12名	13名	0名	0名	45名
利用定員(1号)	-	-	-	0名	0名	0名	0名
利用定員合計	10名	10名	12名	13名	0名	0名	45名
一日平均入所者数	10名	13名	14名	13名	0名	0名	50名
年間入所延人数	127名	156名	168名	153名	0名	0名	604名
入所率	105.8%	130.0%	116.7%	98.1%	—	—	106.7%
開所日数(延べ)	293日(教育週数 3.5 週)						
サービス活動収益	138,062千円						
職員数(常勤換算)	22.7名						

【提供事業】一時保育、延長保育推進事業、子育て支援事業、障がい児保育

御殿山あゆみ保育園

2021年度も引き続き、保育の質の維持・向上に努める。保育者は子ども一人ひとりの興味や関心に目を向け、保育を展開していくスキルを身につけ、主体的に保育に取り組む。日常の保育実践の質を高めるために保育者が学ぶ機会を増やせるよう、リモートや小規模での研修会の参加、園内研修の充実を図る。また、保育のねらいや大切にしていることを会話やおたよりを通じて保護者に積極的に発信していき理解を深めていく。同時に ICT を取り入れ、事務作業の軽減に努め保育者の業務改善につなげる。新型コロナウイルスの対策を継続的に行う。コロナ禍で行った昨年度の行事を職員間で振り返り、話し合う。そして行事の在り方を「子どもにとって大切なことは何か」という視点でもう一度見直す。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る。
2. 一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす。
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる。

【事業・運営計画】

1. 聖隸の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、「一人ひとりを大切にする保育」を具体的に実践する。
 - (イ) 研修や話し合いを通してお互いの子供観や保育観を発信、共有して保育方針に沿って実践できる手立てや保育環境を共に考える。
2. 子どもたちが安心して園生活を送れるよう、特にかける言葉に意識しながら、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける。
 - (ア) 乳児期の身近な人との愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる事を繰り返しながら、自己肯定感、自尊心、他者に対する基本的な信頼感を育てる。幼児期においてはそこを土台に非認知力を育て、学びに向かう力、人間性等を培う。
 - (イ) 感染予防対策を取りながら異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えての関わりを大切にする。
 - (ウ) 発達に障害等を抱え、困り感を抱えた子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、研修会にも参加しスキルを高める。
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画の作成、実施する。
 - (イ) 保護者、子どもに向けての栄養士からの食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ。
 - (ウ) 苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む。

4. 子育て支援を通して地域のニーズを知り、保育園の役割を遂行する。
 - (ア) 保育士が保育室解放・園庭開放などを通して、子育て中の保護者の様々な思いにも寄り添いながら地域における子育て支援のニーズを知り、応えていく。
 - (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳児食・幼児食）の試食会、保育室開放、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを知り受け止める。
5. 職員研修の充実と人材育成
 - (ア) 専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する。
 - (イ) 行事・保育などで「子どもにとって大切なことは何か」を立ち止まって考える。
 - (ウ) 子どもの興味や関心に目を向け、園内で講師を招いての助言や研修会を行い、職員間の話し合いにより、保育を展開し実践していく。
 - (エ) 保育の中での学びや実践を発表し、学びの場として宝塚・浜松地区保育学会に参加する。
 - (オ) 保育士ラダーの活用、自己評価の実施により、各自の役割を考えて理解し、責任をもって仕事に従事することのできる人材を育成していく。
 - (カ) ICTを活用し、保育者の事務作業を軽減し業務の効率性を高める。
6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との三園の連携。
 - (ア) 3ヶ園で相互の交流をはかり、共に保育の質の向上に取り組む。合同研修会の実施。
7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）
 - (ア) 防災委員会で様々な観点から課題を出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む。
 - (イ) 地域との連携を視野に入れ、地域防災訓練にも参加する。
8. 地域における公益な取組み
 - (ア) 近隣高齢者デイサービスとの交流は、コロナ禍で出来ることを模索しながら進めていく。
9. 新型コロナウイルス等感染症対策
 - (ア) 職員、園児の検温と手指消毒を行い、体調の変化にも気を配る。園内の消毒と換気を定期的に行い、感染予防に努める。保護者と連絡を密に取り、万が一感染者が出た場合は迅速かつ適切な対応ができるよう準備しておく。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	15名	20名	20名	21名	22名	22名	120名
利用定員（1号）	-	-	-	0名	0名	0名	0名
利用定員合計	15名	20名	20名	21名	22名	22名	120名
一日平均入所者数	12名	24名	24名	25名	25名	25名	135名
年間入所延人数	148名	288名	288名	298名	300名	300名	1,622名
入所率	82.2%	120.0%	120.0%	118.3%	113.6%	113.6%	112.6%
開所日数（延べ）	293日（教育週数 3.5週）						
サービス活動収益	196,071千円						
職員数（常勤換算）	32.8名						

【数値指標】

【実施事業】

一時保育事業、産休明け保育、延長保育促進事業、地域活動事業、特別支援事業、その他

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であるために2021年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を、併設の保育園と連携をとりながら図っていく。また、虐待などの情報の収集、社会資源へ繋げるなど積極的に行いたい。

【施設理念】地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す。

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む。
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する。
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う。

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する。
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う。
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する。
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する。
3. 小学生集団のあそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する。
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する。
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する。
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る。
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす。
8. 職員の資質向上
 - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う。
 - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う。
 - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う。(発達、保育、障がい等)

9. 感染症対策

(ア) 対策として、利用者の検温、消毒、体調等を確認し、利用者名簿を作成、館内の環境整備や消毒を行う。及び、自由利用やイベント・講座等の形態を十分に踏まえ、児童館内及びその周辺地域において、利用者へ感染症の拡大を防止するため、最大限の対策を講ずる。

【数値指標】 延利用者予定数 19,500人 出前児童館の予定回数 144回
正職員1名 パート職10名 合計11名